

熊本県立大学長寿命化改修（建築）工事

図面番号	図面名称	図面番号	図面名称	図面番号	図面名称
	【 意匠図 】		【 意匠図 】		【 意匠図 】
A-01	建築改修工事特記仕様書（その1）	A-21	（小ホール・文学部棟）3階平面図	A-41	（アリーナ）屋根部分詳細図
A-02	建築改修工事特記仕様書（その2）	A-22	（文学部棟）4階平面図・屋根伏図	A-42	（環境共生学部北棟・南棟）1階平面図
A-03	建築改修工事特記仕様書（その3）	A-23	（文学部棟）屋根部分詳細図	A-43	（環境共生学部北棟・南棟）2階平面図
A-04	建築改修工事特記仕様書（その4）	A-24	（環境共生学部西棟）1階平面図	A-44	（環境共生学部北棟・南棟）3階平面図
A-05	建築改修工事特記仕様書（その5）	A-25	（環境共生学部西棟）2階平面図	A-45	（環境共生学部北棟・南棟）4階平面図
A-06	工事概要表・共通事項・付近見取図・配置図	A-26	（環境共生学部西棟）3階平面図	A-46	（環境共生学部北棟・南棟）5階平面図
A-07	下地補修特記仕様書	A-27	（環境共生学部西棟）4階平面図・屋根伏図【参考図】	A-47	（環境共生学部北棟・南棟）6階平面図・屋根伏図【参考図】
A-08	（本部棟）1階平面図	A-28	（屋外階段下倉庫）平面図		
A-09	（本部棟）2階平面図	A-29	（屋外階段下倉庫）立面図		
A-10	（本部棟）屋根伏図【参考図】	A-30	（屋外階段下倉庫）断面詳細図		
A-11	（本部棟）玄関庇詳細図	A-31	（大ホール）地階平面図【参考図】		
A-12	（中ホール）平面図	A-32	（大ホール・講義棟2号館・総合管理学部棟）1階平面図		
A-13	（中ホール）屋根伏図・部分詳細図	A-33	（大ホール・講義棟2号館・総合管理学部棟）2階平面図		
A-14	（サブアリーナ）1階平面図	A-34	（大ホール・講義棟2号館・総合管理学部棟）3階平面図		
A-15	（サブアリーナ）2階平面図	A-35	（講義棟2号館・総合管理学部棟）4階平面図		
A-16	（サブアリーナ）2階天井伏図	A-36	（総合管理学部棟）5階平面図・屋根伏図【参考図】		
A-17	（サブアリーナ）屋根伏図【参考図】	A-37	（アリーナ）1階平面図		
A-18	（サブアリーナ）断面図	A-38	（アリーナ）2階平面図		
A-19	（小ホール・文学部棟）1階平面図	A-39	（アリーナ）アリーナ上部平面図		
A-20	（小ホール・文学部棟）2階平面図	A-40	（アリーナ）屋根伏図【参考図】		

防水改修工事 ③ 1 降雨等に対する養生方法(土台)

2 既存防水の処理

3 既存下地の処理

4 アスファルト防水

5 改質アスファルトシート防水

6 合成高分子系ルーフィングシート防水

7 塗膜防水

8 脱気装置

9 ルーフドレン

10 改修用ドレン

11 シーリング

12 とい

③ 13 アルミウム製柱木

14 保証書の提出

15 事後調査

④ 1 ひび割れ部改修工法

2 欠損部改修工法

3 浮き部改修工法

4 モルタル塗替え

5 タイル張り

④ 6 下地処理

7 仕上塗材仕上げ

⑤ 1 改修工法

2 防火戸

3 アルミニウム製建具

4 樹脂製建具

5 網戸等

6 鋼製建具

7 鋼製軽量建具

8 ステンレス建具

5 建具改修工事

9 木製建具

10 建具用金物

11 自動ドア開閉装置

12 自閉式上吊り戸換気

13 重量シャッター

14 軽量シャッター

15 オーバーヘッドドア

16 ガラス

熊本県建築改修工事特記仕様書

公立大学法人 熊本県立大学

建築士事務所名 一級建築士事務所 熊本県知事登録第 555 号 株式会社 太宏設計事務所

設計者氏名 一級建築士 大臣登録第 366297 号 平田 有希雄

工事名称 熊本県立大学長寿命化改修(建築)工事

図面名称 熊本県建築改修工事特記仕様書(その2) 図面番号 A-02

Table with columns for construction items (e.g., 16 ガラス, 17 ガラス留め材, 18 ガラスブロック積み) and their specifications. Includes a table for glass specifications and a table for wood preservation methods.

Table with columns for construction items (e.g., 1 改修範囲, 2 既存床の撤去及び下地補修, 3 既存壁の撤去及び下地補修) and their specifications. Includes a table for wood preservation methods.

Table with columns for construction items (e.g., 10 軽量鉄骨壁下地, 11 ビニル床シート, 12 ビニル床タイル) and their specifications. Includes a table for vinyl flooring and a table for concrete floor preparation.

Table with columns for construction items (e.g., 20 壁紙張り, 21 モルタル塗り, 22 タイル張り) and their specifications. Includes a table for wall papering and a table for tile laying.

熊本県建築改修工事特記仕様書

公立大学法人 熊本県立大学

建築士事務所名 一級建築士事務所 熊本県知事登録第 555 号
株式会社 太宏設計事務所
設計者氏名 一級建築士 大臣登録第 366297 号
平田 有希雄

工事名称 熊本県立大学長寿命化改修(建築)工事
図面名称 熊本県建築改修工事特記仕様書(その3)
R2.4.1 版
図面番号 A-03

工事概要表

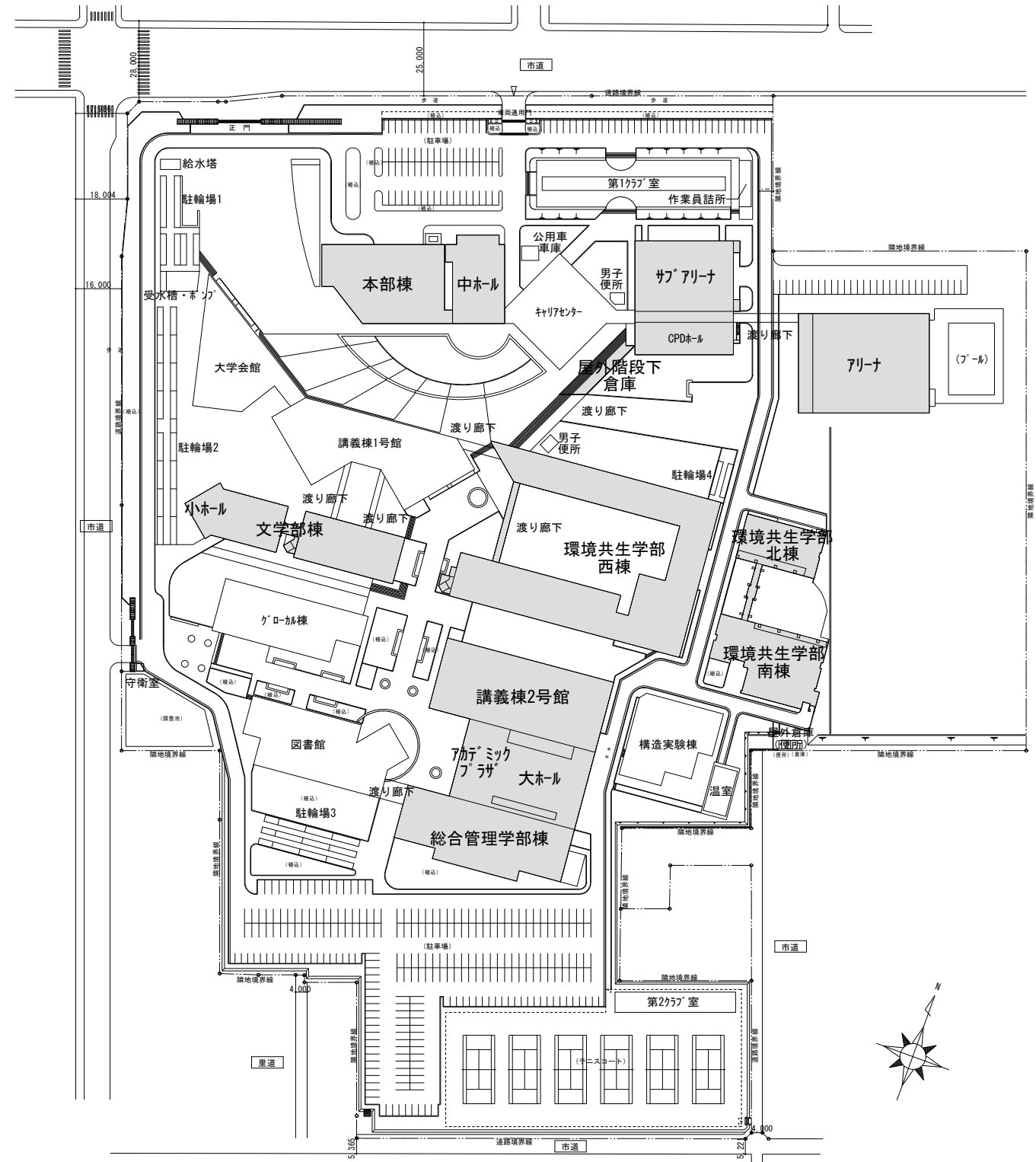
工事名称	熊本県立大学長寿命化改修（建築）工事					
工事場所	熊本県熊本市東区月出3丁目1番100号（キャンパス）					
延床面積 構造階数	本部棟：1,502.25㎡	R C造	2階建	屋外階段下倉庫：130.50㎡	R C造	1階建
	中ホール：466.69㎡	R C造	2階建	大ホール・講義棟2号館・総合管理学部棟：9,820.79㎡	R C造	5階建
	サブアリーナ・CPDホール：1,347.58㎡	R C造	2階建	アリーナ：3,414.03㎡	R C造	2階建
	小ホール・文学部棟：3,108.06㎡	R C造	4階建	環境共生学部北棟・南棟：5,576.39㎡	R C造	6階建
工事概要	環境共生学部西棟：6,317.80㎡					
	R C造 4階建					
工事概要	外部：屋根防水改修工事、吹付・塗装改修工事					
	内部：内部改修工事、建具改修工事、吹付・塗装改修工事					

共通事項

- 1 工事着手に先立ち現地確認を実施し、学校関係者にヒアリングを行った上で総合施工計画書を作成すること。
- 2 総合施工計画書には工事使用範囲、及び作業動線、学校使用者の動線を記入した図面を添付すること。
- 3 工事関係者と学校使用者の動線が重複する箇所の安全配慮を十分に行うこと。
- 4 学校行事のヒアリングを行い、工事工程の管理を十分に行うこと。
- 5 各種工事着手に先立ち、施工計画書を作成し、監理者の承認を受けること。
- 6 本工事に使用する材料は、原則として全てF☆☆☆☆の規格に適合するものとする。
- 7 工事範囲以外の建物の部分、又は既存工作物を破損した場合は現況復旧とする。
- 8 仕上げ材料の選定にあたっては施工前に監理者及び発注者と十分協議の上決定すること。
- 9 工事中に汚染や損傷の恐れのある材料及び箇所は、適切な方法で養生すること。
- 10 工事着手前に施工数量調査を行い、参考数量との比較を行うこと。
- 11 工事写真は、図面に記載している改修番号毎に着手前、施工中、施工後の記録を残すこと。
- 12 工事写真には工事名、位置、年月日入りの小黒板、及び撮影対象には主要寸法が読みとれる目盛を入れること。
- 13 施工前に施工調査を行い、改修部分のマーキングを行い監督員の検査を受けること。
- 14 マーキング状況は、全数写真管理すること。
- 15 復旧にあたり、工法の変更を行う場合は事前に監督員の承認を受けること。
- 16 完成写真は監督員の指示により撮影し、工事写真帳に貼付け、ファイル綴じの上、監督員に2部提出すること。
- 17 完成写真は、改修部分が改修前と対比できる様に整理すること。
- 18 復旧にあたり、仕上げは既存仕上げ(若しくは同等品)に合わせる。
- 19 各居室の備品を移動の際は、使用者と打合せの上、作業を行うこと。
- 20 吹付け・塗装を行う箇所は、素地ごしらえ又は下地調整を行うこと。



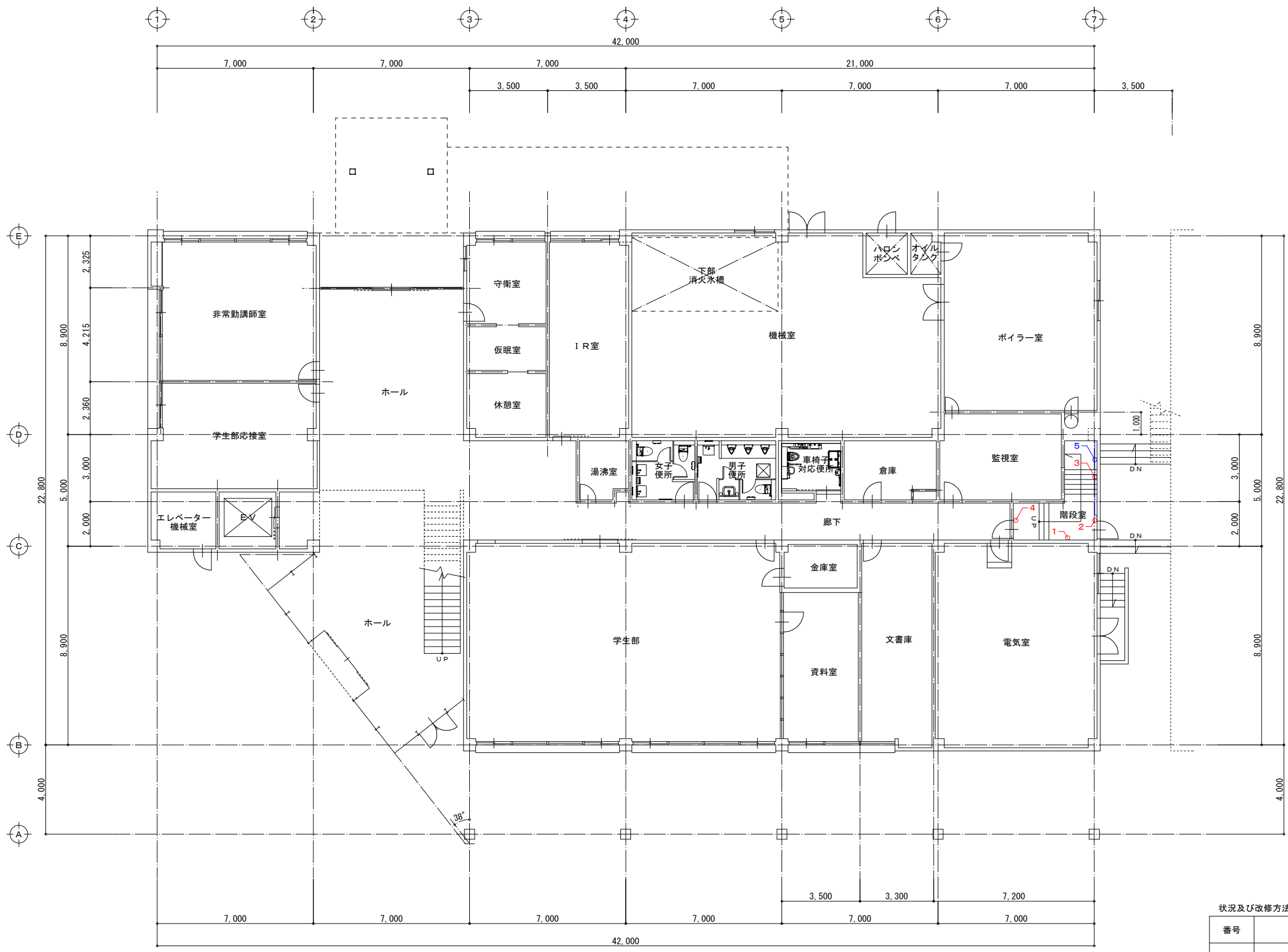
付近見取図



配置図

凡例
 改修対象建物を示す。

クラック補修	エポキシ樹脂注入工法(自動式低圧注入)	コンクリート欠損補修①	無収縮モルタル補修工法(浅い欠損)	コンクリート欠損補修②	無収縮モルタル補修工法(深い欠損)	モルタル欠損補修	ポリマーセメントモルタル充填工法				
<p>表面処理</p> <ul style="list-style-type: none"> ひび割れに沿って5cm程度の幅で、ディスクサンダーやワイヤブラシなどでレイタンスや塵埃を除去する。油脂分はシンナーを含んだウエスでふきとる。 <p>取付けパイプの接着</p> <ul style="list-style-type: none"> 取付けパイプをひび割れの中心位置にシール材で取付ける。座金部の4つの穴よりシール材が出てくるまで押しつける。 <p>シーリング・硬化養生</p> <ul style="list-style-type: none"> シール材でひび割れ部をシールする。その後、シール材の硬化養生を行う。 <p>注入器具の取付け</p> <ul style="list-style-type: none"> 取付けパイプに注入器具の接続パイプをはめ込む。 <p>注 入</p> <ul style="list-style-type: none"> 所定の配合比で混合攪拌した樹脂を注入器具の注入口から圧入する。注入器具のゴムチューブが、注入量制限筒の内面いっぱい膨らんだら注入を止め、次の注入口に移る。 <p>注入材の養生</p> <ul style="list-style-type: none"> 樹脂の硬化養生を行う。硬化は、ゴムチューブに触れるだけで確認できる。 <p>仕 上 げ</p> <ul style="list-style-type: none"> 取付けパイプを取り除いた後、シール部をディスクサンダーで平坦に仕上げる。必要のある場合は、塗装する。 	<p>欠損範囲の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> テストハンマー等で、打診し浮きの状況と範囲を調べてマーキングする。 <p>ハツリ・清掃</p> <ul style="list-style-type: none"> 電動カッターで欠損部周辺に溝を掘ってから電動ハツリ等で浮き等がある部分を撤去する。ハツリ取った部分をブロアー等で清掃を行う。 <p>下地調整材塗布</p> <ul style="list-style-type: none"> 下地調整材を塗布する。 <p>型枠建込み</p> <ul style="list-style-type: none"> 躯体表面に型枠を取り付ける。躯体と型枠のすき間にはすき間テープを貼り、漏れ止めを施す。型枠の合板には注入口と空気抜きを設ける。 <p>無収縮モルタル圧入</p> <ul style="list-style-type: none"> 無収縮モルタル材に水を入れ攪拌し、モルタルポンプ等にて圧入を行う。 <p>硬化養生</p> <ul style="list-style-type: none"> 圧入後、無収縮モルタルが硬化するまで型枠を存置しておく。硬化後脱枠を行う。 	<p>欠損範囲の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> テストハンマー等で、打診し浮きの状況と範囲を調べてマーキングする。 <p>ハツリ・清掃</p> <ul style="list-style-type: none"> 電動カッターで欠損部周辺に溝を掘ってから電動ハツリ等で浮き等がある部分を撤去する。ハツリ取った部分をブロアー等で清掃を行う。 <p>下地調整材塗布</p> <ul style="list-style-type: none"> 下地調整材を塗布する。 <p>型枠建込み</p> <ul style="list-style-type: none"> 躯体表面に型枠を取り付ける。躯体と型枠のすき間にはすき間テープを貼り、漏れ止めを施す。型枠の合板には注入口と空気抜きを設ける。 <p>無収縮モルタル圧入</p> <ul style="list-style-type: none"> 無収縮モルタル材に水を入れ攪拌し、モルタルポンプ等にて圧入を行う。 <p>硬化養生</p> <ul style="list-style-type: none"> 圧入後、無収縮モルタルが硬化するまで型枠を存置しておく。硬化後脱枠を行う。 	<p>施工範囲の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> 監督員と協議の上施工範囲を確認する。 <p>脆弱部の除去</p> <ul style="list-style-type: none"> 欠損部周辺の脆弱部をハンマー等で軽い打撃を与えて除去する。 <p>下地処理等</p> <ul style="list-style-type: none"> 下地部分はワイヤブラシ等で汚れやほこりを除去し、清掃する。 <p>接着増強材塗布</p> <ul style="list-style-type: none"> 予め調合したポリマーセメントペースト同等品、製造所仕様で施工。 <p>樹脂モルタル充填</p> <ul style="list-style-type: none"> ポリマーセメントモルタル同等品を充填。材料の混練、塗り回数、養生日数は製造所特記とする。 <p>表面仕上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> 表面をコテで仕上げます。 <p>養 生</p> <ul style="list-style-type: none"> 各層とも急激な乾燥をさけ、適切に養生させます。 <p>清 掃</p> <ul style="list-style-type: none"> 仕上げ状態、段差の有無及び片付けを確認する。 								
<p>模式図(参考図)</p>	<p>模式図</p>	<p>模式図</p>	<p>模式図</p>								
<p>特記</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1* 杉樹脂注入剤は、クラック幅に合わせて仕様を変更すること。 <table border="1"> <tr> <th>使用材料</th> <th>クラック幅 (mm)</th> </tr> <tr> <td>低粘度</td> <td>0.1~0.5</td> </tr> <tr> <td>中粘度</td> <td>0.3~1.5</td> </tr> <tr> <td>高粘度</td> <td>0.5~2.0</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・ 施工完了後、コア抜きによる注入状況の検査を行う。(改修仕様4.3.4による。) 	使用材料	クラック幅 (mm)	低粘度	0.1~0.5	中粘度	0.3~1.5	高粘度	0.5~2.0	<p>特記</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1回に練る量は20分以内に使い切る量にする。 ・ モルタルの温度は10℃~35℃の間になるように、混練水の温度を調節して練ること。 ・ 規定の数量を超過すると、モルタルが分離したり、規定の強度が得られないため注意すること。 ・ 無収縮モルタルを練る時は、袋の全量を使い切るようにすること。 ・ 破袋または一度開封して放置された製品は使わないこと。 ・ 必要に応じて、モルタルが適当にしまった時点でコテ仕上げを行うこと。 ・ 養生は、急激な乾燥が起きないように濡れた布等で覆うなどして直射日光や風が直接当たらないように注意すること。 	<p>特記</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1回に練る量は20分以内に使い切る量にする。 ・ モルタルの温度は10℃~35℃の間になるように、混練水の温度を調節して練ること。 ・ 規定の数量を超過すると、モルタルが分離したり、規定の強度が得られないため注意すること。 ・ 無収縮モルタルを練る時は、袋の全量を使い切るようにすること。 ・ 破袋または一度開封して放置された製品は使わないこと。 ・ 必要に応じて、モルタルが適当にしまった時点でコテ仕上げを行うこと。 ・ 養生は、急激な乾燥が起きないように濡れた布等で覆うなどして直射日光や風が直接当たらないように注意すること。 	<p>特記</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 混練不足は、ひび割れの原因となるので、よく攪拌すること。 ・ 混練水量は正確に計量を行うこと。 ・ 凝結時間に注意の上、施工すること。 ・ 速硬タイプの為、一度に施工可能な分にて混練を行うこと。 ・ 一度硬化が始まったモルタルの練り直しは行わない。 ・ 夏期の気温が高い日は、粉体及び練混ぜ水の温度が上がり過ぎないように適切な処置を行うこと。
使用材料	クラック幅 (mm)										
低粘度	0.1~0.5										
中粘度	0.3~1.5										
高粘度	0.5~2.0										
<p>Pコン欠損補修</p> <p>ケレン・清掃</p> <ul style="list-style-type: none"> 下地のレイタンス、脆弱部、埃等をワイヤブラシ等を用いてケレン・清掃・除去を行う。 <p>防錆剤の塗布</p> <ul style="list-style-type: none"> セパレーターに防錆剤を塗布する。錆が発生している場合は、ワイヤブラシ等でケレン・清掃を行った後防錆剤を塗布する。 <p>水湿し</p> <ul style="list-style-type: none"> 除去・清掃後、下地に十分な水湿しを行い、湿潤状態にする。 <p>混練・塗付け</p> <ul style="list-style-type: none"> 充填材を製品の施工要領に沿って混練し、指先などで下地により密着するように充填を行う。 <p>仕上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> 塗付けた材料の水引を見計らって、金ごて等で平滑にする。 	<p>速硬性ポリマーセメントモルタル補修</p> <p>浮きの確認</p> <ul style="list-style-type: none"> 施工前調査にて範囲確認、健全部へ10cm幅広くマーキングを行う。 <p>穿孔位置の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> アンカーピン本数 一般部分 13本1.2穴/m² 指定部分 20本2.0穴/m² (見上げ(天井)部分) 狭幅部(幅200mm以下)は5本 5穴/m²。 <p>穿孔</p> <ul style="list-style-type: none"> ピン直径より2mm程大きい直径とする。躯体中に30mm/程度のピンの定着長を取る深さとする。 <p>清掃</p> <ul style="list-style-type: none"> 清掃はハンドブロアー、Qガン等を用いる。 <p>エポキシ樹脂充填</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 注入量は25cc/1穴とする。 ・ 打音による浮き代判定から樹脂の粘度を選定する。 <p>アンカーピン挿入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アンカーは、SU S304全ネジ皿付ステンレスピンとする。 ・ ピンの長さは、モルタル厚みにより異なるが30mmの躯体定着長を確保すること。 ・ ピンの径は、4mm以上とする。 <p>表面処理清掃</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ピンの体積により流出するエポキシを利用し、ピンを被い仕上材に合わせた仕上げとする。 	<p>浮きタイル補修</p> <p>確認</p> <ul style="list-style-type: none"> テストハンマー等を用いてタイル浮き・剥離等(改修範囲)の状況を確認し、張替え範囲を決定する。 <p>タイル除去</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ タイル張り仕上げの撤去(はつり落とし)を行う。張付けモルタルまで除去する。 <p>水洗い・清掃</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ タイル撤去範囲の水洗い、清掃を行う。(改修下地の清掃) <p>不陸調整</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ タイル撤去に伴う、タイル下地の不陸調整を行う。ポリマーセメントモルタル等、断面修復用モルタルを使用する。 <p>補修タイル張り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 既存タイルの部分張替えを行う。仕上げ状態、段差の有無を確認する。 <p>酸洗い・清掃</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 張替え範囲の酸洗い、清掃を行う。 	<p>アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法</p> <p>確認</p> <ul style="list-style-type: none"> テストハンマー等を用いてタイル浮き・剥離等(改修範囲)の状況を確認し、張替え範囲を決定する。 <p>タイル除去</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ タイル張り仕上げの撤去(はつり落とし)を行う。張付けモルタルまで除去する。 <p>水洗い・清掃</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ タイル撤去範囲の水洗い、清掃を行う。(改修下地の清掃) <p>不陸調整</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ タイル撤去に伴う、タイル下地の不陸調整を行う。ポリマーセメントモルタル等、断面修復用モルタルを使用する。 <p>補修タイル張り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 既存タイルの部分張替えを行う。仕上げ状態、段差の有無を確認する。 <p>酸洗い・清掃</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 張替え範囲の酸洗い、清掃を行う。 								
<p>模式図</p>	<p>模式図</p>	<p>模式図</p>	<p>模式図</p>								
<p>特記</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 混練不足は、ひび割れの原因となるので、よく攪拌すること。 ・ 混練水量は正確に計量を行うこと。 ・ 凝結時間に注意の上、施工すること。 ・ 速硬タイプの為、一度に施工可能な分にて混練を行うこと。 ・ 一度硬化が始まったモルタルの練り直しは行わない。 ・ 夏期の気温が高い日は、粉体及び練混ぜ水の温度が上がり過ぎないように適切な処置を行うこと。 	<p>特記</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アンカーピンの固定は夏期は、15時間、冬期は24時間程度は衝撃を与えぬこと。 ・ モルタル層間剥離が予想されるためステンレスピンは皿付が望ましい。 ・ エポキシ樹脂の粘度は、浮き代と温度により決定する。 ・ エポキシは、JIS A 6024とする。 ・ ステンレスピンは、SU S 304 全ネジ皿付とする。 ・ 樹脂注入材の広がりやハンマー打診を確認すること。 	<p>特記</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 改修用タイルについて、既設タイルと同一品がない場合、手配可能な同等品を選定し、監督員の承認を受けること。 									
<p>工事名称</p> <p>熊本県立大学長寿命改修(建築)工事</p>	<p>図面名称</p> <p>下地補修特記仕様書</p>	<p>縮尺</p> <p>—</p>	<p>株式会社</p> <p>太宏設計事務所</p>	<p>一級建築士国土交通大臣登録第366297号 平田有希雄</p> <p>熊本県知事登録第5555号</p>	<p>校 関</p>	<p>日 付</p>	<p>番 号</p> <p>A-07</p>				



1階平面図

状況及び改修方法一覧

番号	損傷状況	改修方法		
		改修方法	数量	単位
1	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入	1.30	m
		E P 塗装 (W1300×H100)	0.13	m ²
2	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入	1.60	m
		E P 塗装 (W1600×H100)	0.16	m ²
3	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入	2.00	m
		E P 塗装 (W2000×H100)	0.20	m ²
4	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入	0.40	m
		E P 塗装 (W400×H100)	0.04	m ²
5	シーリングの劣化 (水平・垂直)	既存シーリング撤去・新設 (PU-2 15×10)	5.30	m

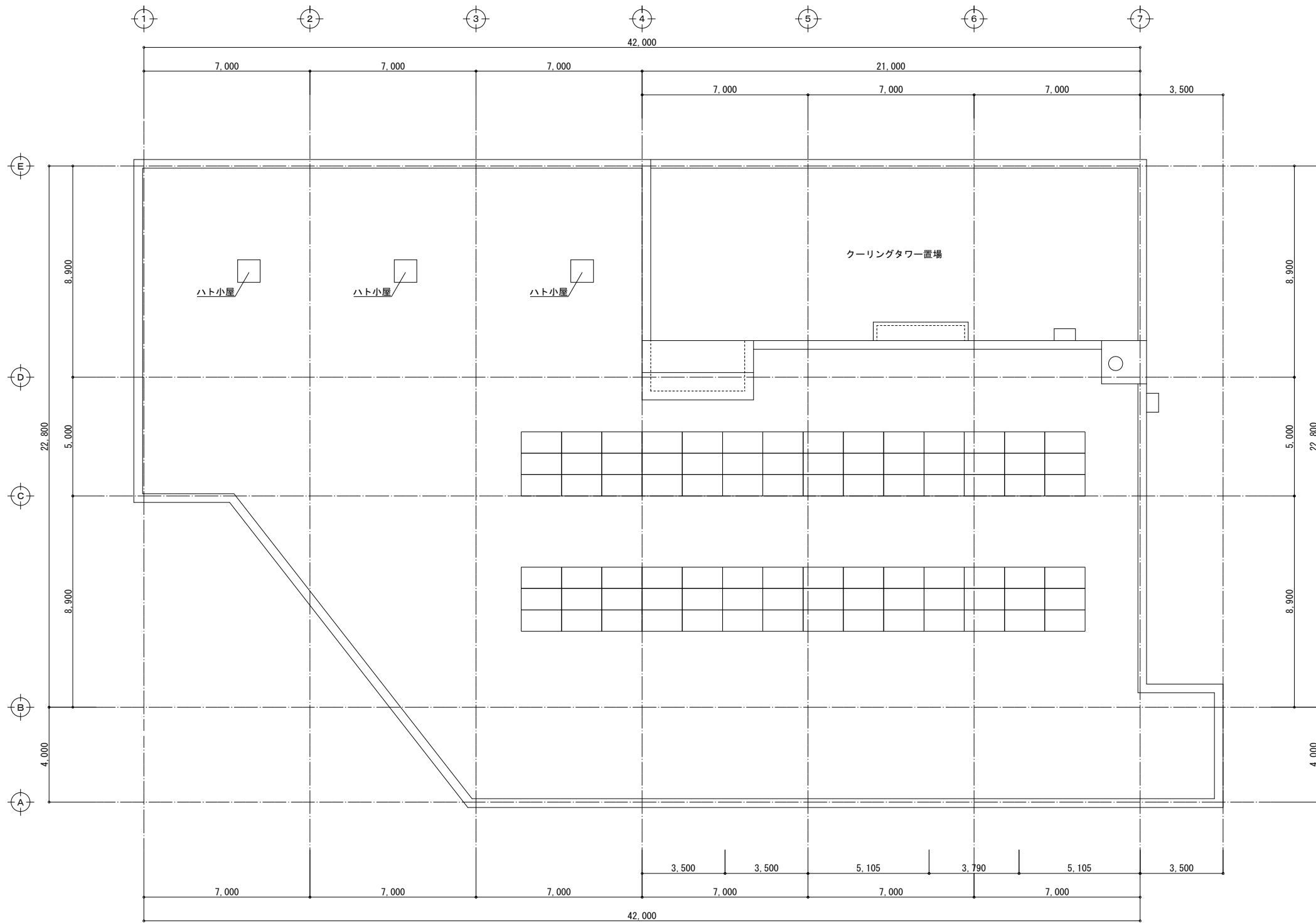


2階平面図

※ は、防水改修範囲を示す。

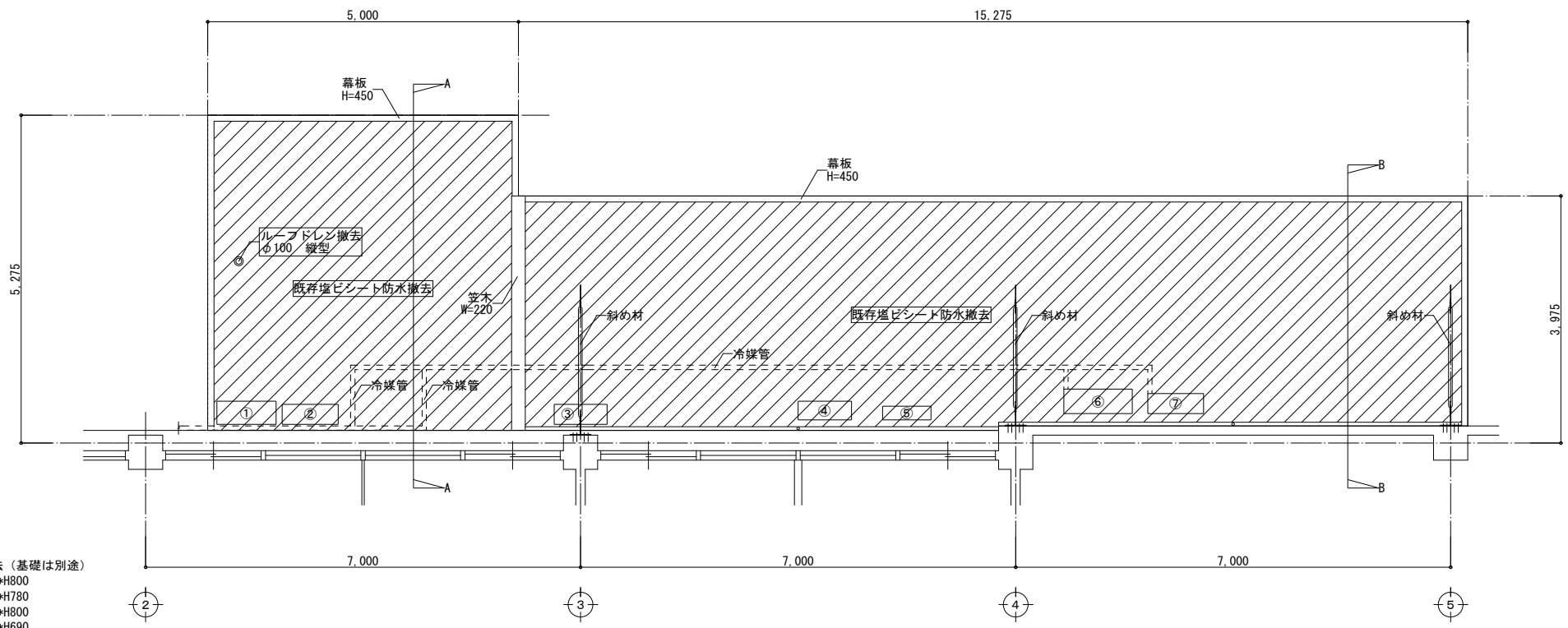
状況及び改修方法一覧

番号	損傷状況	改修方法		
		改修工法	数量	単位
1	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入 EP塗装 (W1200×H100)	11.20	m ²
2	シーリングの劣化 (水平)	既存シーリング撤去・新設 (PU-2 15×10)	12.52	m
3	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入 EP塗装 (W5000×H100)	0.50	m ²
4	壁ひび割れ、漏水跡	エポキシ樹脂注入 EP塗装 (W1300×H800)	1.30	m ²
5	底シート防水のはがれ (全体的)	※詳細図参照のこと		
6	底幕板塗装のはがれ	※詳細図参照のこと		



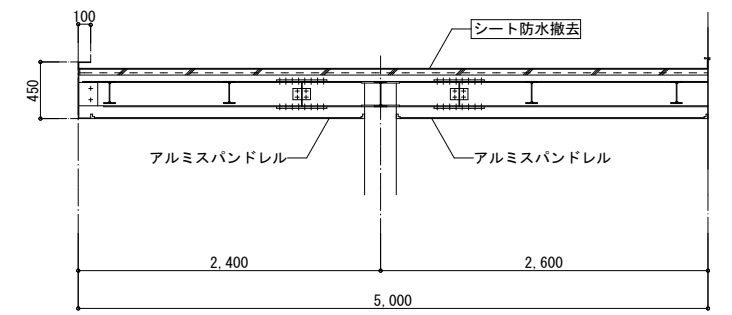
屋根伏図

改修前

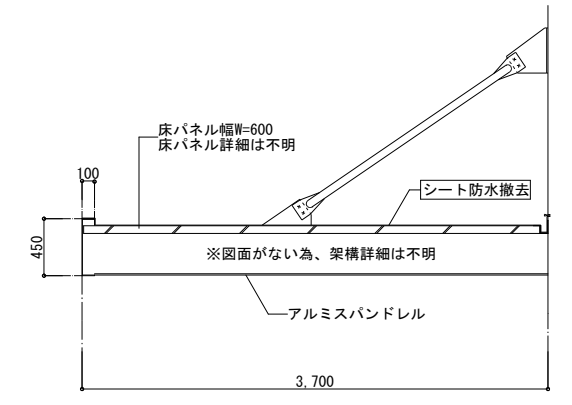


- 空調室外機寸法 (基礎は別途)
- ① W950×D370×H800
 - ② W900×D320×H780
 - ③ W850×D320×H800
 - ④ W860×D300×H690
 - ⑤ W780×D220×H530
 - ⑥ W1100×D390×H1660
 - ⑦ W900×D320×H1350

※ は、防水撤去範囲を示す。

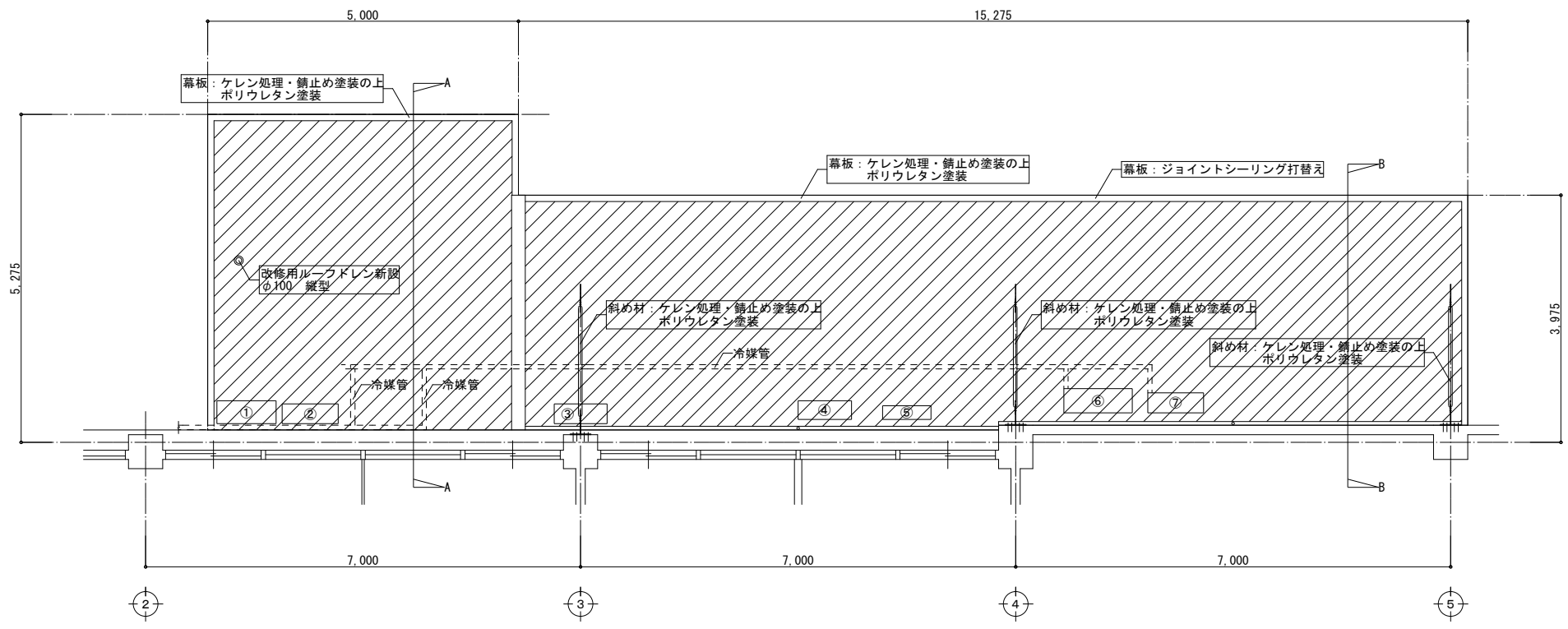


A-A断面図 1/30



B-B断面図 1/30

改修後

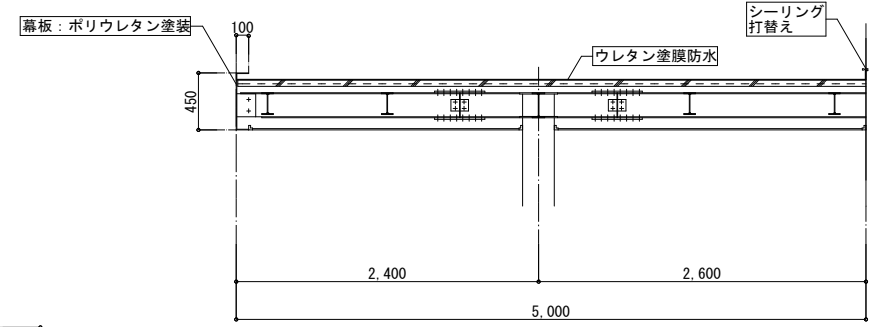


- 空調室外機及び冷媒管について
- ・防水工事施工の際は、一時移動し、施工完了後に復旧とする。

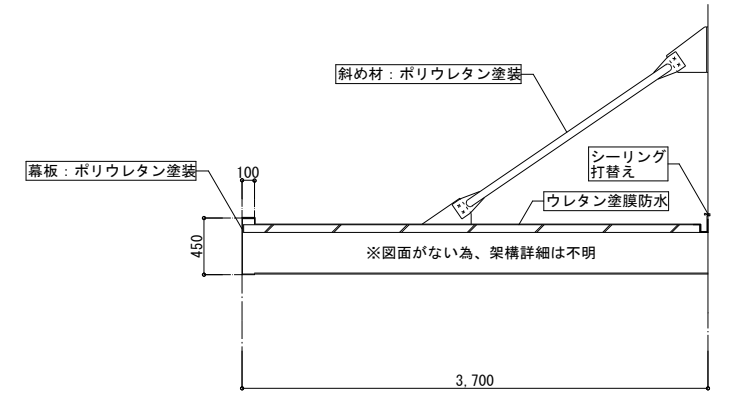
- 防水改修仕様
- ・平場：高圧洗浄、下地調整の上、ウレタン塗膜防水 (X-1)
 - ・立上り：高圧洗浄、下地調整の上、ウレタン塗膜防水 (X-2)
 - ・脱気筒：3箇所
 - ・下地調整：樹脂モルタル t=2程度

- 鉄骨部改修仕様
- ・幕板、斜め材：ケレン処理・錆止め塗装の上、ポリウレタン塗装

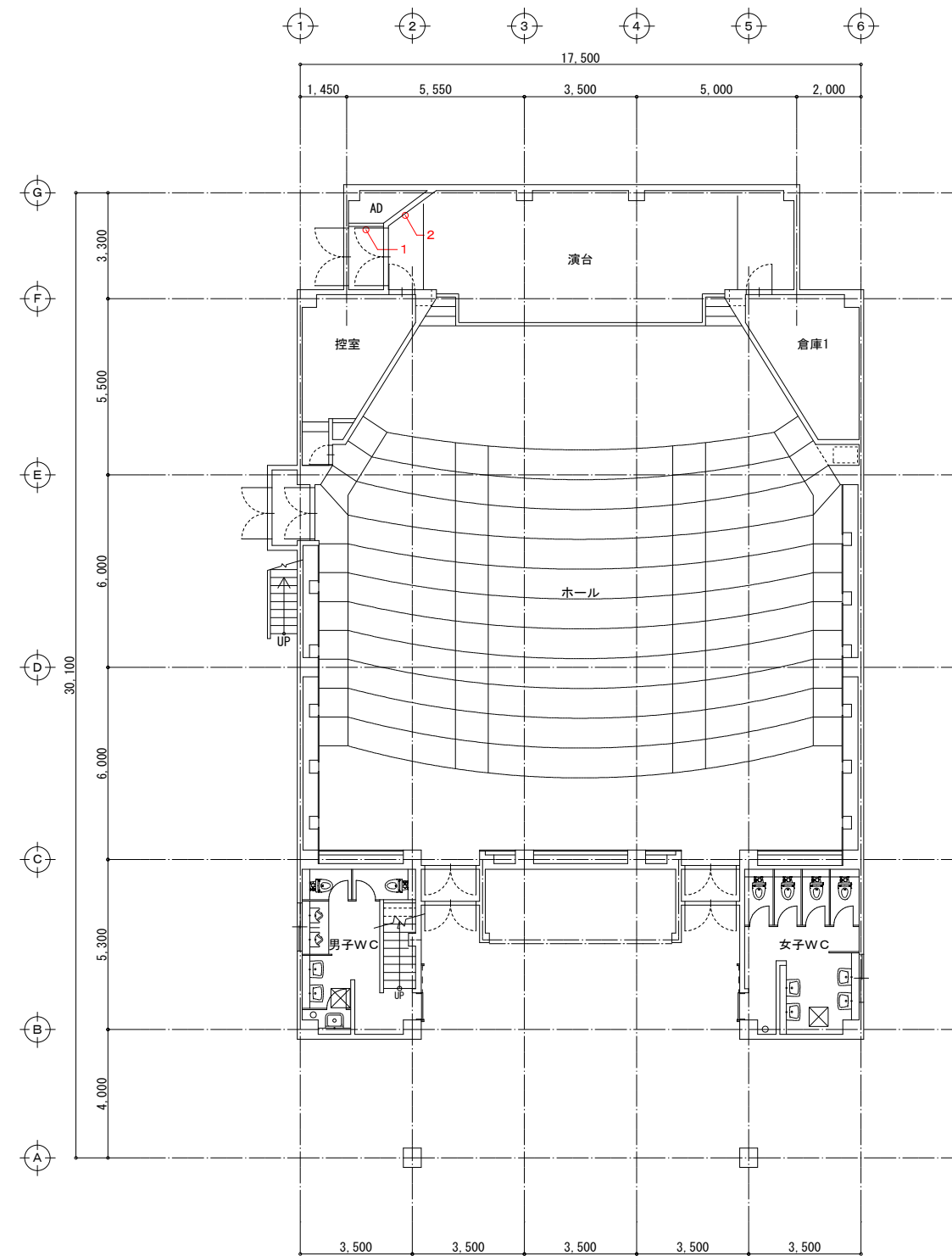
※ は、防水新設範囲を示す。
 ※防水工事を行う際は、鉄骨支持材の発錆状況及び底の仕上げ材の確認を行い、監督員に状況報告を行うこと。



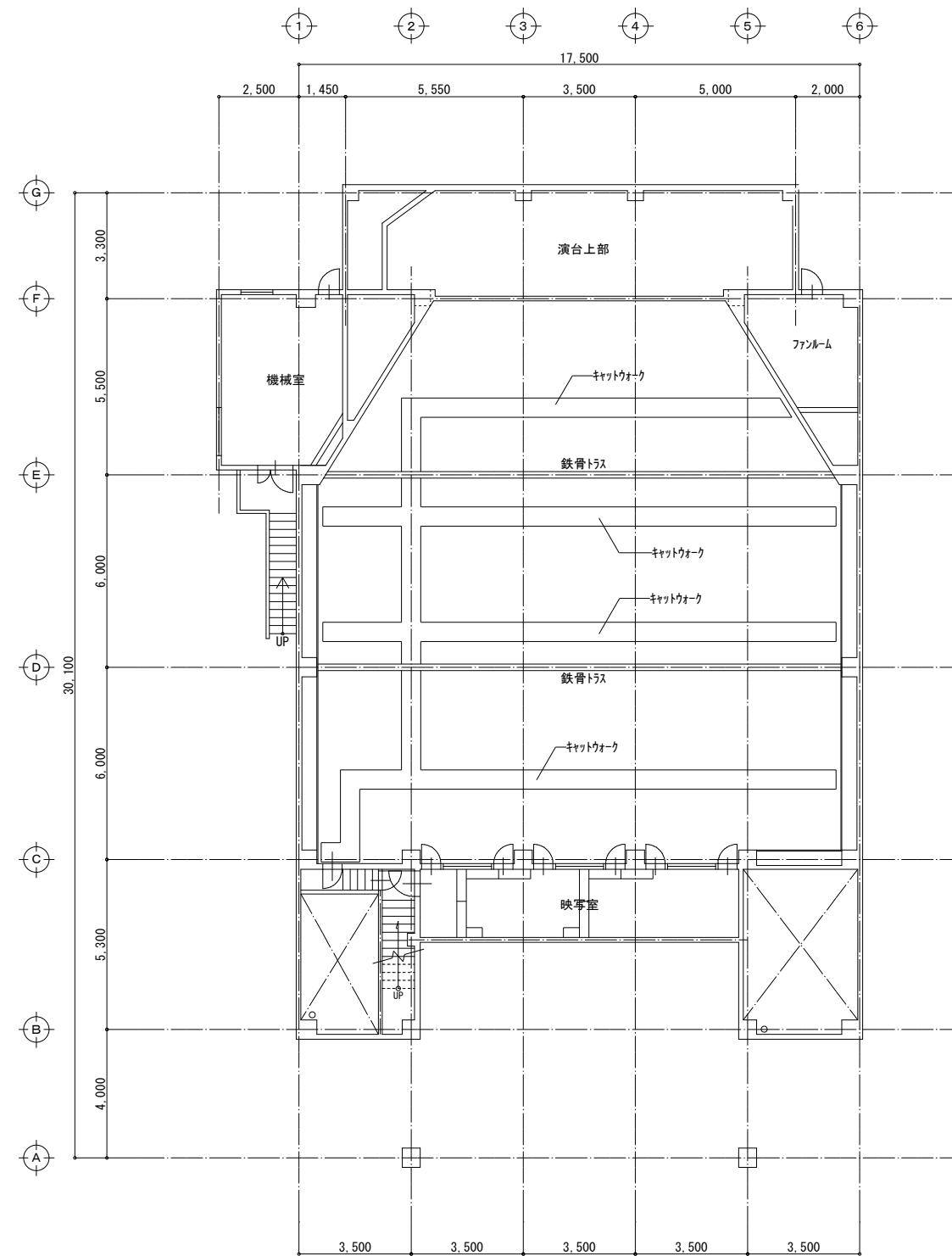
A-A断面図 1/30



B-B断面図 1/30



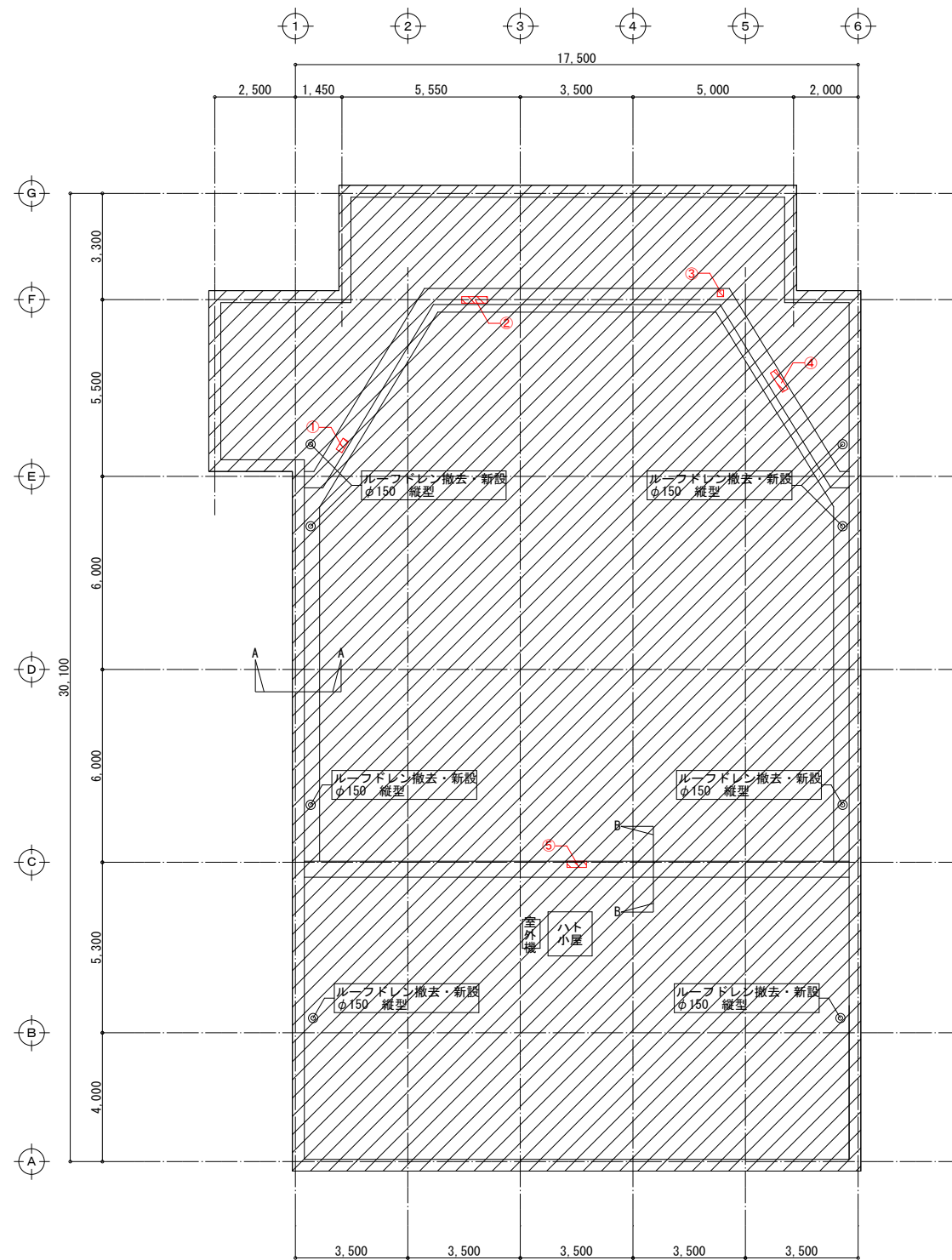
1階平面図



2階平面図

状況及び改修方法一覧

番号	損傷状況	改修方法		
		改修工法	数量	単位
1	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入	0.90	m
		E P 塗装 (W900×H100)	0.09	m ²
2	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入	1.30	m
		E P 塗装 (W1300×H100)	0.13	m ²



○防水改修仕様

【既存】

・ゴムシート断熱工法

【改修後】

- ・平場：高圧洗浄の上、塩ビシート防水 (S-M2)
- ・立上り・溝：高圧洗浄、下地調整の上、塩ビシート防水 (S-F2)
- ・笠木：高圧洗浄、下地調整の上、ウレタン塗膜防水 (X-2)
- ・脱気筒：7箇所
- ・立上り・溝、笠木下地調整：樹脂モルタル t=2程度
- ・押え金物：L-10×40 t=1.2、シール共

屋根伏図

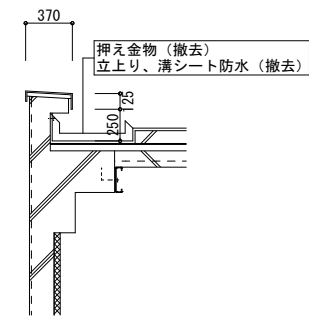
※ は、防水改修範囲を示す。

※ は、コンクリート欠損範囲を示す。

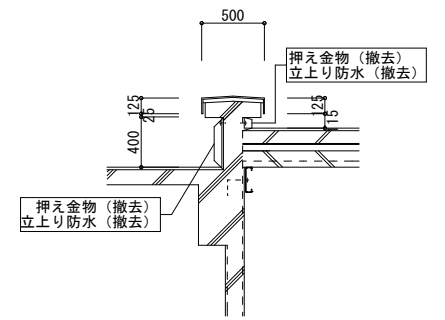
コンクリート欠損寸法

- ① W400×D120
- ② W800×D120
- ③ W100×D120
- ④ W700×D120
- ⑤ W600×D120

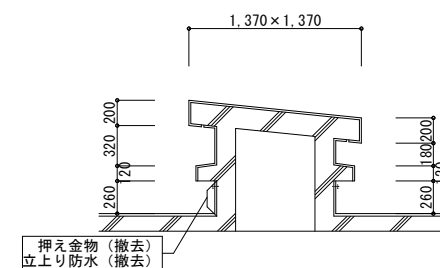
改修前



A-A断面図 1/30

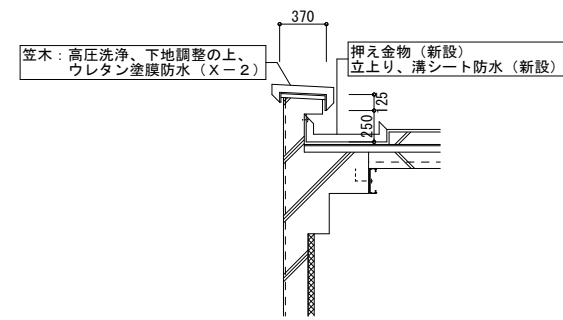


B-B断面図 1/30

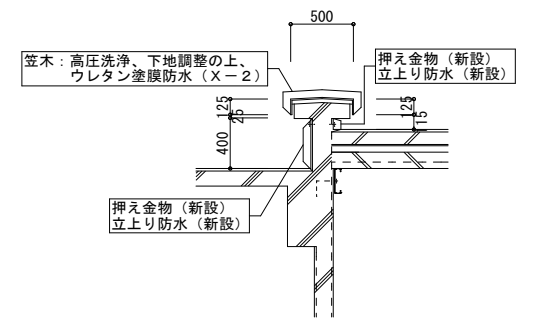


ハト小屋断面図 1/30

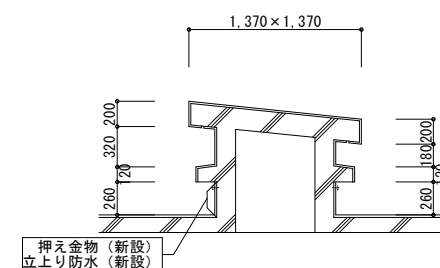
改修後



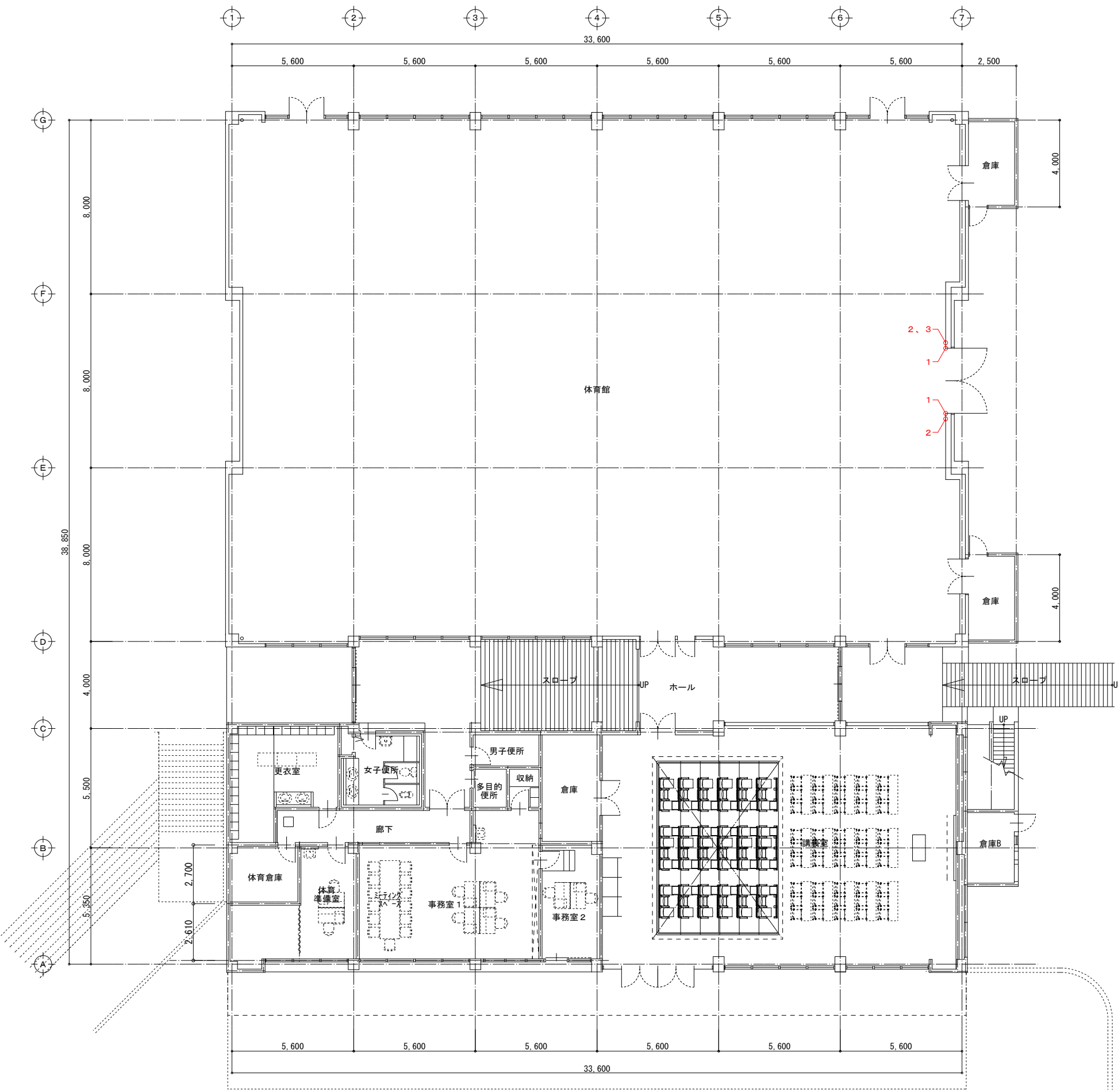
A-A断面図 1/30



B-B断面図 1/30



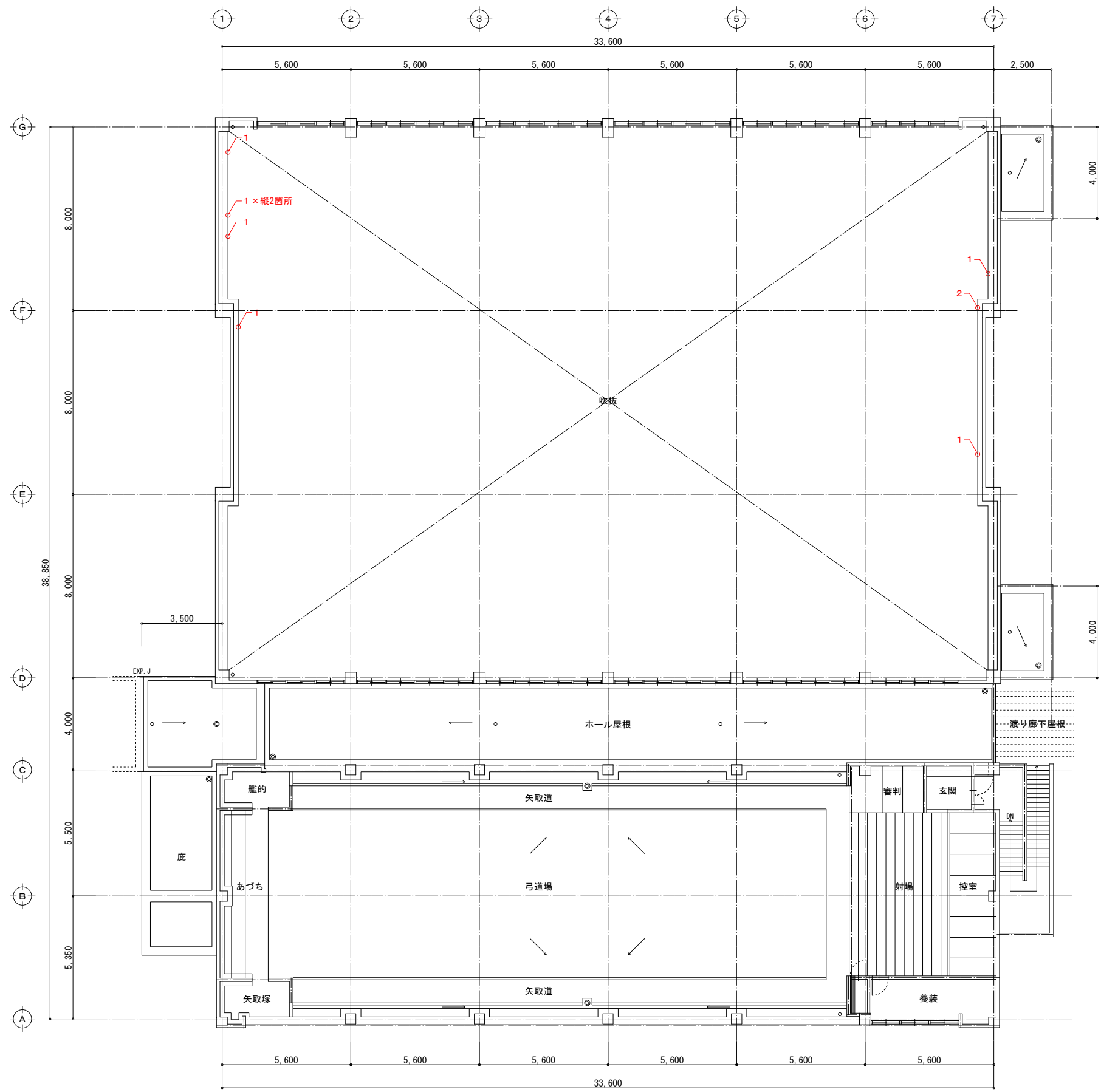
ハト小屋断面図 1/30



1階平面図

状況及び改修方法一覧

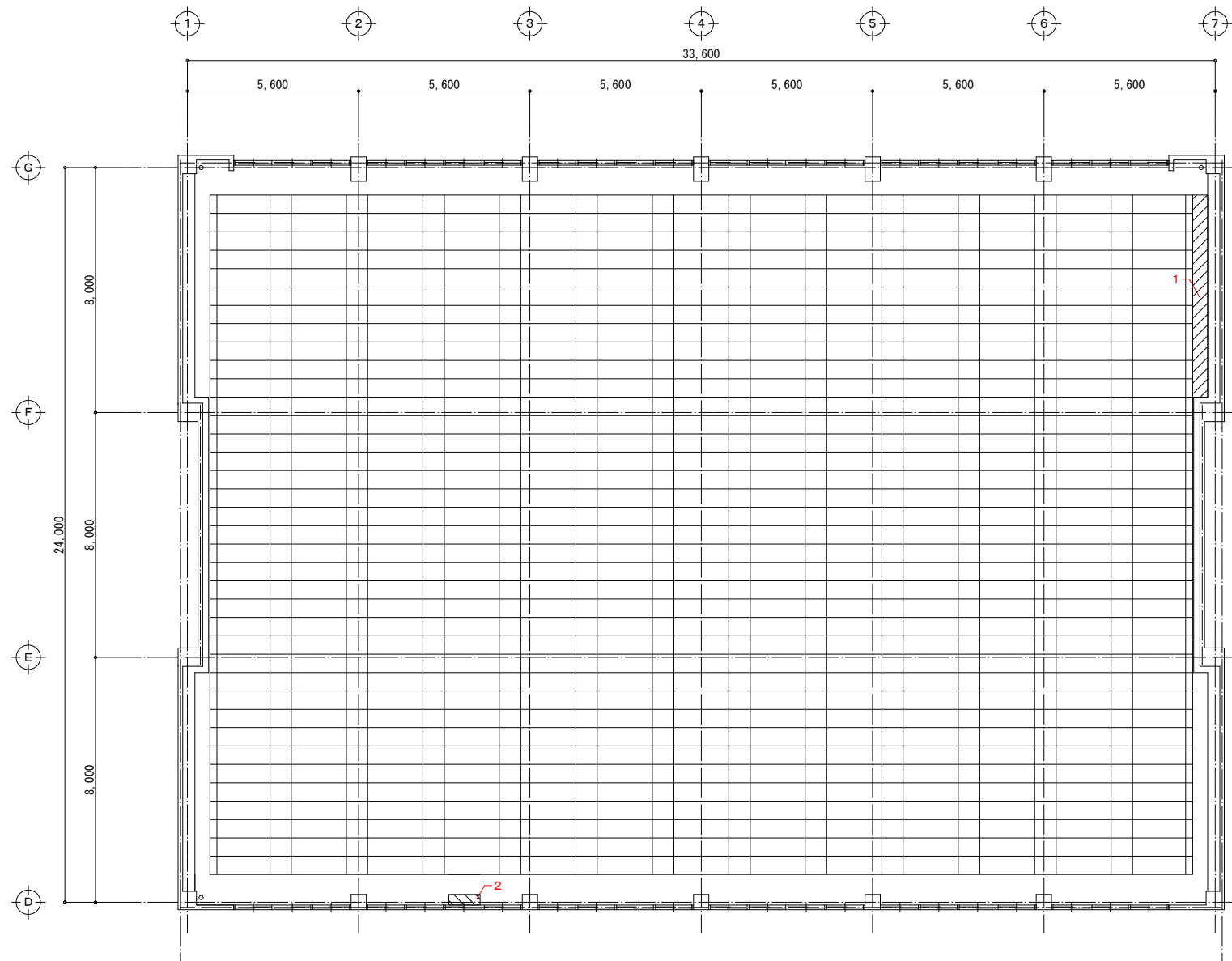
番号	損傷状況	改修方法		
		改修工法	数量	単位
1	出隅アングル (2箇所)	アルミ製アングル撤去・新設 (L-30×30 H2300×2箇所)	4.60	m
2	壁有孔ベニヤ破損 (2箇所)	有孔ベニヤ (t9) 撤去・新設 SOP塗装 (W500×H1830×2箇所)	1.83	m ²
3	壁有孔ベニヤ破損	有孔ベニヤ (t9) 撤去・新設 SOP塗装 (W915×H1830)	1.67	m ²



2階平面図

状況及び改修方法一覧

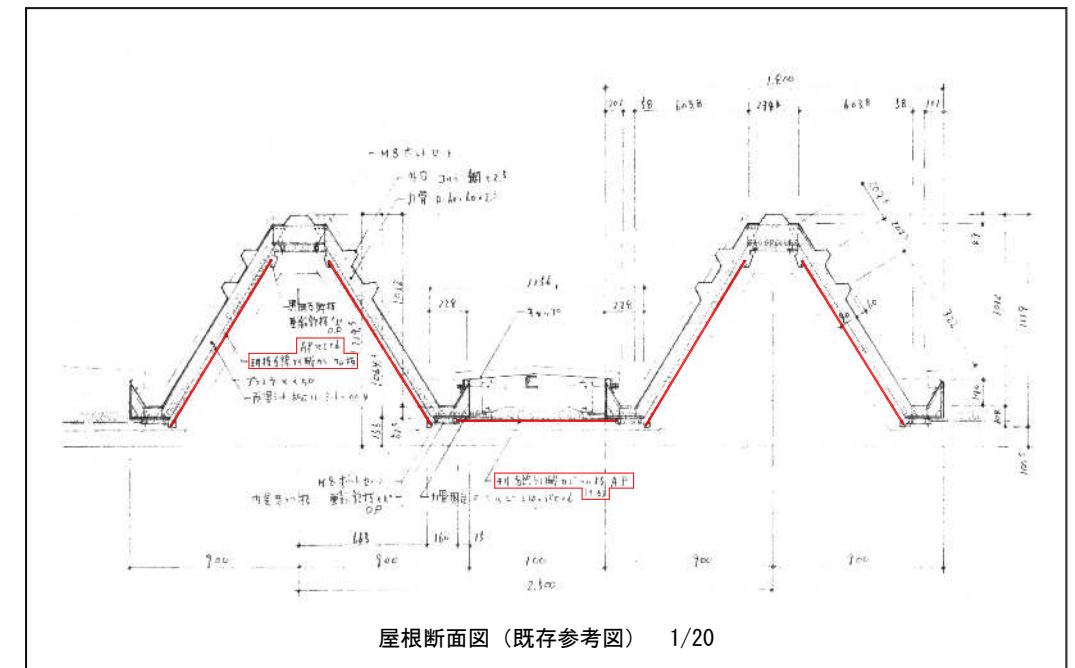
番号	損傷状況	改修方法		
		改修工法	数量	単位
1	壁有孔ベニヤ破損 (7箇所)	有孔ベニヤ (t9) 撤去・新設	11.72	㎡
		SOP塗装 (W915×H1830×7箇所)	11.72	
2	壁有孔ベニヤ破損	有孔ベニヤ (t9) 撤去・新設	1.37	㎡
		SOP塗装 (W750×H1830)	1.37	



2階天井伏図

凡例
 RC梁仕上げ改修範囲を示す。
 天井有孔ボード 撤去・新設範囲を示す。

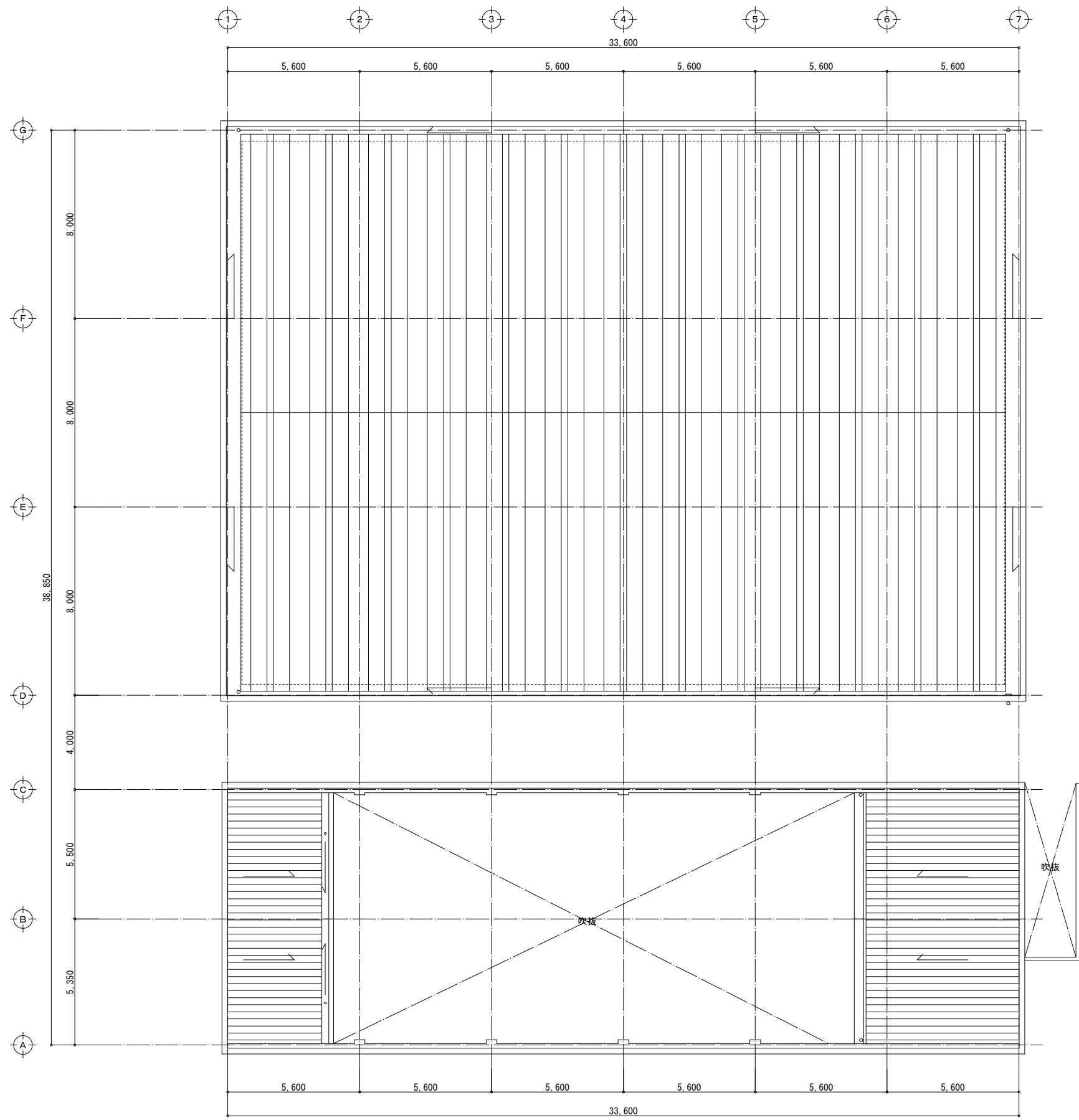
改修内容
 ・天井：化粧ケイカル板 (t6 600×1050) 撤去・新設 19ヶ所
 ※既存化粧ケイカル板はアスベスト含有物とする。
 ・その他：状況及び改修方法一覧 参照



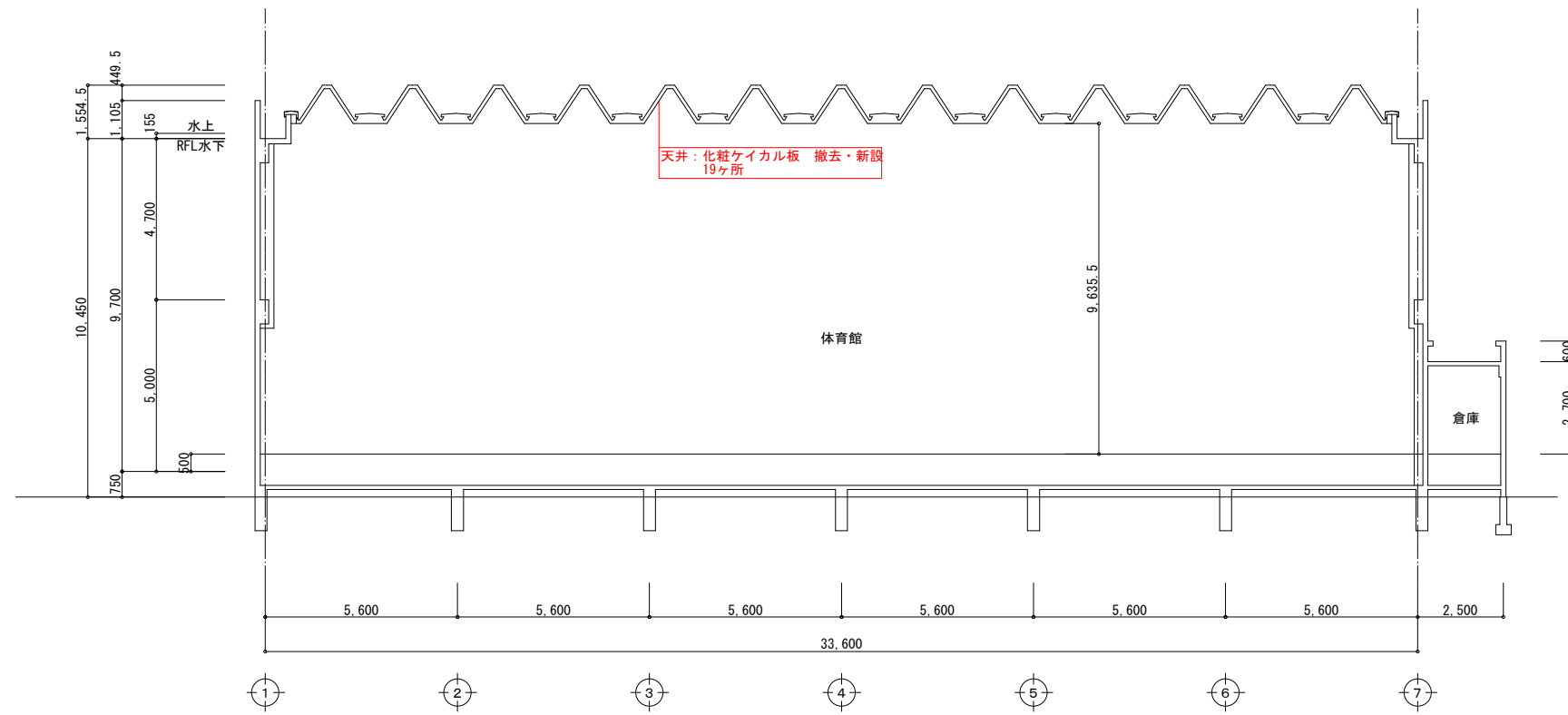
屋根断面図 (既存参考図) 1/20

状況及び改修方法一覧

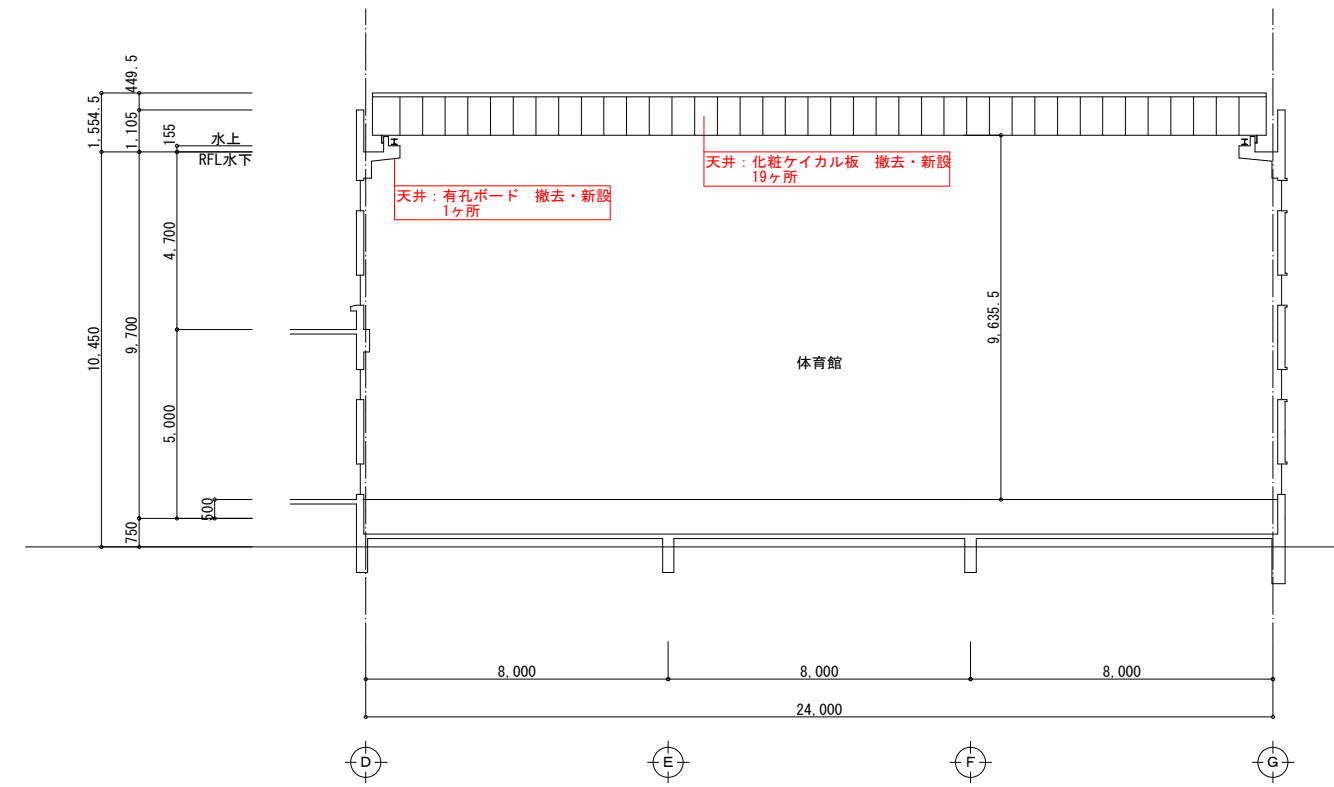
番号	損傷状況	改修方法		
		改修工法	数量	単位
1	仕上げ材のはがれ	下地調整 NAD塗装 (L6500×W1000)	6.50	m ²
2	天井有孔ボードの破損	有孔ボード (t9) 撤去・新設 SOP塗装 (L1000×W350)	0.35	m ²



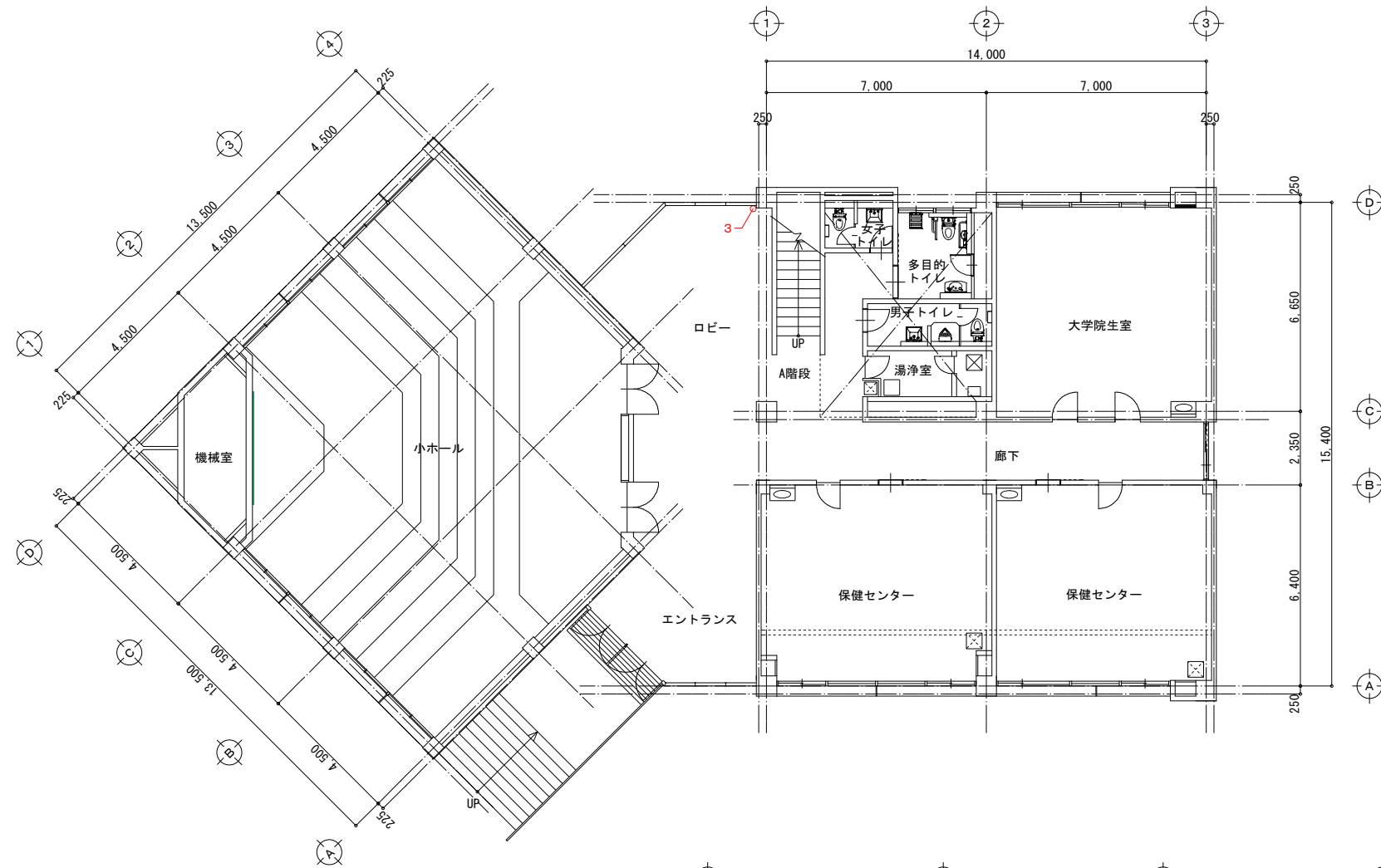
屋根伏図



断面図 1

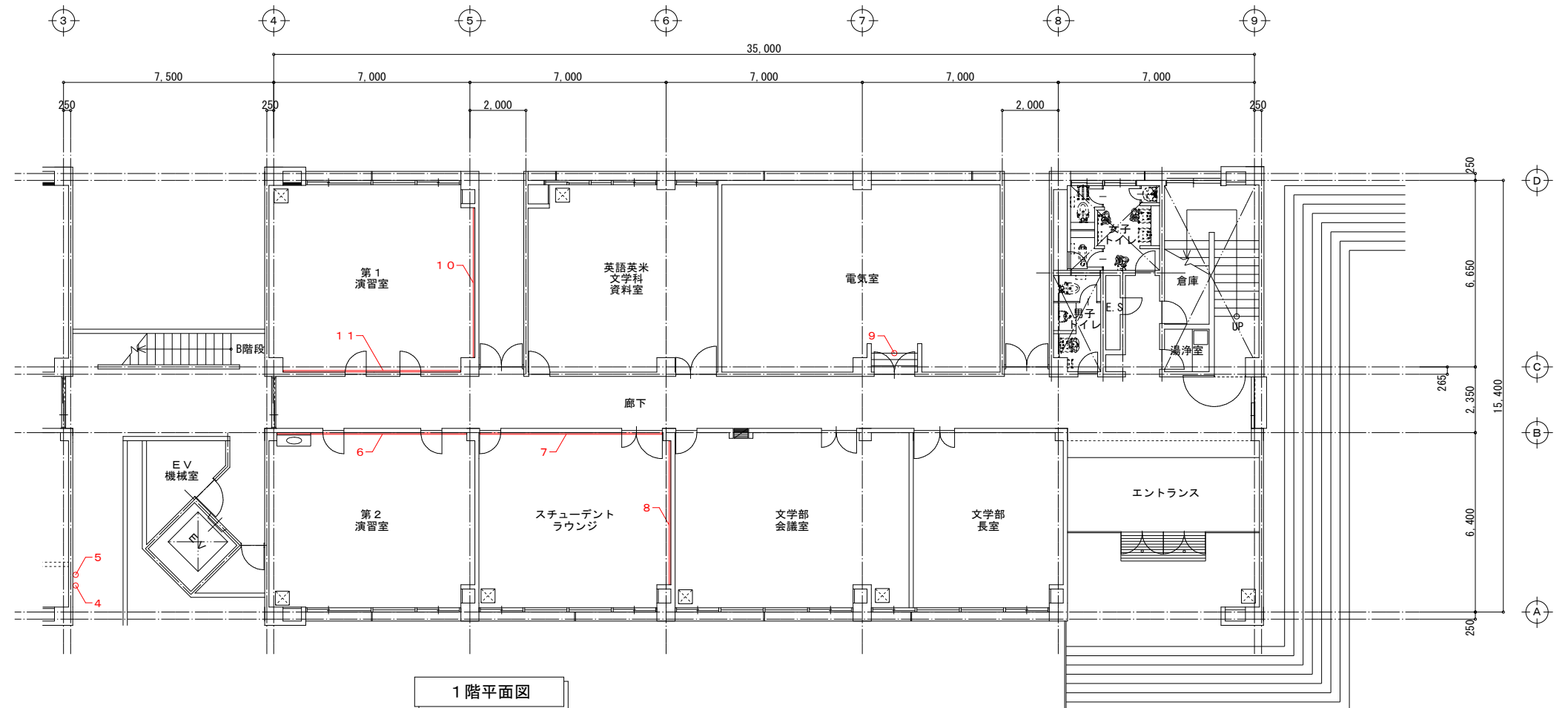


断面図 2

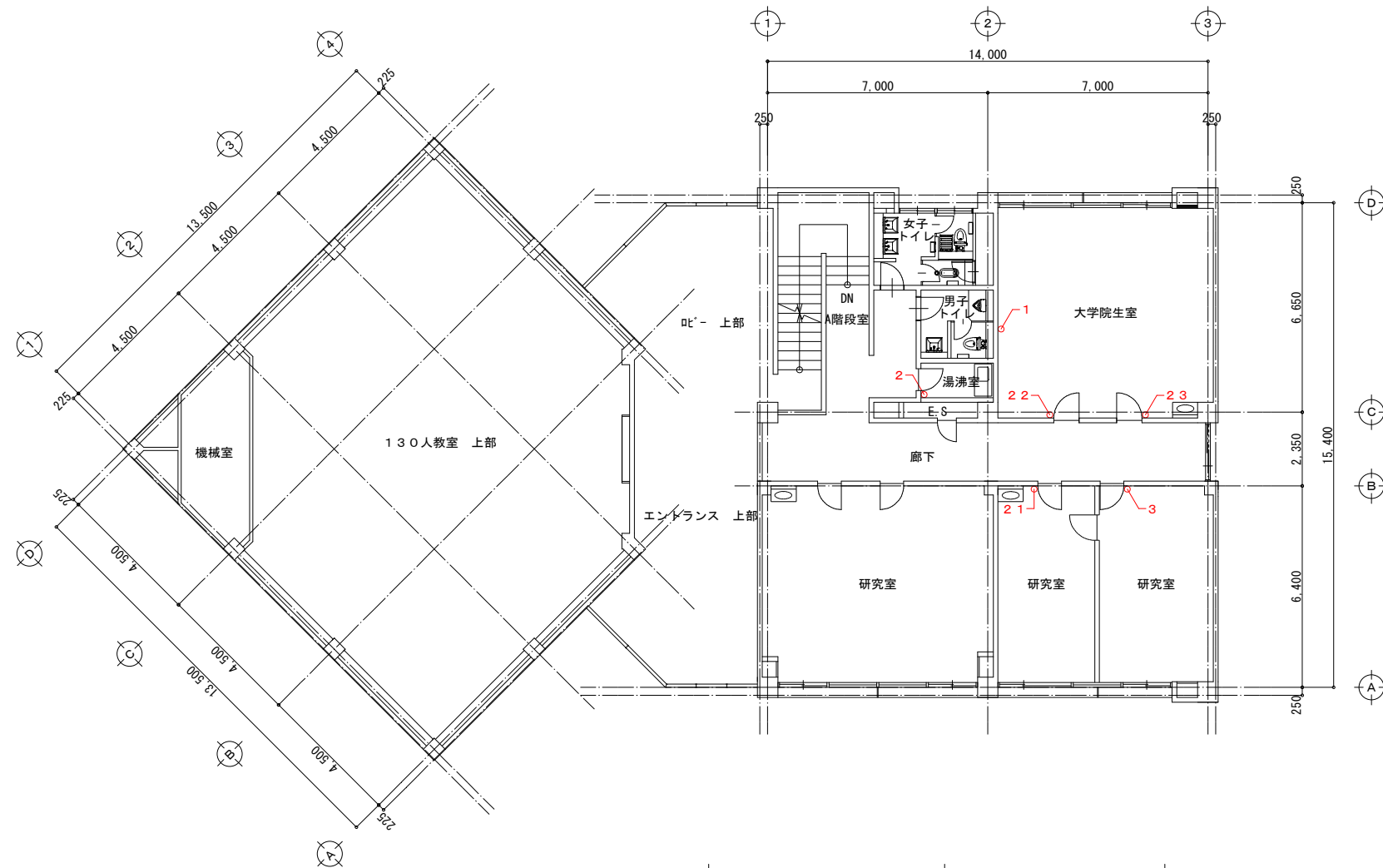


状況及び改修方法一覧

番号	損傷状況	改修方法		
		改修工法	数量	単位
1	欠番			
2	欠番			
3	塗装のはがれ	下地調整 (W200×H150) E P 塗装	0.03	m ²
4	E × P. J カバーシール切れ	既存シール撤去・新設 (MS-2 15×10)	5.60	m
5	外壁塗装のはがれ	下地調整・複層塗材E吹付 (天端: W170×L7900) (立上り: H450×L7900)	4.90	m ²
6	壁ひび割れ	全面モルタル補修 (W6750×H2400) 全面E P 塗装	16.20	m ²
7	壁ひび割れ	全面モルタル補修 (W6550×H2400) 全面E P 塗装	15.72	m ²
8	壁ひび割れ	全面モルタル補修 (W5500×H2400) 全面E P 塗装	13.20	m ²
9	段鼻タイルのはがれ	段鼻タイル (W1850×2列)	3.70	m
10	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入 全面E P 塗装 (W5300×H2330)	10.90 12.35	m m ²
11	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入	3.65	m
		爆裂補修 (W150×H100) 全面E P 塗装 (W6350×H2330)	0.02 14.80	m ² m ²



1階平面図



状況及び改修方法一覧

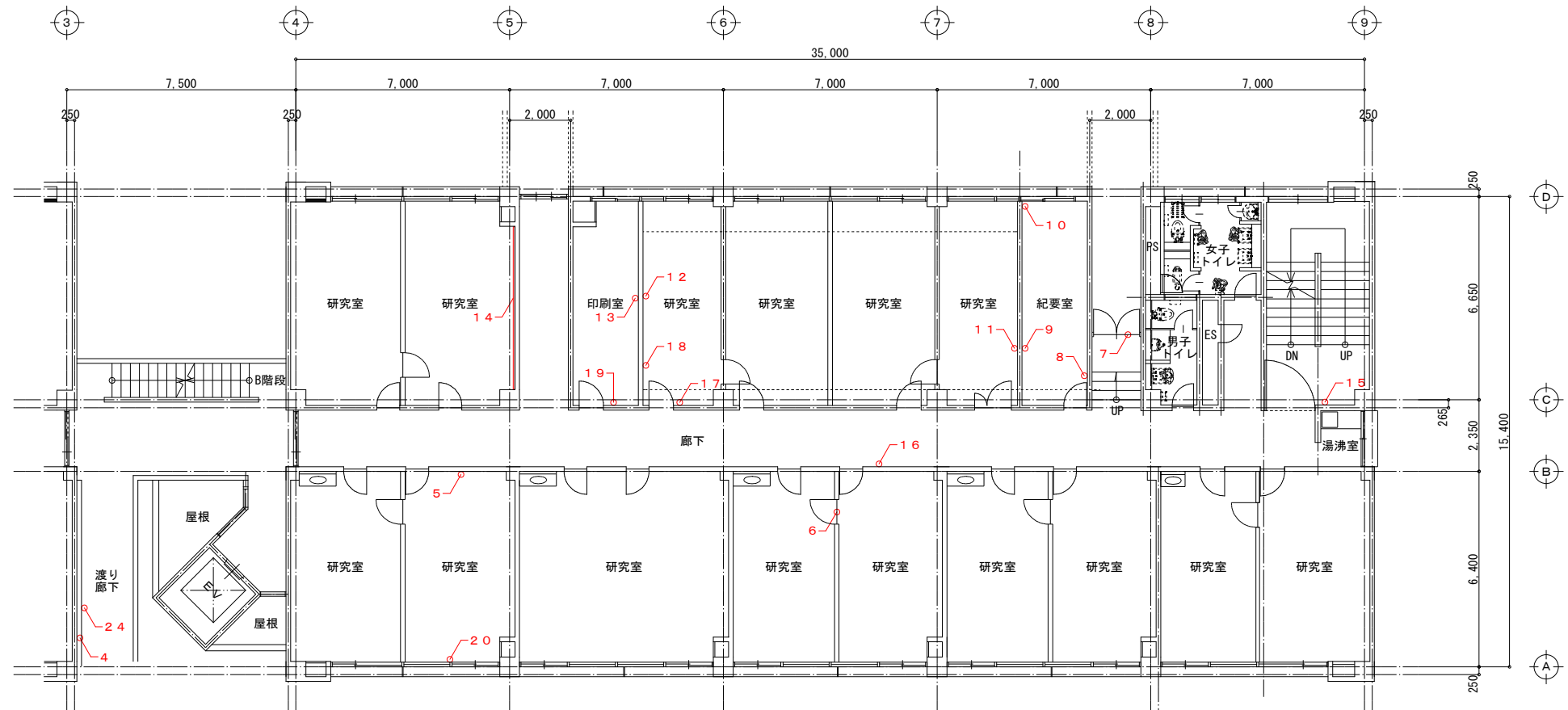
番号	損傷状況	改修方法		
		改修工法	数量	単位
1	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入	3.70	m
		E P 塗装 (L3700×W100)	0.37	m ²
2	天井ボードの破損	ケイカル板 (t6) 撤去・新設 (W650×L1300)	0.85	m ²
		E P 塗装		
3	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入	0.40	m
		E P 塗装 (L400×W100)	0.04	m ²
4	E X P . J カバーシール切れ	既存シール撤去・新設 (MS-2 15×10)	7.20	m
5	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入	2.40	m
		E P 塗装 (L2400×H100)	0.24	m ²
6	建具開閉不可	扉の交換 (詳細は建具表参照のこと)	1	箇所
7	建具の故障	フランス落としの交換	1	箇所
8	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入	2.60	m
		E P 塗装 (L2600×H100)	0.26	m ²
9	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入	4.25	m
		E P 塗装 (L4250×H100)	0.43	m ²
10	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入	0.15	m
		E P 塗装 (L150×H100)	0.02	m ²
11	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入	2.85	m
		E P 塗装 (L2850×H100)	0.02	m ²
12	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入	1.10	m
		E P 塗装 (L1100×H100)	0.11	m ²
13	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入	1.10	m
		E P 塗装 (L1100×H100)	0.11	m ²
14	壁ひび割れ	全面 E P 塗装 (W5250×H2400)	12.60	m ²
15	幅木の破損	幅木新設 (H=60)	0.95	m
16	幅木の破損	既存幅木撤去・新設 (H=60)	0.52	m
17	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入	2.50	m
		E P 塗装 (L2500×H100)	0.25	m ²
18	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入	5.90	m
		E P 塗装 (L5900×W100)	0.59	m ²
19	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入	5.90	m
		コーキング処理 (L950+H2000) × 2	5.90	m
19	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入	2.35	m
		E P 塗装 (L2500×H100)	0.24	m ²

状況及び改修方法一覧

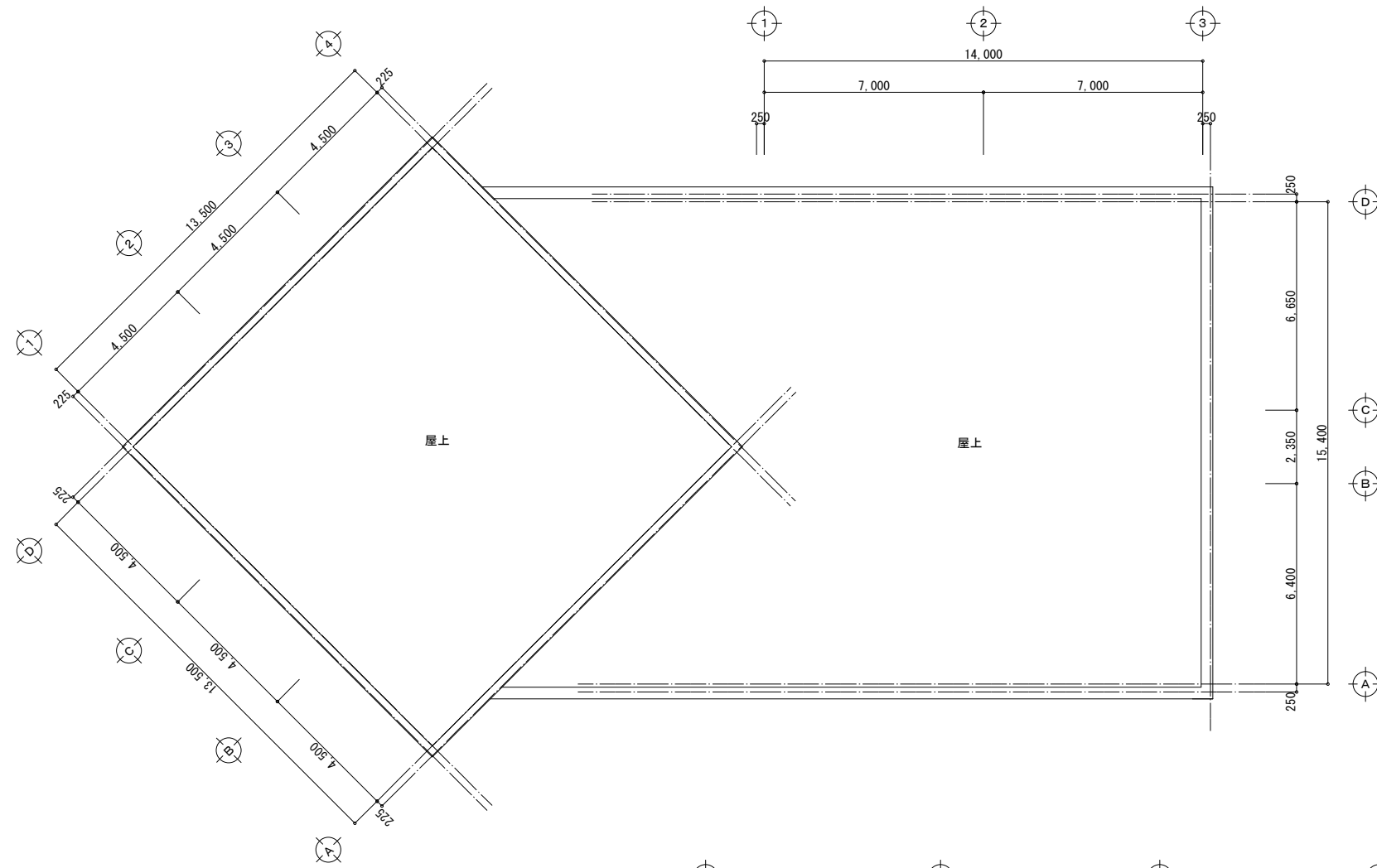
番号	損傷状況	改修方法		
		改修工法	数量	単位
20	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入	0.20	m
		E P 塗装 (L200×W100)	0.02	m ²
21	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入	0.40	m
		E P 塗装 (L400×W100)	0.04	m ²
22	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入	1.10	m
		E P 塗装 (L1100×W100)	0.11	m ²
23	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入	0.90	m
		E P 塗装 (L900×W100)	0.09	m ²
24	ピーコックのはずれ (3箇所)	ピーコック損部補修 (100×100)	0.03	m ²
		複層塗材E吹付		

建具表 (扉交換) 1/50

形式	片開き軽量フラッシュドア
断面	
仕上げ	焼付塗装
ガラス	-
枠	既存枠を使用 仕上げは下地調整の上、SOP塗装 丁番取付用フラットバー補強 (既存ヒポットヒンジ撤去)
金物	ドアクローザ、丁番、他標準一式 握り玉、シリンダー・サムターンは既存の物を使用
備考	戸のサイズについては、製作の際に現状の確認を行うこと。



2階平面図

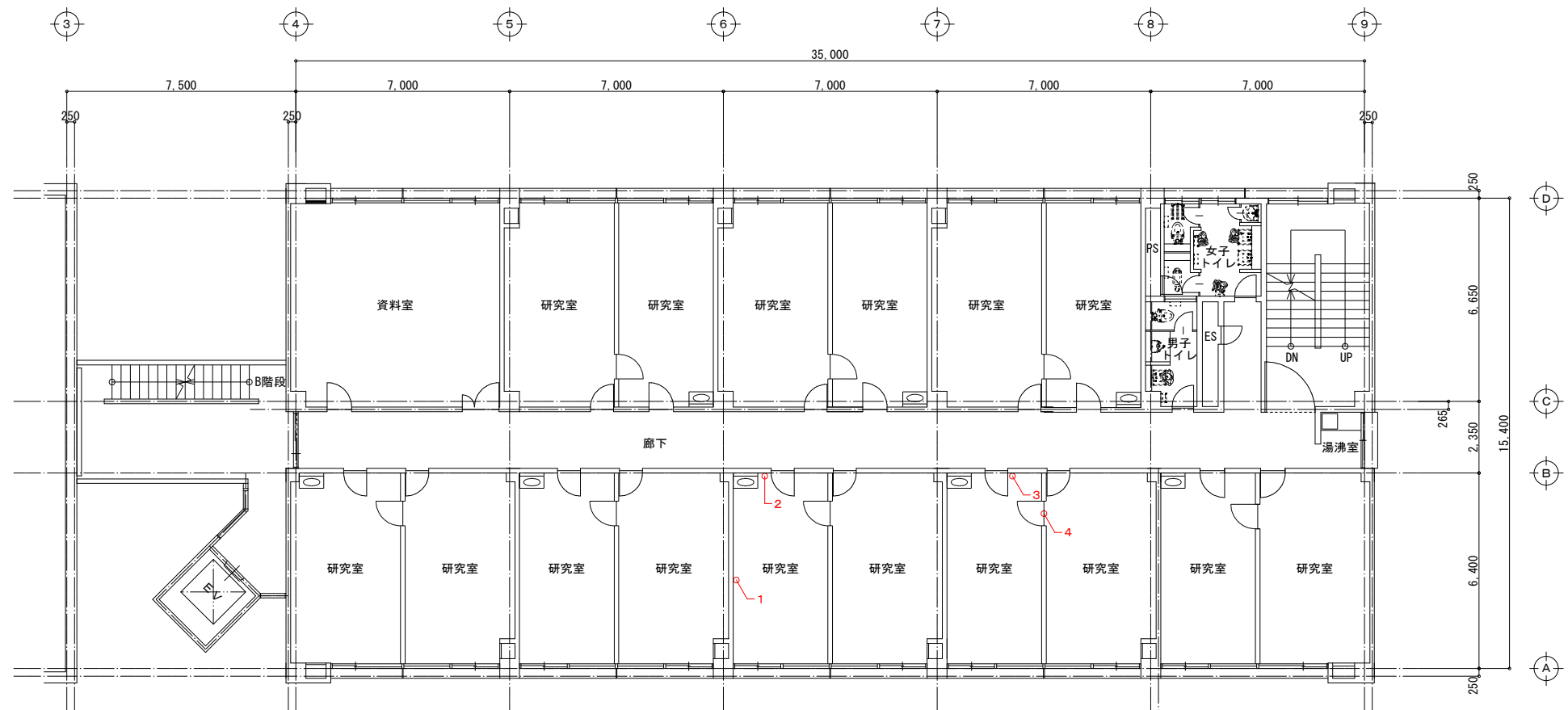


状況及び改修方法一覧

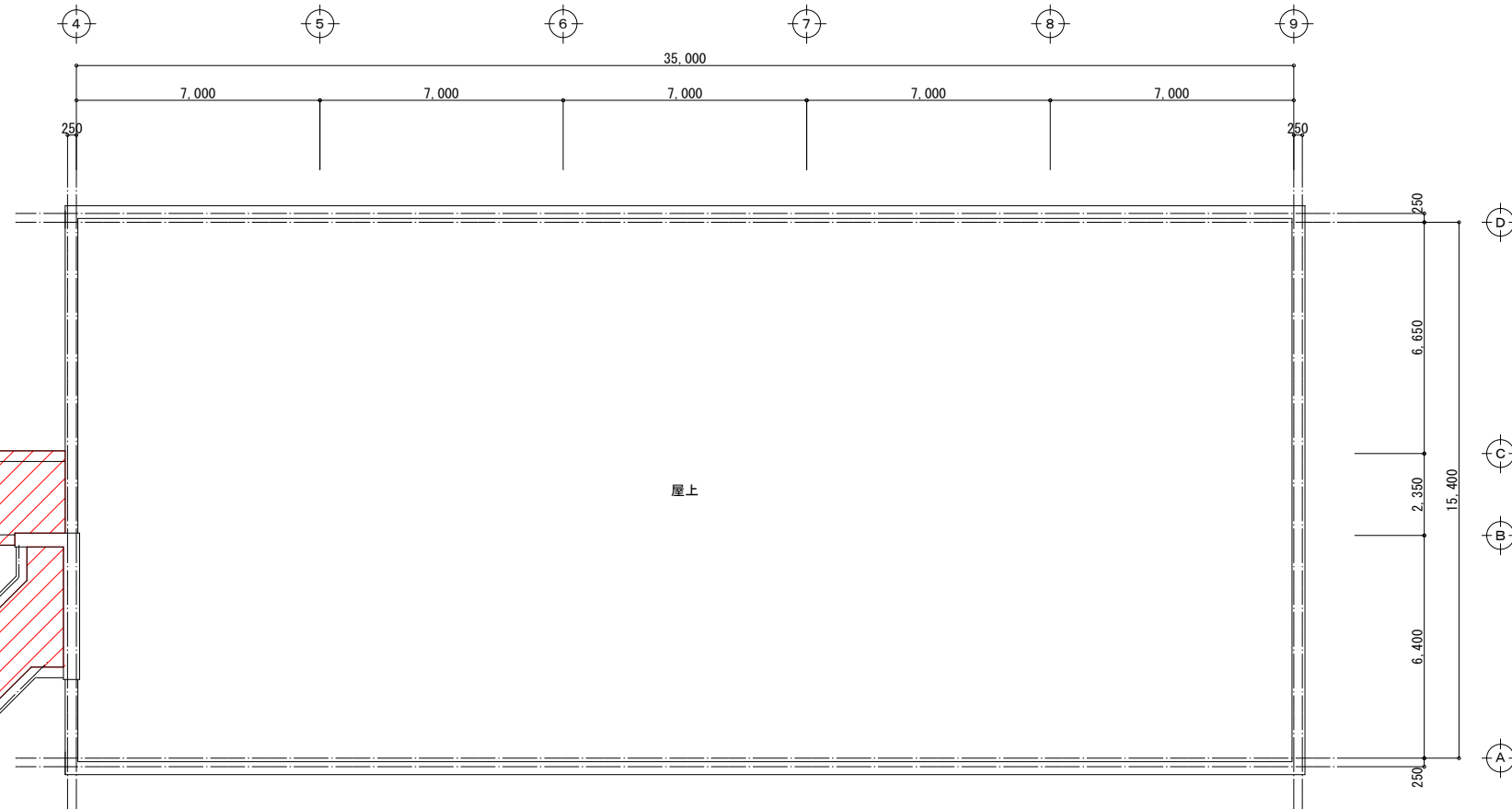
番号	損傷状況	改修方法		
		改修工法	数量	単位
1	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入	1.00	m
		E P 塗装 (L1000×W100)	0.10	m ²
2	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入	0.50	m
		E P 塗装 (L500×W100)	0.05	m ²
3	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入	0.70	m
		E P 塗装 (L700×W100)	0.07	m ²
4	建具開閉不可	扉の交換 (詳細は建具表参照のこと)	1	箇所

建具表 (扉交換) 1/50

形式	片開き軽量フラッシュドア
姿図	
仕上げ	焼付塗装
ガラス	-
枠	既存枠を使用 仕上げは下地調整の上、SOP塗装 丁番取付用フラットバー補強 (既存ヒボットヒンジ撤去)
金物	ドアクローザ、丁番、他標準一式 握り玉、シリンダー・サムターンは既存の物を使用
備考	戸のサイズについては、製作の際に現状の確認を行うこと。



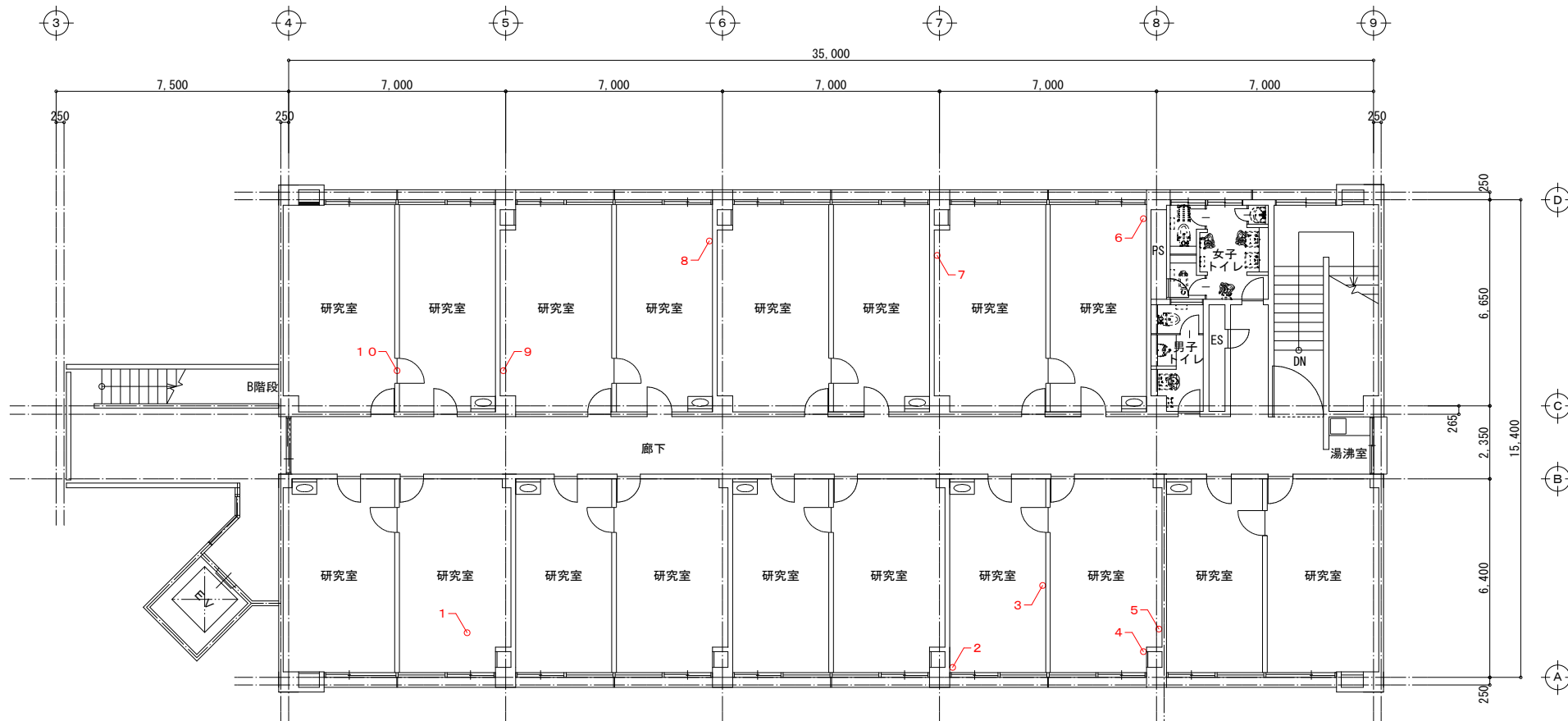
3階平面図



屋根伏図

状況及び改修方法一覧

番号	損傷状況	改修方法		
		改修工法	数量	単位
1	天井ボードに染み	化粧石膏ボード (t9.5) 撤去・新設 (900×900×4枚)	3.24	m ²
2	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入	2.80	m
		E.P.塗装 (L2800×W100)	0.28	m ²
3	天井ボードに染み	化粧石膏ボード (t9.5) 撤去・新設 (900×900×2枚)	1.62	m ²
4	壁ボード jointクラック	コーキング処理	2.30	m
5	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入	1.80	m
		E.P.塗装 (L1800×W100)	0.18	m ²
6	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入	2.65	m
		E.P.塗装 (L2650×W100)	0.27	m ²
7	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入	4.10	m
		E.P.塗装 (L4100×W100)	0.41	m ²
8	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入	3.50	m
		E.P.塗装 (L3500×W100)	0.35	m ²
9	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入	2.55	m
		E.P.塗装 (L2550×W100)	0.26	m ²
10	建具開閉不可	扉の交換 (詳細は建具表参照のこと)	1	箇所
11	屋根シート防水のはがれ	※詳細図参照のこと		
12	屋根シート防水のはがれ	※詳細図参照のこと		

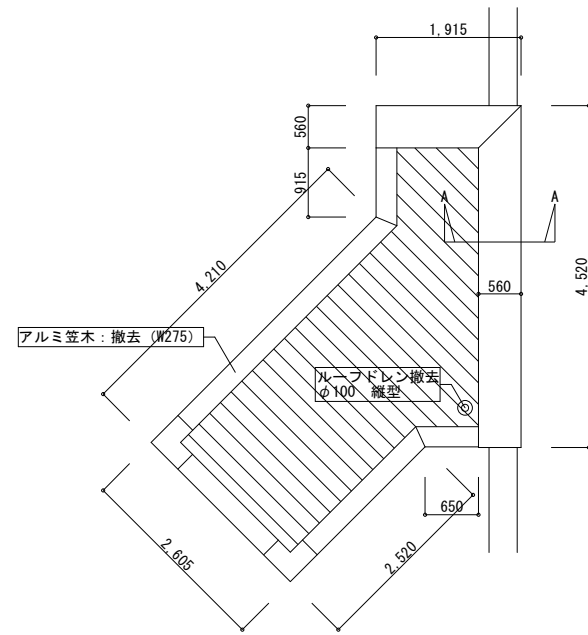


4階平面図

建具表 (扉交換) 1/50

形式	片開き軽量フラッシュドア
図	
仕上げ	焼付塗装
ガラス	-
枠	既存枠を使用 仕上げは下地調整の上、SOP塗装 丁番取付用フラットバー補強 (既存ビスボルトヒンジ撤去)
金物	ドアクローザ、丁番、他標準一式 握り玉、シリンダー・サムターンは既存の物を使用
備考	戸のサイズについては、製作の際に現状の確認を行うこと。

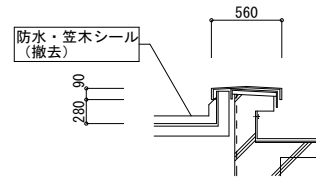
改修前



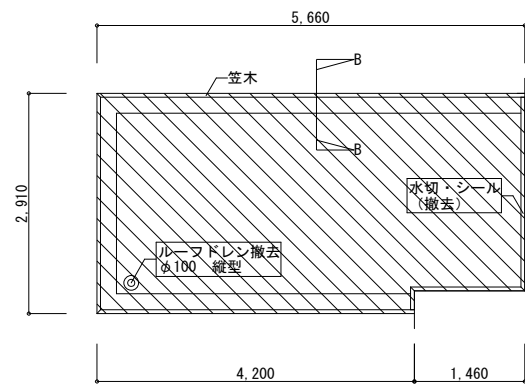
E V 室屋根伏図

※ は、防水撤去範囲を示す。

- 既存防水仕様
 ・平場：塩ビシート防水
 ・立上り：塩ビシート防水



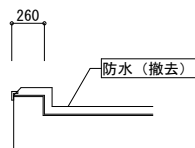
A-A断面図 1/30



階段室屋根伏図

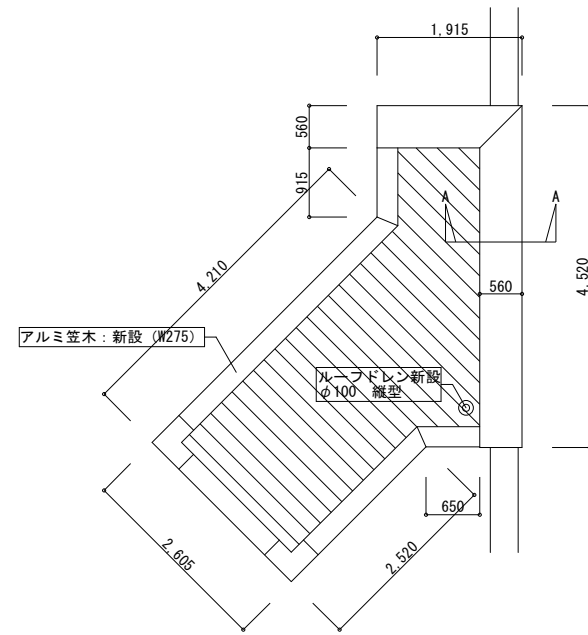
※ は、防水撤去範囲を示す。

- 既存防水仕様
 ・平場：塩ビシート防水
 ・立上り：塩ビシート防水



B-B断面図 1/30

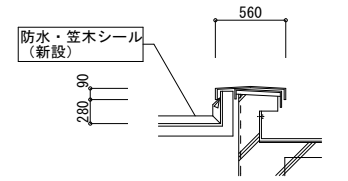
改修後



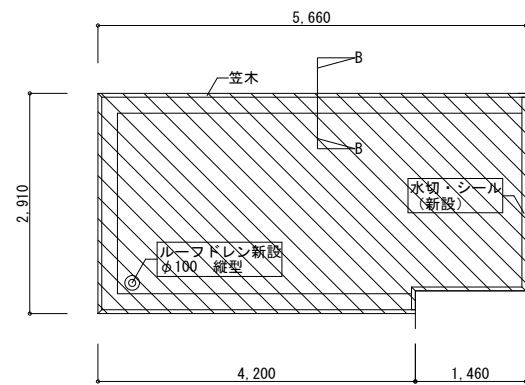
E V 室屋根伏図

※ は、防水新設範囲を示す。

- 防水改修仕様
 ・平場：高圧洗浄、下地調整の上、ウレタン塗膜防水 (X-1)
 ・立上り：高圧洗浄、下地調整の上、ウレタン塗膜防水 (X-2)
 ・脱気筒：1箇所



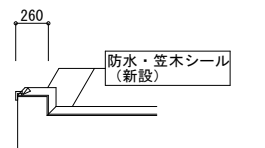
A-A断面図 1/30



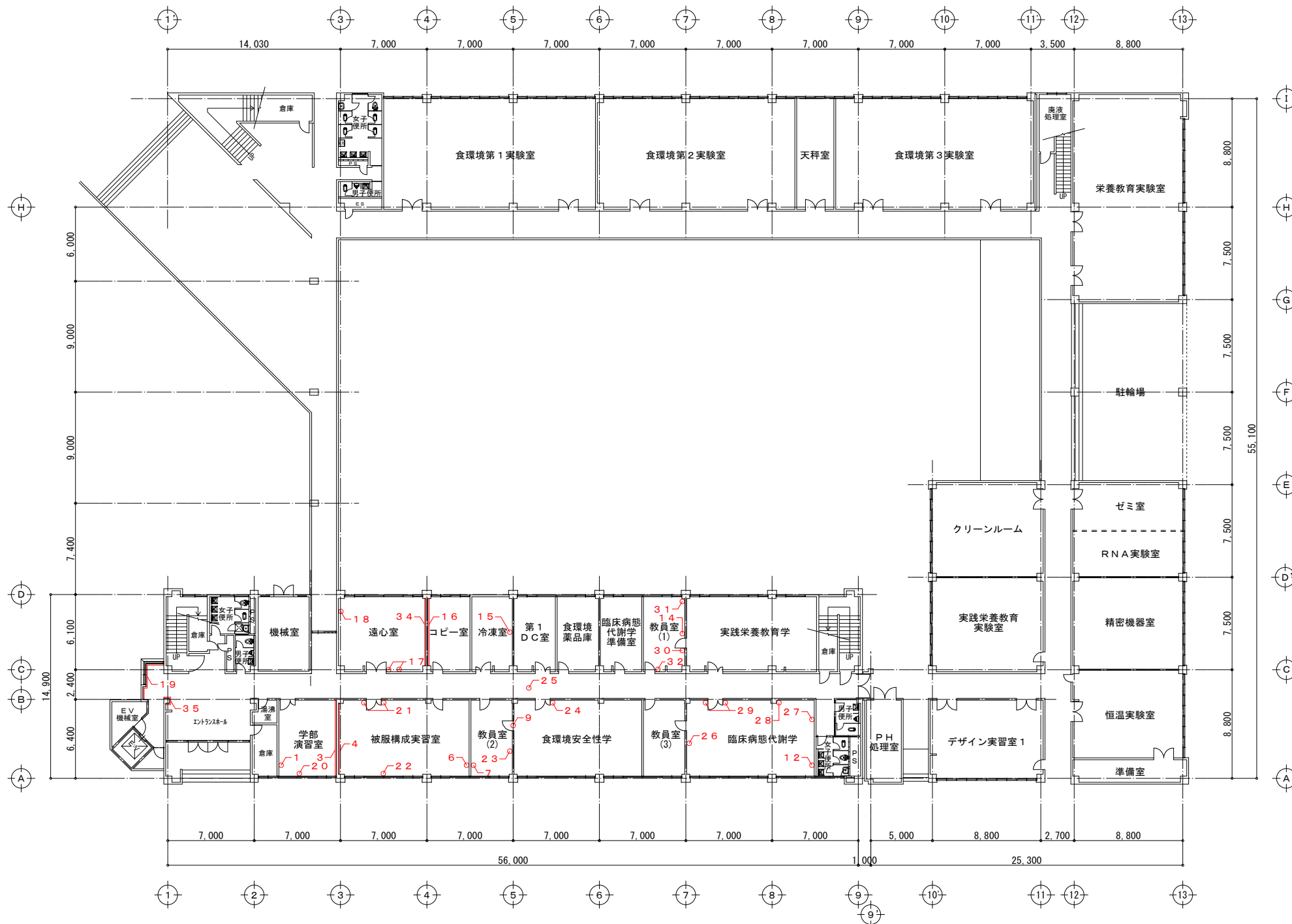
階段室屋根伏図

※ は、防水新設範囲を示す。

- 防水改修仕様
 ・平場：高圧洗浄、下地調整の上、ウレタン塗膜防水 (X-1)
 ・立上り：高圧洗浄、下地調整の上、ウレタン塗膜防水 (X-2)
 ・脱気筒：1箇所



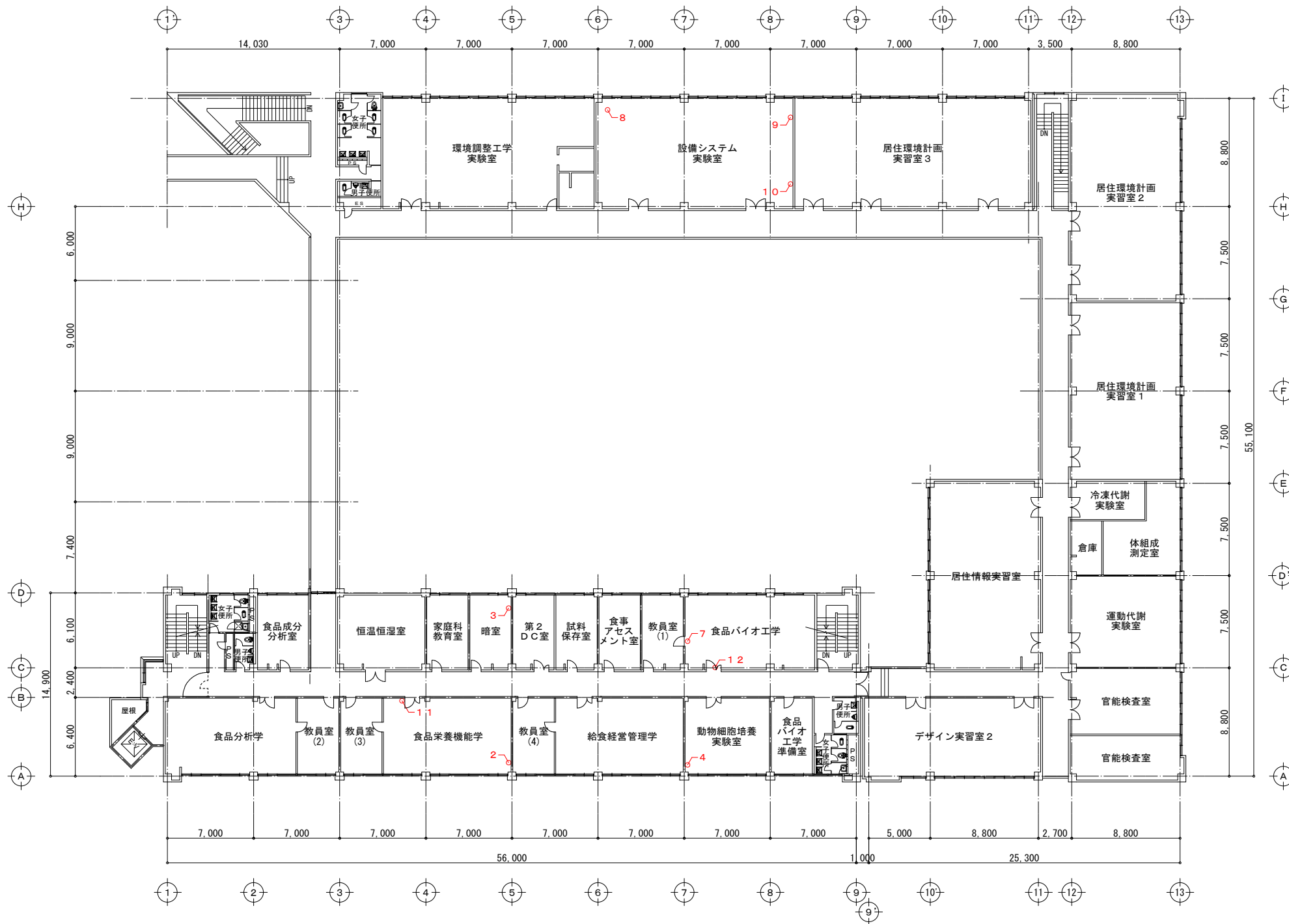
B-B断面図 1/30



1階平面図

状況及び改修方法一覧

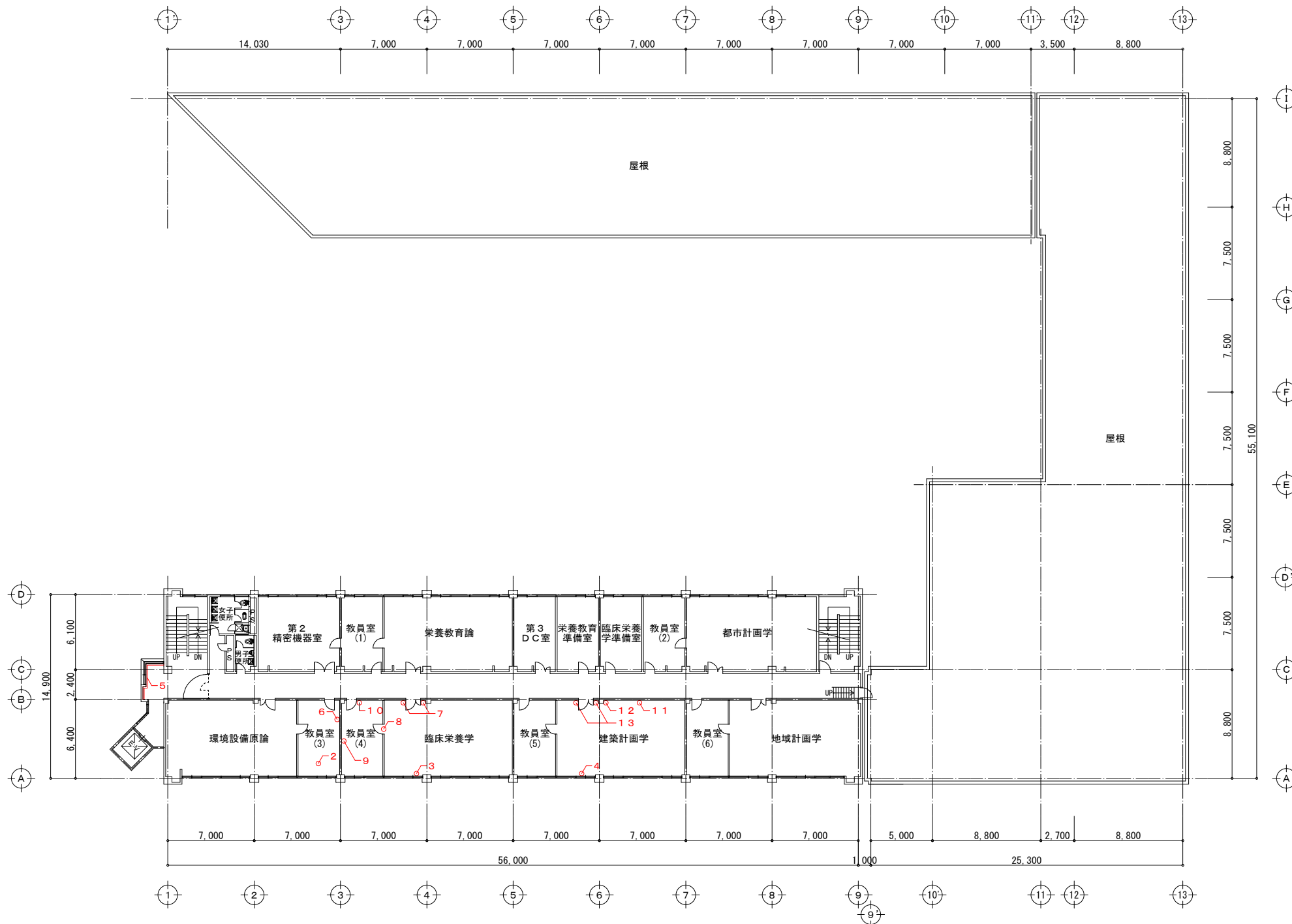
番号	損傷状況	改修方法		
		改修工法	数量	単位
1	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入 E P 塗装 (W8400×H100)	8.40 0.84	m ㎡
2	欠番			
3	壁ひび割れ	全面モルタル補修 (W6200×H2400) 全面 E P 塗装	14.88	m
4	壁ひび割れ	全面モルタル補修 (W5730×H2500) 全面 E P 塗装	14.33	m
5	欠番			
6	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入 E P 塗装 (W4400×H100)	4.40 0.44	m ㎡
7	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入 E P 塗装 (W7750×H100)	7.75 0.78	m ㎡
8	欠番			
9	建具調整	扉の交換 (詳細は3階平面図建具表参照のこと)	1	箇所
10	欠番			
11	欠番			
12	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入 E P 塗装 (W1800×H100)	1.80 0.18	m ㎡
13	欠番			
14	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入 E P 塗装 (W2930×H100)	2.93 0.29	m ㎡
15	壁ひび割れ・欠損	エポキシ樹脂注入 欠損部モルタル補修 (100角) E P 塗装 (W3900×H100、100角)	3.90 0.01 0.40	m ㎡ ㎡
16	壁ひび割れ	全面モルタル補修 (W5430×H2500) 全面 E P 塗装	13.58	㎡
17	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入 E P 塗装 (W6250×H100)	6.25 0.63	m ㎡
18	壁ひび割れ	全面モルタル補修 (W4650×H2480) 全面 E P 塗装	11.53	㎡
19	塗装のはがれ・欠損	欠損部モルタル補修 (W70×D50×H200) E P 塗装 (W3400×H460) E P 塗装 (W1240×H270)	0.01 1.57 0.34	m3 ㎡ ㎡
20	壁ひび割れ (腰壁)	エポキシ樹脂注入 E P 塗装 (W1790×H100)	1.79 0.18	m ㎡
21	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入 E P 塗装 (W1750×H100)	1.75 0.18	m ㎡
22	壁ひび割れ (腰壁)	エポキシ樹脂注入 E P 塗装 (W1400×H100)	1.40 0.14	m ㎡
23	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入 E P 塗装 (W2650×H100)	2.65 0.27	m ㎡
24	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入 E P 塗装 (W5450×H100)	5.45 0.55	m ㎡
25	床下点検口 仕上げ無し	P タイル新設 (600角)	1	箇所
26	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入 E P 塗装 (W5450×H100)	5.45 0.55	m ㎡
27	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入 E P 塗装 (W500×H100)	0.50 0.05	m ㎡
28	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入 E P 塗装 (W800×H100)	0.80 0.08	m ㎡
29	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入 E P 塗装 (W7330×H100)	7.33 0.73	m ㎡
30	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入 E P 塗装 (W1150×H100)	1.15 0.12	m ㎡
31	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入 E P 塗装 (W2000×H100)	2.00 0.20	m ㎡
32	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入 E P 塗装 (W1650×H100)	1.65 0.17	m ㎡
33	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入 E P 塗装 (W3300×H100)	3.30 0.33	m ㎡
34	壁ひび割れ	全面モルタル補修 (W5430×H2480) 全面 E P 塗装	13.47	㎡
35	塗装のはがれ	E P 塗装 (W1510×H100)	1.51	㎡



2階平面図

状況及び改修方法一覧

番号	損傷状況	改修方法		
		改修工法	数量	単位
1	欠番			
2	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入 E P 塗装 (W4000×H100)	4.00 0.40	m ㎡
3	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入 E P 塗装 (W2000×H100)	2.00 0.20	m ㎡
4	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入 E P 塗装 (W4200×H100)	4.20 0.42	m ㎡
5	欠番			
6	欠番			
7	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入 E P 塗装 (W1000×H100)	1.00 0.10	m ㎡
8	天井ボードの破損	化粧石膏ボード (t9.5) 撤去・復旧 (900角×1) (1200角×1) (900×1200)	3.33	㎡
9	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入 E P 塗装 (W4000×H100)	4.00 0.40	m ㎡
10	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入 E P 塗装 (W2000×H100)	2.00 0.20	m ㎡
11	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入 E P 塗装 (W100×H400)	0.40 0.04	m ㎡
12	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入 E P 塗装 (W100×H1050)	1.05 0.11	m ㎡



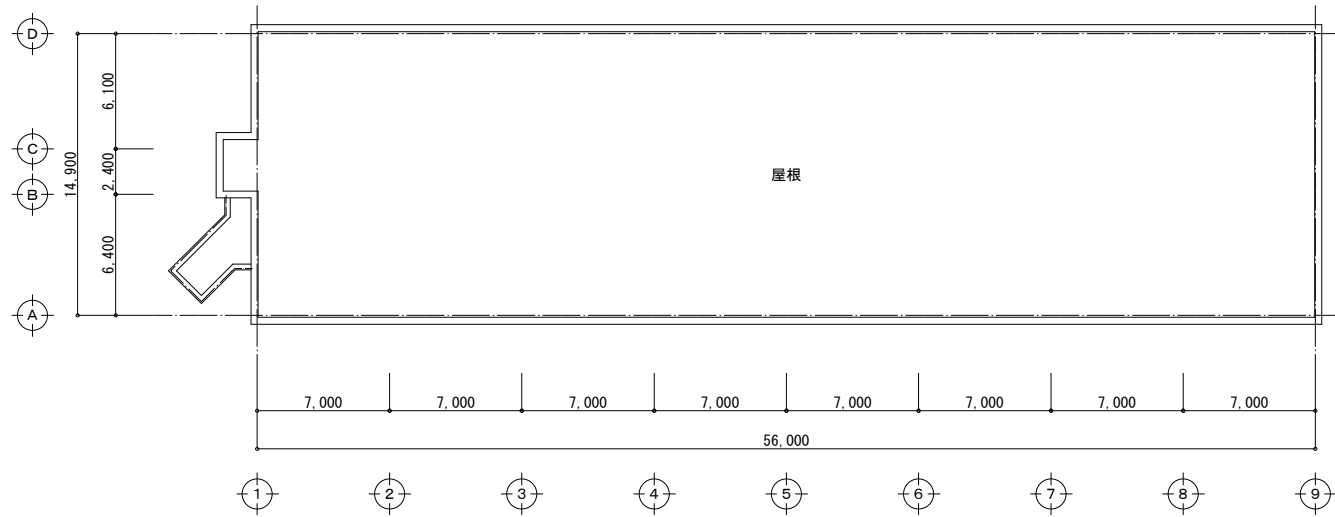
3階平面図

状況及び改修方法一覧

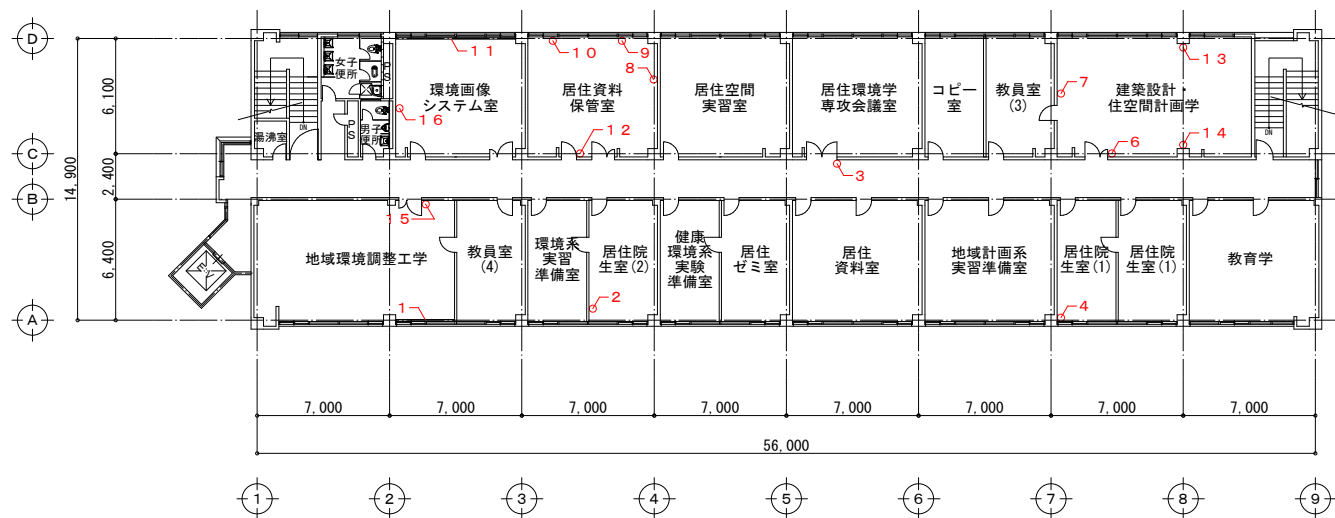
番号	損傷状況	改修方法		
		改修工法	数量	単位
1	欠番			
2	天井ボード破損	化粧石膏ボード (t9.5) 撤去・新設 (900角)	0.81	m ²
3	壁ひび割れ (腰壁)	エポキシ樹脂注入 E P 塗装 (W100×H150)	0.15 0.02	m m ²
4	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入 E P 塗装 (W1000×H100)	1.00 0.10	m m ²
5	壁塗装のはがれ (腰壁)	下地調整 E P 塗装 (W4630×H400)	1.85	m ²
6	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入 E P 塗装 (W1300×H100)	1.30 0.13	m m ²
7	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入 E P 塗装 (W1400×H100)	1.40 0.14	m m ²
8	建具調整	扉の交換 (詳細は建具表参照のこと)	1	箇所
9	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入 E P 塗装 (W6000×H100)	6.00 0.60	m m ²
10	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入 E P 塗装 (W100×H2400)	2.40 0.24	m m ²
11	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入 E P 塗装 (W2250×H100)	2.25 0.23	m m ²
12	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入 E P 塗装 (W100×H800)	0.80 0.08	m m ²
13	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入 E P 塗装 (W100×H1000)	1.00 0.10	m m ²

建具表 (扉交換) 1/50

形式	片開き軽量フラッシュドア
姿図	
仕上げ	焼付塗装
ガラス	-
枠	既存枠を使用 仕上げは下地調整の上、SOP塗装 丁番取付用フラットバー補強 (既存ビスボルトヒンジ撤去)
金物	ドアクローザ 丁番、他標準一式 握り玉、シリンダー・サムターンは既存の物を使用
備考	戸のサイズについては、製作の際に現状の確認を行うこと。



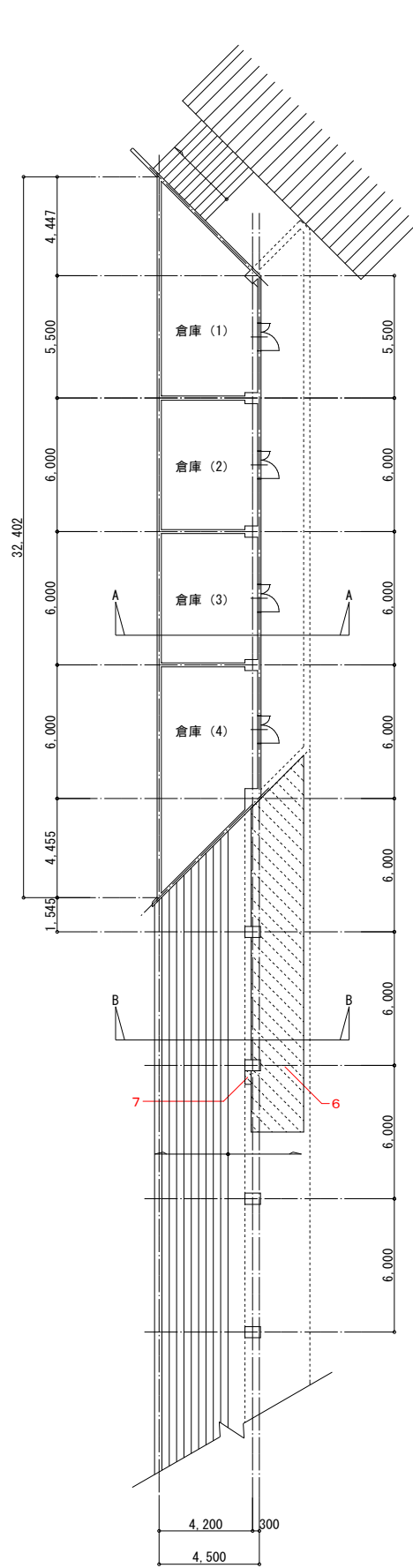
屋根伏図



4階平面図

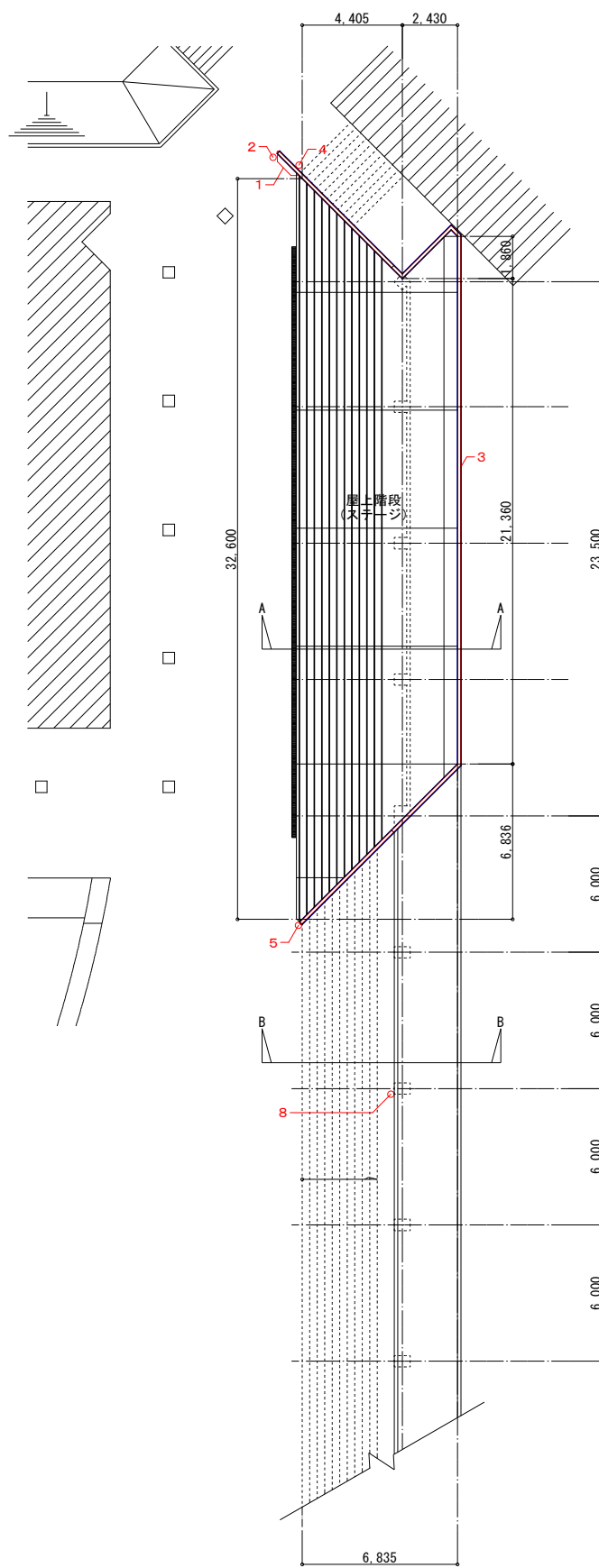
状況及び改修方法一覧

番号	損傷状況	改修方法		
		改修工法	数量	単位
1	壁ボードすき間	石膏ボード (t12.5) 撤去・新設 (W3100×H350) E P 塗装	1.09	m ²
2	壁棧木外れ	壁棧木取付 (D20×H30)	3.60	m
3	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入 E P 塗装 (W100×H1500)	1.50 0.15	m m ²
4	壁ボード塗装のはがれ	石膏ボード (t12.5) 撤去・新設 (W3150×H250) E P 塗装	0.79	m ²
5	欠番			
6	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入 E P 塗装 (W400×H100)	0.40 0.04	m m ²
7	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入 E P 塗装 (W4400×H100)	4.40 0.44	m m ²
8	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入 E P 塗装 (W2800×H100)	2.80 0.28	m m ²
9	壁ひび割れ (腰壁)	エポキシ樹脂注入 E P 塗装 (W6700×H100)	6.70 0.67	m m ²
10	壁ボードの破損	石膏ボード (t12.5) 撤去・新設 (W1850×H350) E P 塗装	0.65	m ²
11	壁ボード塗装のはがれ (全面)	下地調整 E P 塗装 (W6330×H250)	1.58	m ²
12	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入 E P 塗装 (W100×H2500)	2.50 0.25	m m ²
13	天井ボードの破損	化粧石膏ボード (t9.5) 撤去・新設 (900角)	0.81	m ²
14	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入 E P 塗装 (W1700×H100)	1.70 0.17	m m ²
15	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入 E P 塗装 (W100×H500)	0.50 0.05	m m ²
16	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入 E P 塗装 (W600×H100)	0.60 0.06	m m ²



1階平面図

※  は、スラブ下・梁下改修範囲を示す。

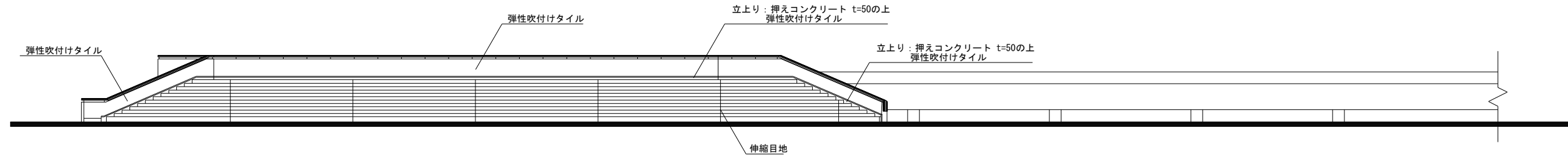


屋上階段平面図

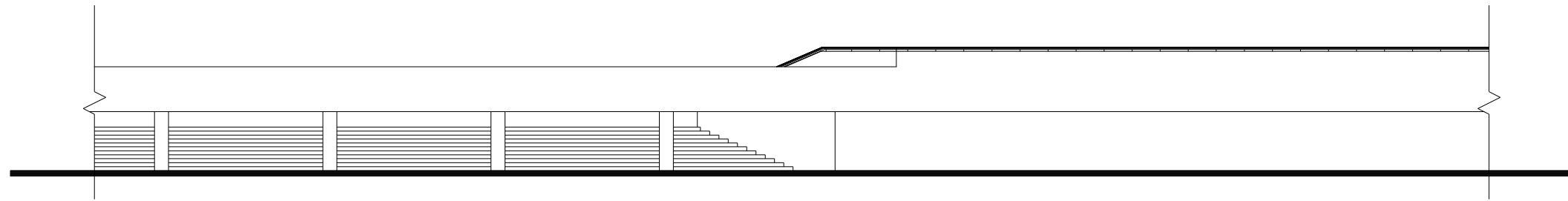
状況及び改修方法一覧

番号	損傷状況	改修方法		
		改修工法	数量	単位
1	手摺壁浮き、欠損	浮き、欠損部分撤去・復旧 (W1150×H650×D70)	1	箇所
2	既存床タイル割れ・浮き	床タイルの撤去・新設 (W650×D400)	0.26	m ²
3	スチール製手摺 塗装のはがれ、錆	ケレン清掃、錆止めの上、ウレタン塗装 (L44990×W471)	21.19	m ²
4	手摺壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入 E P 塗装 (W230×D100)	0.23 0.02	m m ²
5	手摺壁欠損	欠損部分撤去・復旧 (W100×H300×D50)	1	箇所
6	スラブ下塗装のはがれ	E P 塗装 (W2390×L14570) E P 塗装 (W2390×L2370×0.5)	37.65	m ²
7	梁下吹付け材の浮き	下地調整 弾性吹付けタイル (W280×L900)	0.25	m ²
8	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入 弾性吹付けタイル (W100×L900)	0.90 0.09	m m ²
9	手摺壁吹付改修	※範囲は立面図参照のこと		

改修前

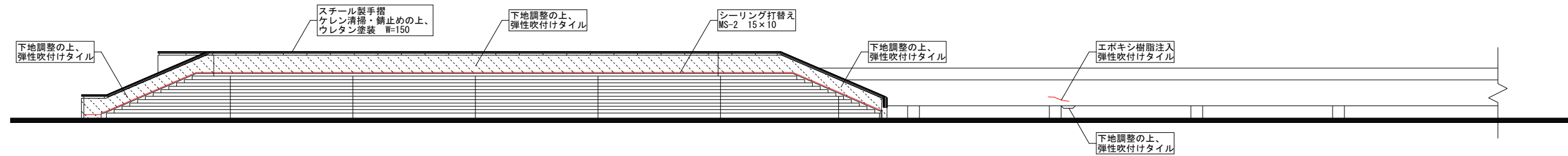


屋上階段側立面図



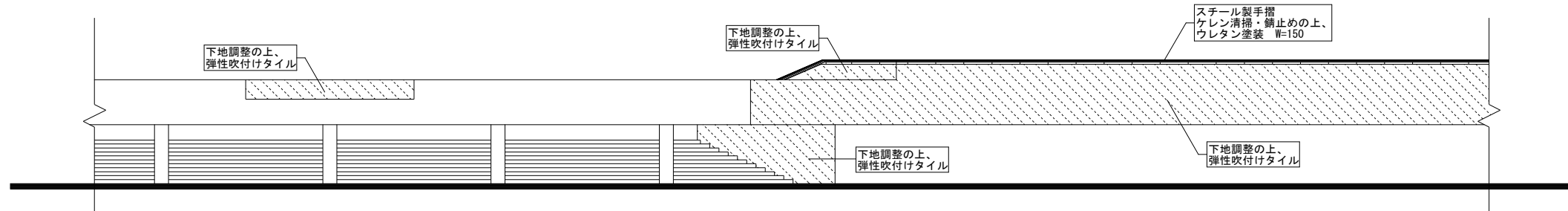
駐車場側立面図

改修後



屋上階段側立面図

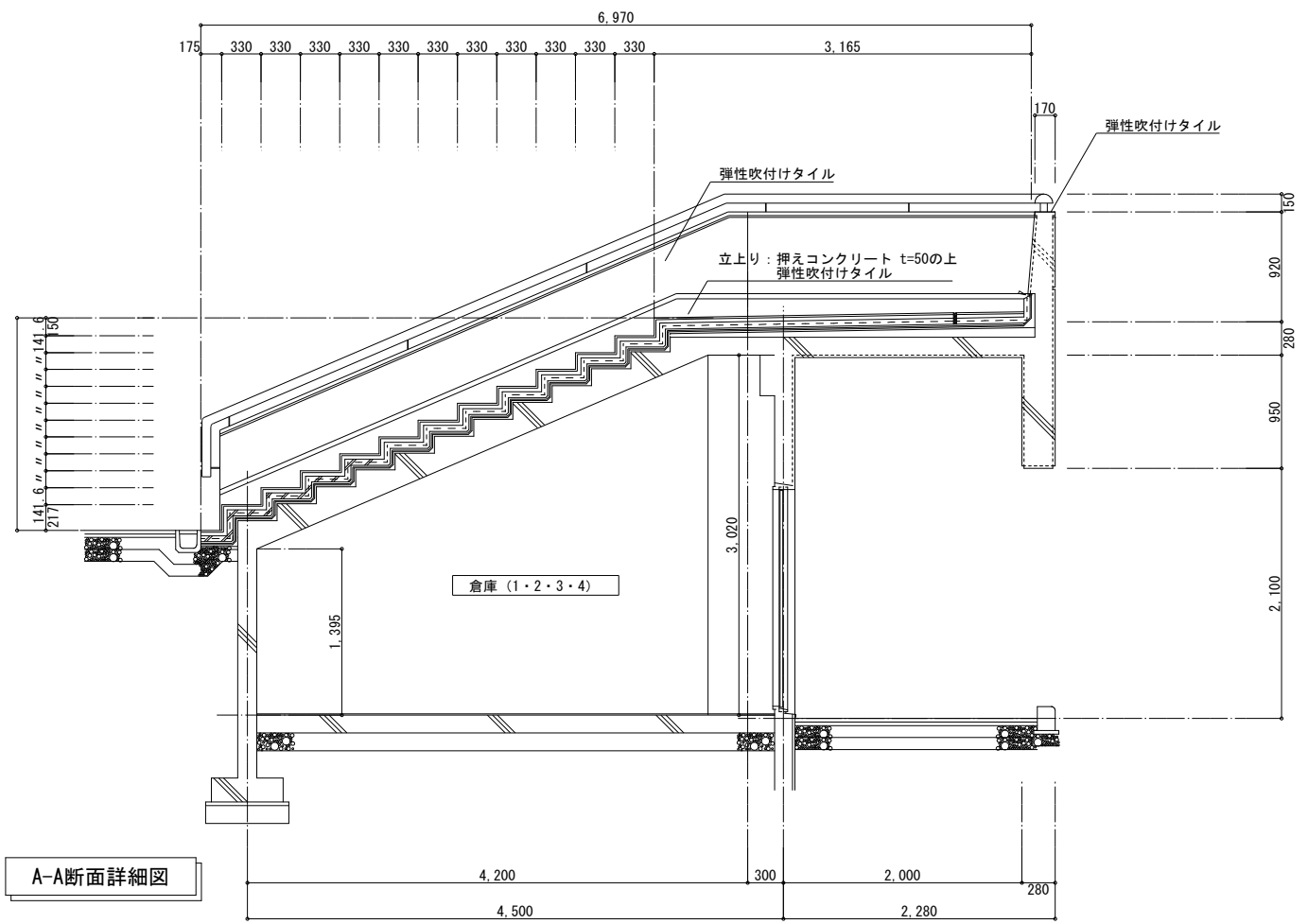
※ は、改修範囲を示す。



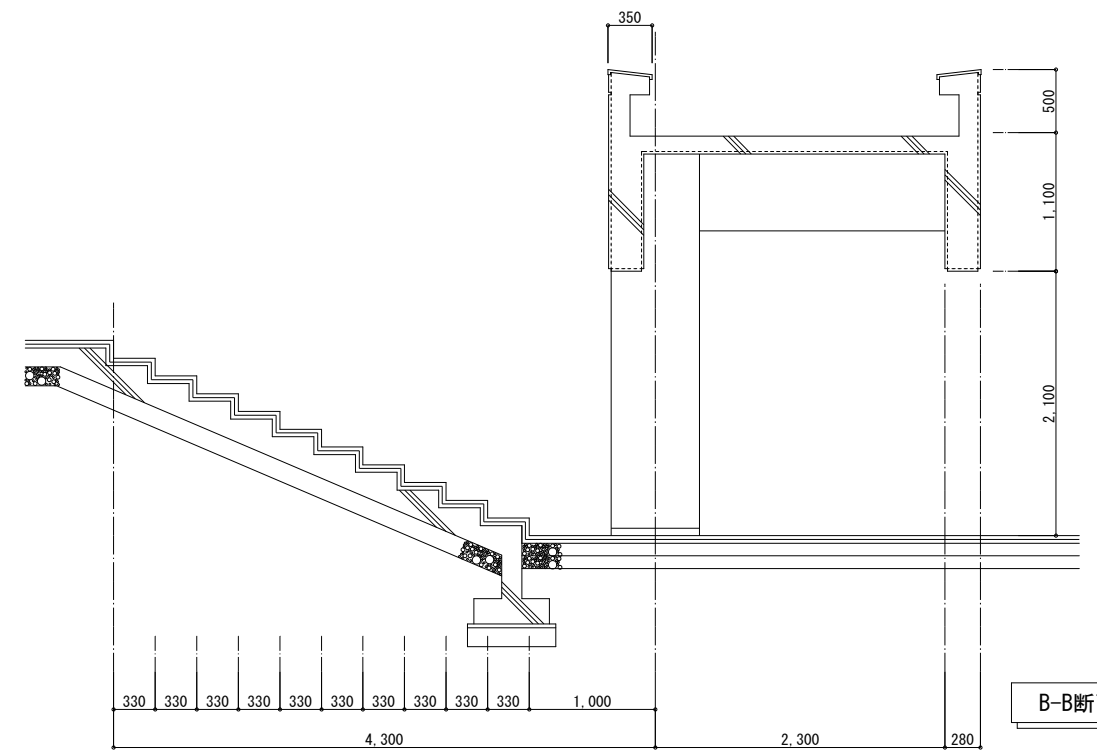
駐車場側立面図

※ は、改修範囲を示す。

改修前

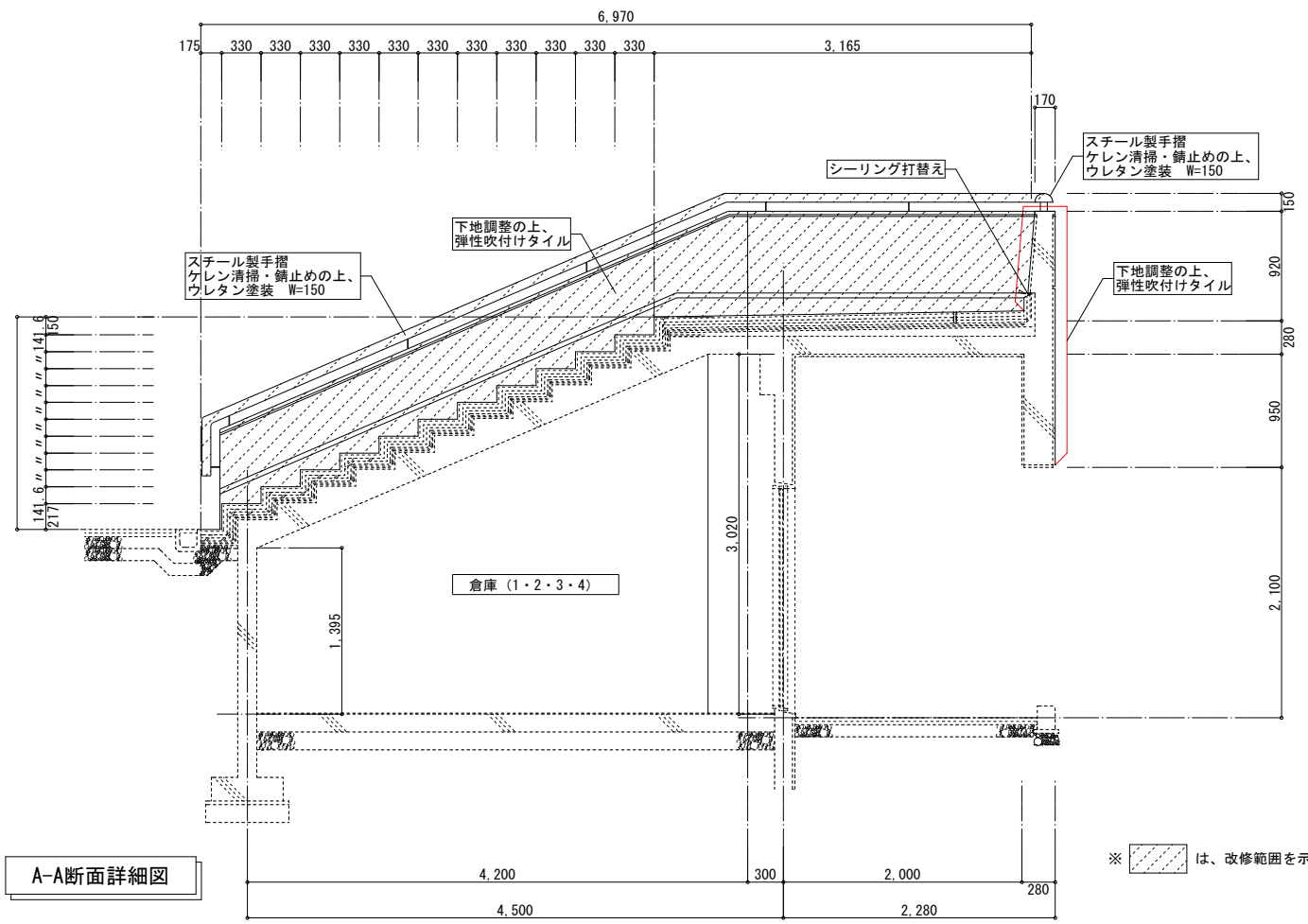


A-A断面詳細図



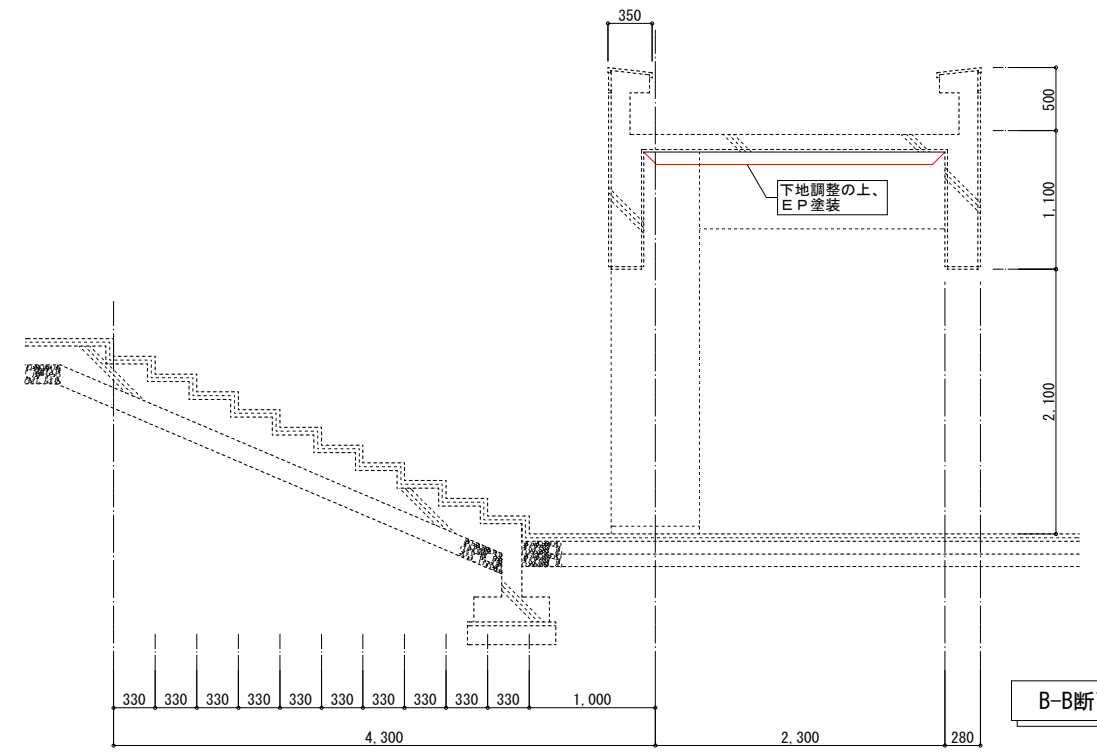
B-B断面詳細図

改修後

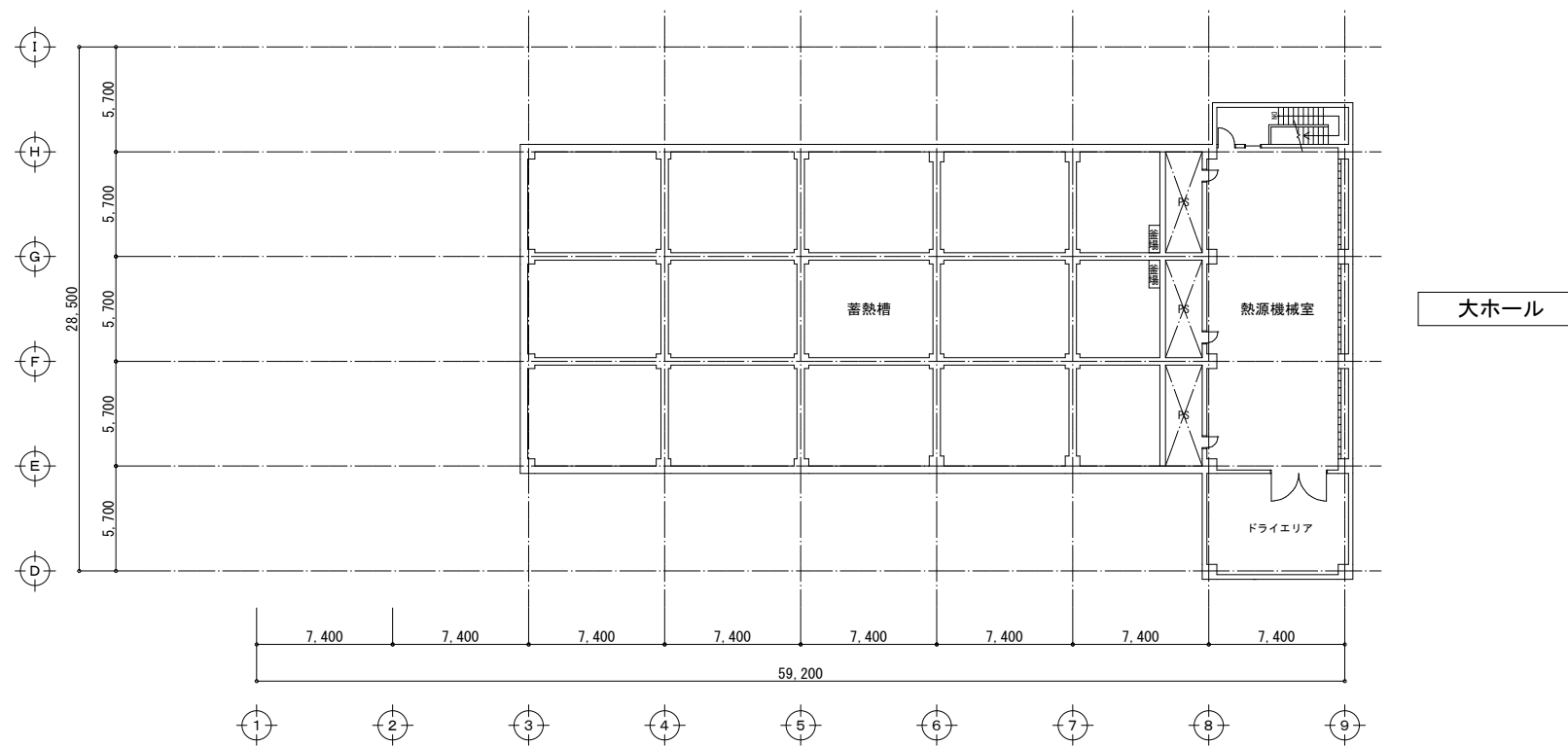


A-A断面詳細図

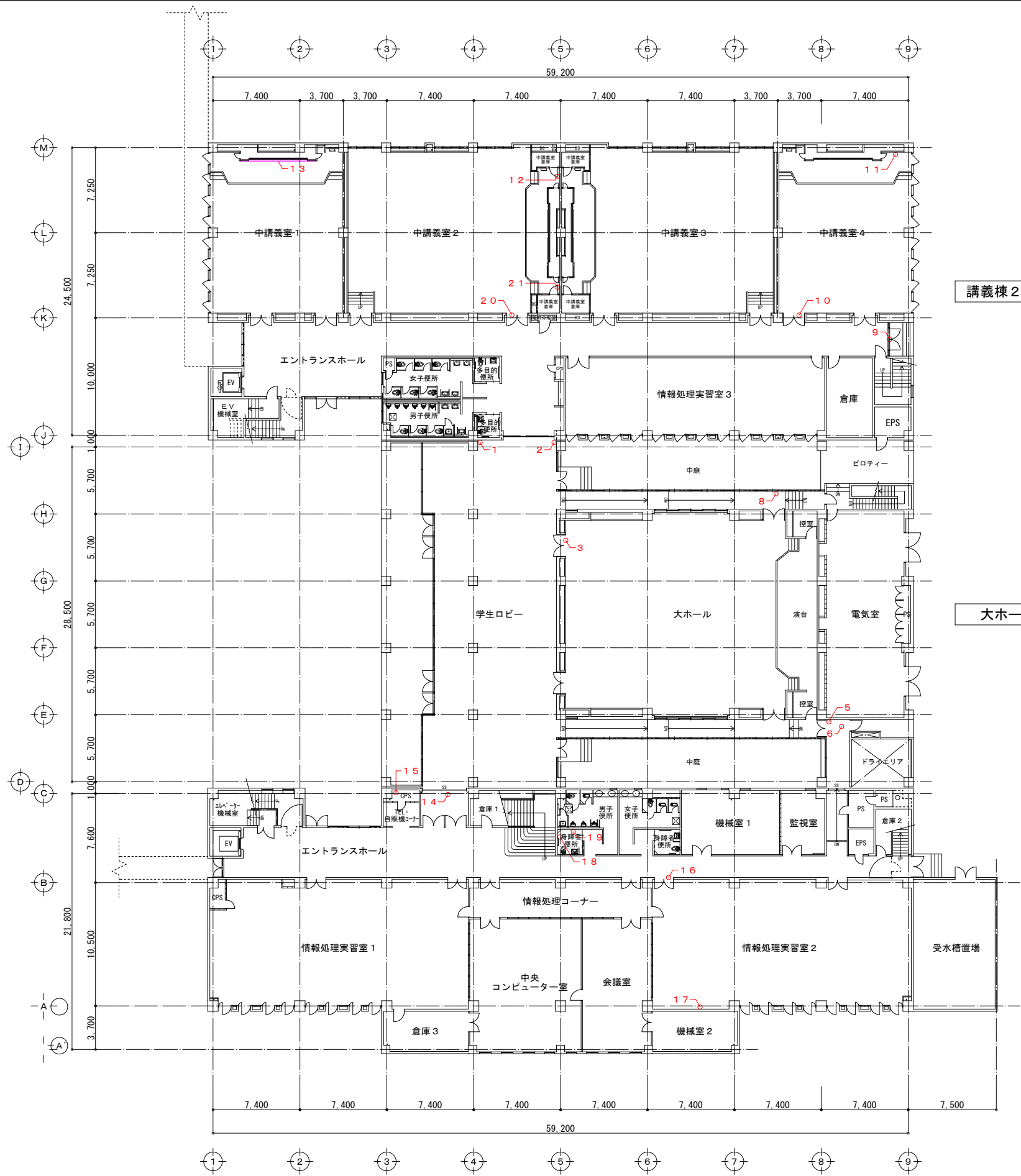
※ は、改修範囲を示す。



B-B断面詳細図



地階平面図



1階平面図

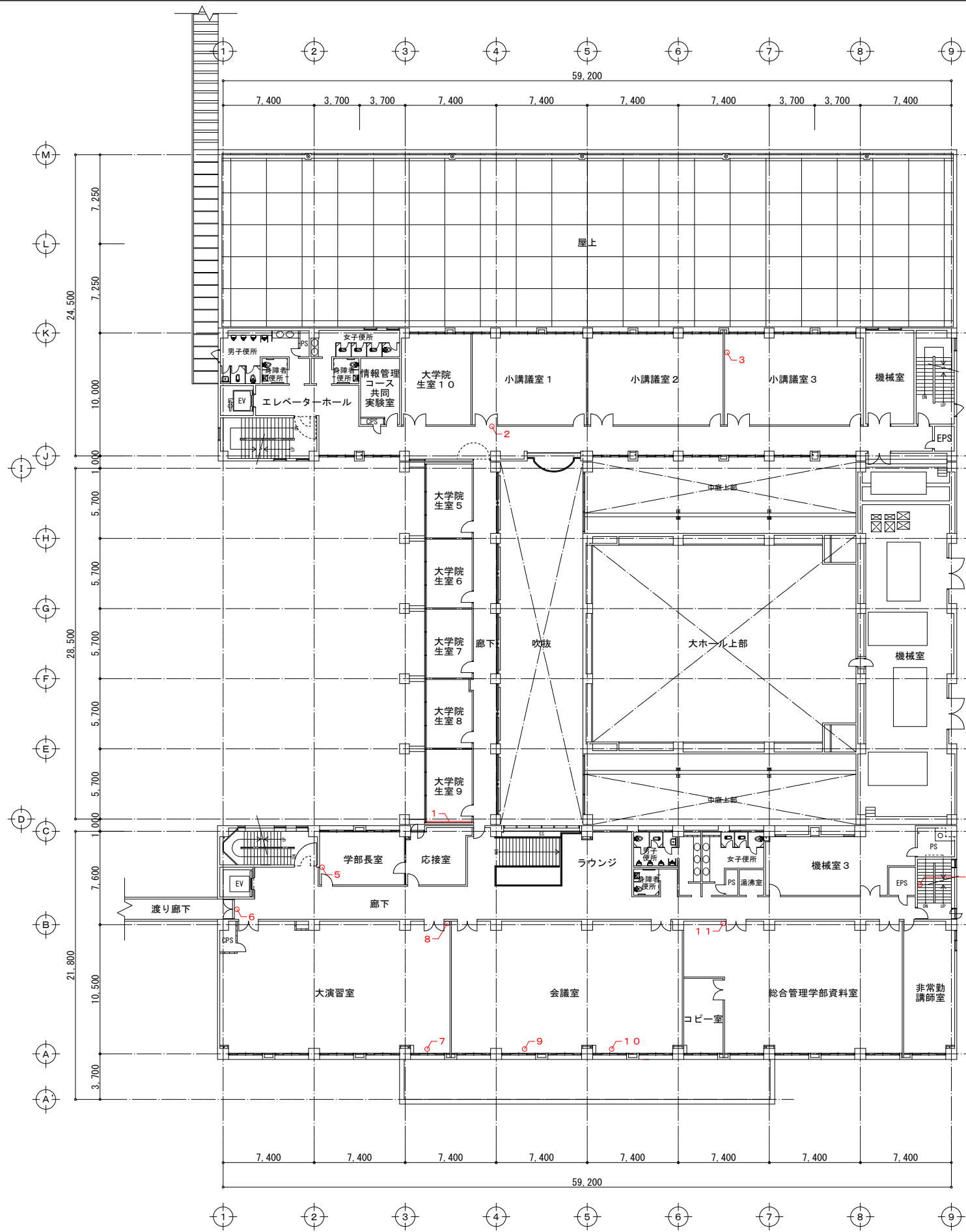
講義棟2号館

大ホール

総合管理学部棟

状況及び改修方法一覧

番号	損傷状況	改修方法		
		改修方法	数量	単位
1	E X P. Jの変形・シーリングのはがれ	E X P. Jカバーの調整 (垂直方向) シーリングの撤去・打替え (垂直方向)	7.50 15.00	m m
2	E X P. Jの変形・シーリングのはがれ	E X P. Jカバーの調整 (垂直方向) シーリングの撤去・打替え (垂直方向)	7.50 15.00	m m
3	扉閉閉不良 (S D)	建具調整 (扉サイズ: W1800×H2300)	1	箇所
4	欠番			
5	壁クラック・浮き	エポキシ樹脂注入 複層塗材E (W100×H2200)	2.20 0.22	m ㎡
6	天井ボードの染み	化粧石膏ボード (t9.5) 撤去・新設 (W300×L600×8枚)	1.44	㎡
7	欠番			
8	壁クロス、ボード結露カビ	石膏ボード (t12.5) 撤去・新設 (W4550×H1350) ビニールクロス張り	6.14	㎡
9	建具の故障 (A D)	フランス落としの交換 (扉サイズ: W900×H2000)	1	箇所
10	建具の故障 (S D)	ドアクローザーの交換 (扉サイズ: W900×H2000)	1	箇所
11	壁ボード穴あき	石膏ボード (t12.5) 撤去・新設 E P 塗装 (W910×H1350) 幅木撤去・新設 (H75)	1.23 1.23 1.00	㎡ ㎡ m
12	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入 E P 塗装 (W1600×H2450)	4.00 3.92	m ㎡
13	壁ボード塗装のはがれ	下地調整・E P 塗装 (W6570×H3150) - (黒板: W5000×H2100)	10.20	㎡
14	天井ボードの染み (2箇所)	石膏ボード捨貼 (t9.5) + 岩綿吸音板 (t12リフ付) 撤去・新設 (W2300×D600) (W400×D700)	1.66	㎡
15	セパコン外れ	欠損部補修 (150角) 欠損部補修 (200角)	7 1	箇所 箇所
16	建具の故障	フランス落としの交換 (扉サイズ: W800×H2000)	1	箇所
17	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入 E P 塗装 (W6000×H100)	6.00 0.60	m ㎡
18	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入 吹付タイル (W3300×H100)	3.30 0.33	m ㎡
19	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入 吹付タイル (W2500×H100)	2.50 0.25	m ㎡
20	建具の故障 (S D)	フランス落としの交換 (扉サイズ: W900×H2000)	1	箇所
21	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入 E P 塗装 (W400×H1200)	1.20 0.48	m ㎡



2階平面図

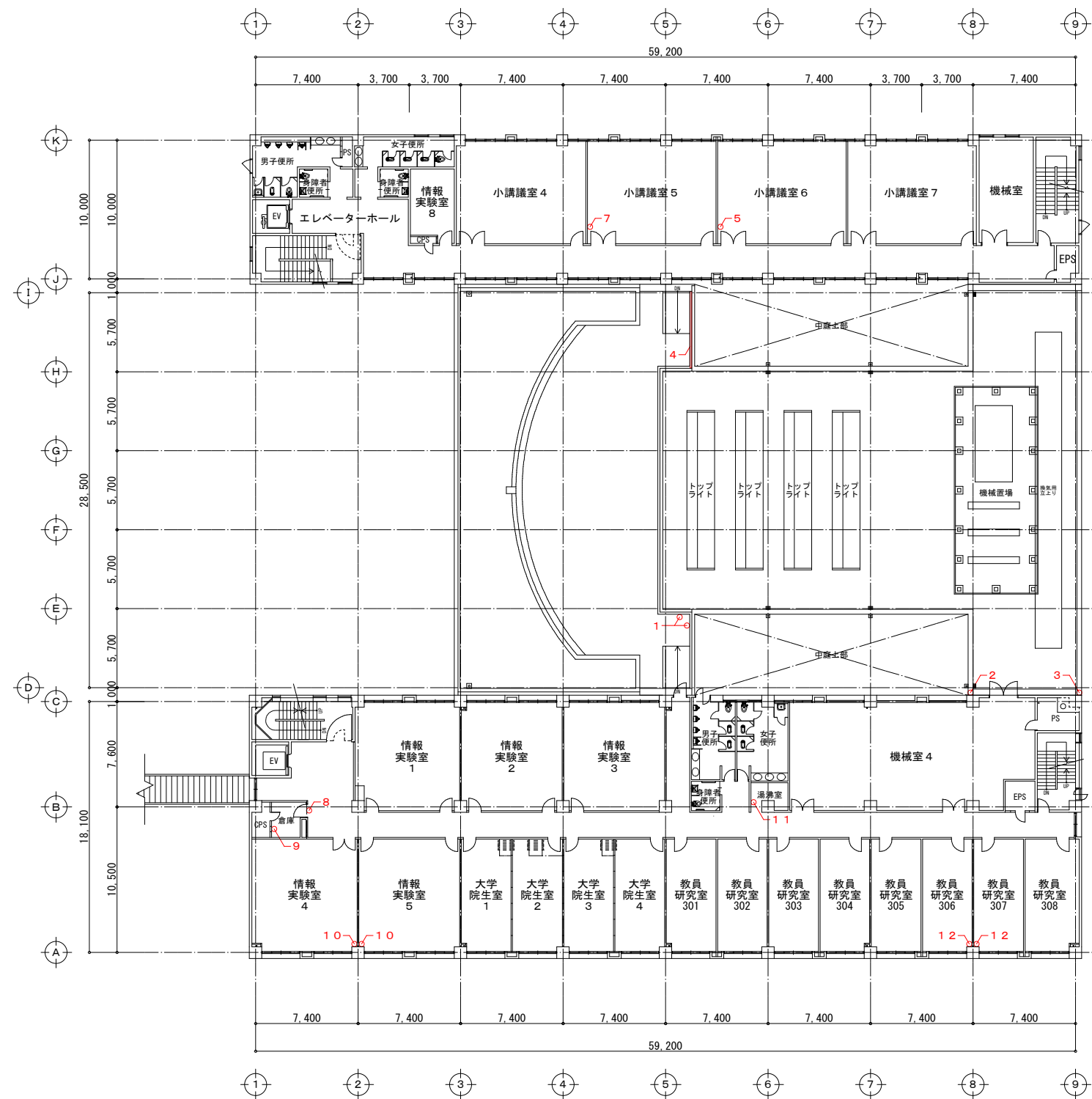
講義棟2号館

大ホール

総合管理学部棟

状況及び改修方法一覧

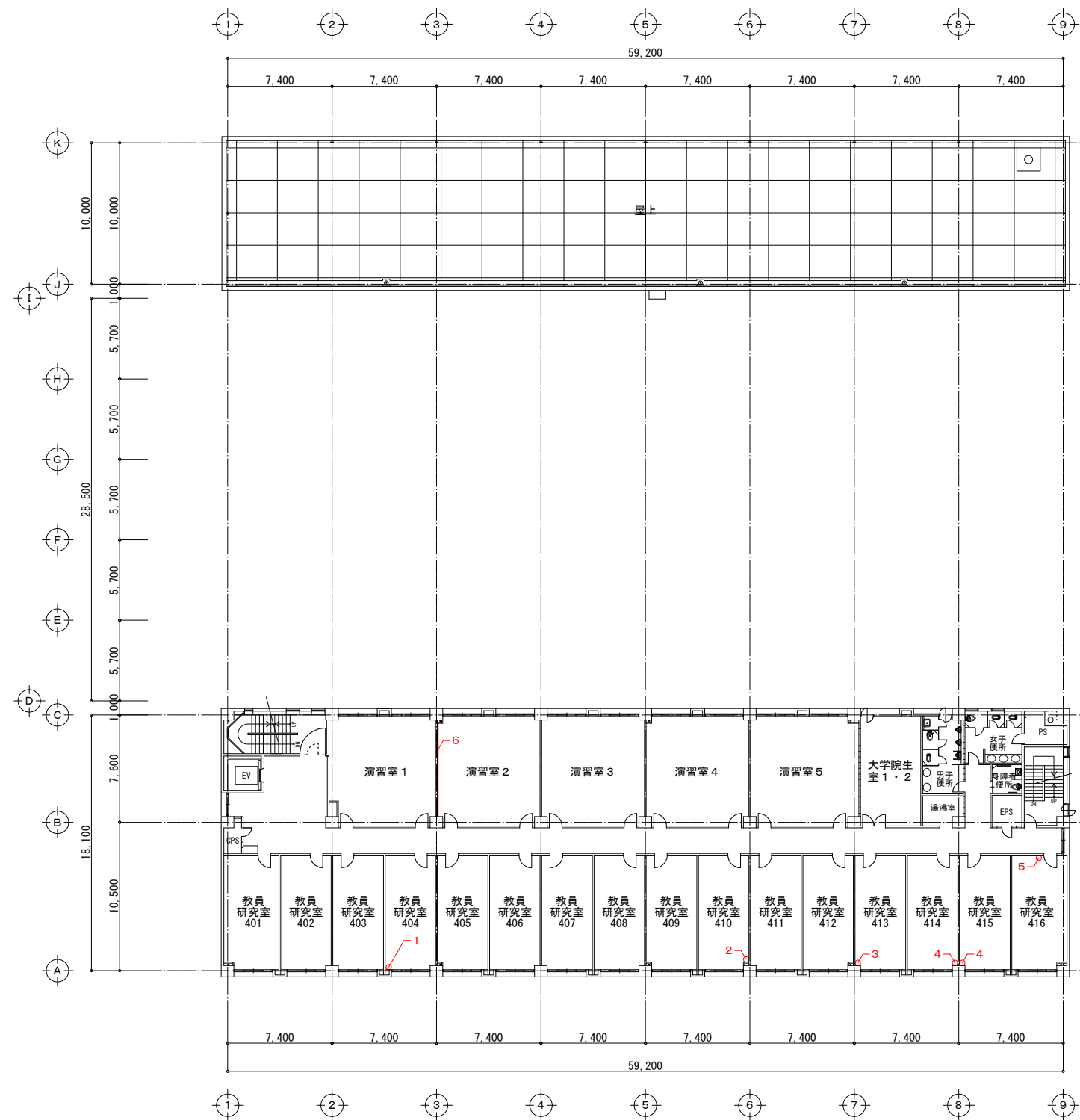
番号	損傷状況	改修方法		
		改修工法	数量	単位
1	壁クラック・塗装のはがれ(全面)	下地処理 E P 塗装 (W3500×H2500)	8.75	m ²
2	建具の故障 (S D)	フランス落としの交換 (扉サイズ: W900×H2000)	1	箇所
3	壁ボードの破損	石膏ボード (t12.5) 撤去・新設 E P 塗装 (W910×H1200) 幅木撤去・新設 (H75)	1.09 1.09 1.00	m ² m ² m
4	壁水平ひび割れ	エポキシ樹脂注入 複層塗材E (W3500×H100)	3.50 0.35	m m ²
5	壁ボードクロスのはび割れ	樹脂製フラット壁見切り材新設	2.50	m
6	建具の故障 (S D)	フラッシュボルト・B H ストライクの交換 (扉サイズ: 両開きW1535×H2760)	1	箇所
7	天井ボードの染み	石膏ボード捨貼 (t9.5) + 岩綿吸音板 (t12) 撤去・新設 (W3770×D1700)	6.41	m ²
8	壁ボード入隅のすきま	コーキング処理	1.40	m
9	天井ボードの染み	石膏ボード捨貼 (t9.5) + 岩綿吸音板 (t12) 撤去・新設 (W4100×D1000)	4.10	m ²
10	天井ボードの染み	石膏ボード捨貼 (t9.5) + 岩綿吸音板 (t12) 撤去・新設 (W3400×D500)	1.70	m ²
11	壁ボードの破損	パテ補修 (W350×H150) E P 塗装	0.05	m ²



3階平面図

状況及び改修方法一覧

番号	損傷状況	改修方法		
		改修工法	数量	単位
1	外壁塗装剥がれ	下地調整 複層塗材 E (W2300×H650) 複層塗材 E (W600×H550)	1.83	m ²
2	アルミ笠木シール切れ	既存シール撤去・新設 MS-2 10×10	1.22	m
3	アルミ笠木シール切れ	既存シール撤去・新設 MS-2 10×10	1.22	m
4	外壁塗装剥がれ	下地調整 複層塗材 E (W5650×H650)	3.67	m ²
5	壁ボードの破損	石膏ボード (t12.5) 撤去・新設 E P 塗装 (W1710×H1200) 幅木撤去・新設 (H75)	2.05 2.05 1.80	m ² m ² m
6	欠番			
7	壁ボードの破損	石膏ボード (t12.5) 撤去・新設 E P 塗装 (W1710×H1200) 幅木撤去・新設 (H75)	2.05 2.05 1.80	m ² m ² m
8	扉開閉不良 (SD)	建具調整 (扉サイズ: W900×H2000)	1	箇所
9	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入 E P 塗装 (W100×H4190)	4.19 0.42	m m ²
10	壁ボード入隅のすきま (2箇所)	コーキング処理 (H2500×2箇所)	5.00	m
11	幅木の破損	既存幅木の撤去・新設 (H75)	1.32	m
12	壁ボード入隅のすきま (2箇所)	コーキング処理 (H2500×2箇所)	5.00	m



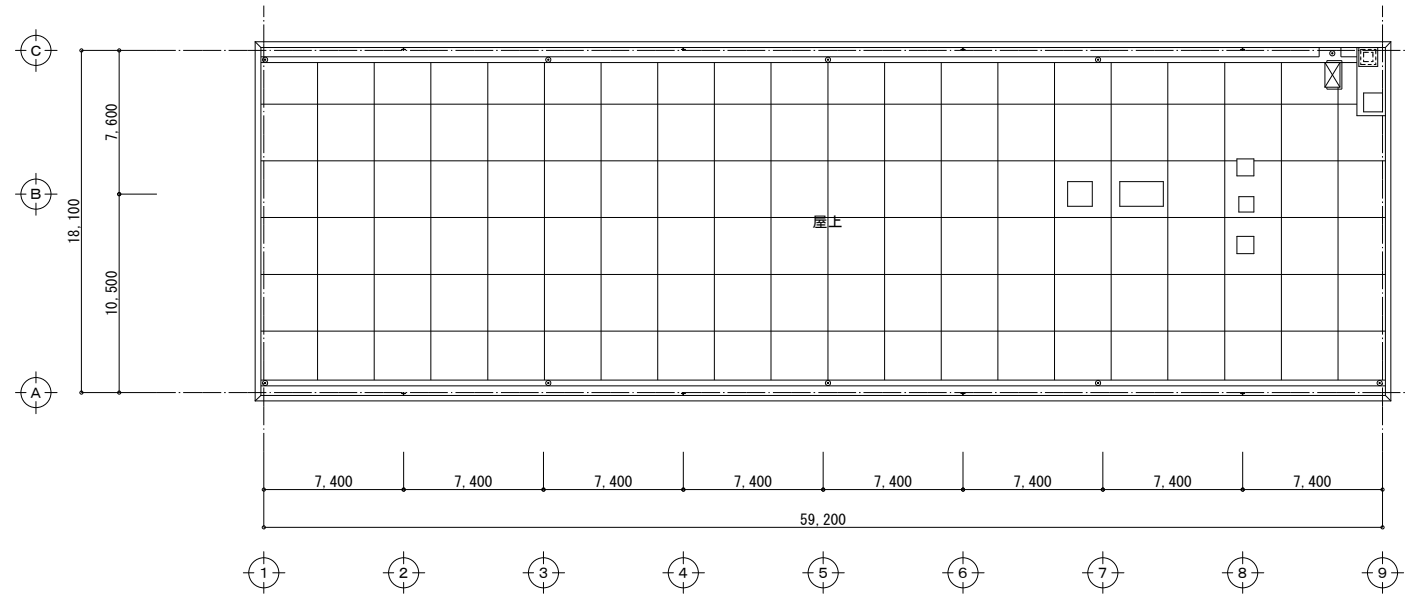
4階平面図

状況及び改修方法一覧

番号	損傷状況	改修方法		
		改修工法	数量	単位
1	壁ボードの破損	パテ補修 (W350×H100) E P 塗装	0.04	m ²
2	壁ボード入隅のすきま	コーキング処理 (H2500)	2.50	m
3	壁ボード入隅のすきま	コーキング処理 (H2500)	2.50	m
4	壁ボード入隅のすきま (2箇所)	コーキング処理 (H2500×2箇所)	5.00	m
5	幅木の破損	既存幅木の撤去・新設 (H75)	0.15	m
6	壁ボード塗装のはがれ	下地調整 E P 塗装 (W6430×H2500)	16.08	m ²

講義棟2号館

総合管理学部棟

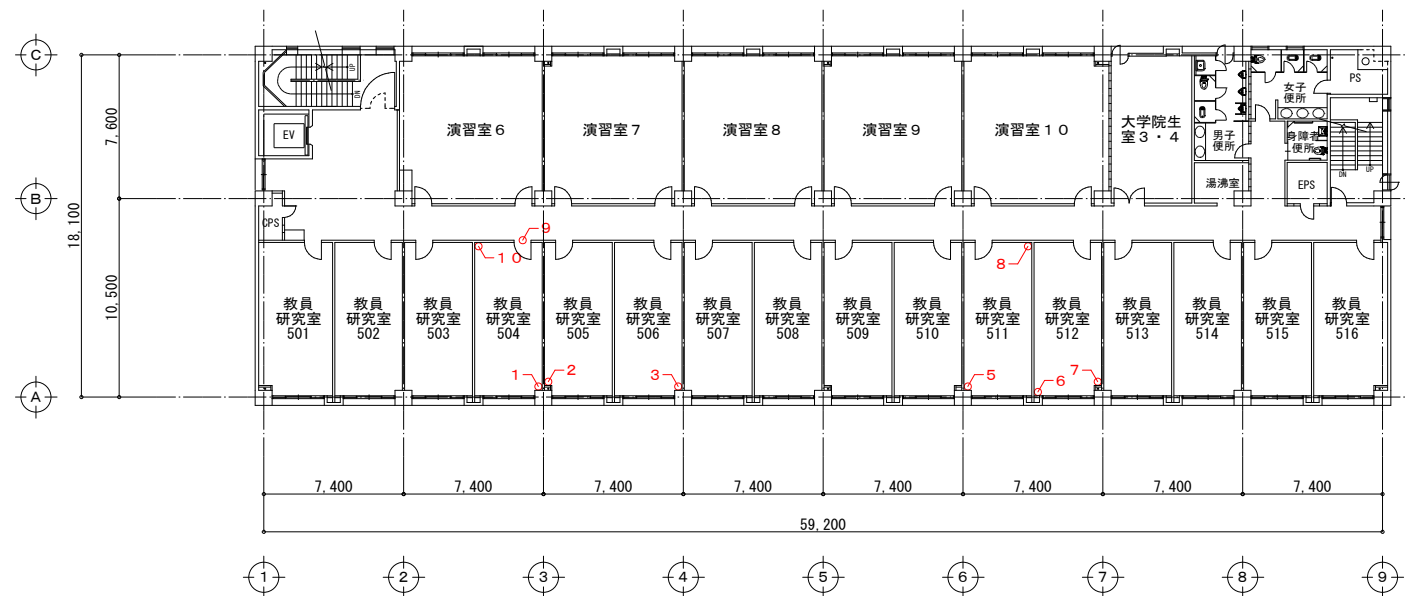


屋根伏図

総合管理学部棟

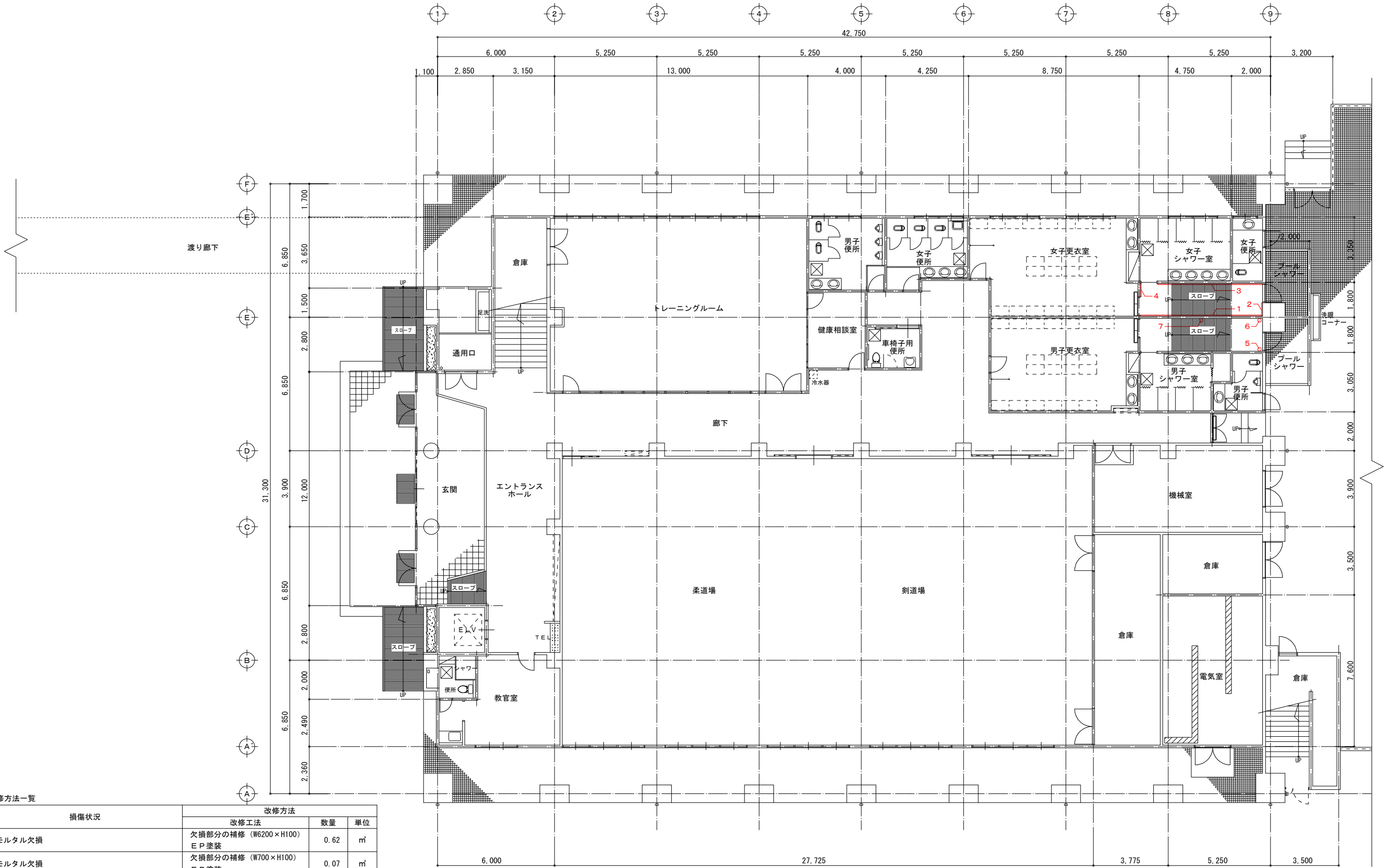
状況及び改修方法一覧

番号	損傷状況	改修方法		
		改修工法	数量	単位
1	壁ボード入隅のすきま	コーキング処理 (H660)	0.66	m
2	壁ボード塗装のはがれ	下地調整 E P 塗装 (W100×H660)	0.07	m ²
3	壁ボード入隅のすきま	コーキング処理 (H660)	0.66	m
4	欠番			
5	壁ボード入隅のすきま	コーキング処理 (H2500)	2.50	m
6	壁ボードの破損	パテ補修 (W300×H100) E P 塗装	0.03	m ²
7	壁ボードの破損	パテ補修 (W350×H100) E P 塗装	0.04	m ²
8	壁ボード塗装のはがれ	下地調整 E P 塗装 (W100×H650)	0.07	m ²
9	建具の故障 (S D)	ストライクプレート取付 (扉サイズ: W900×H2000)	1	箇所
10	壁ボード入隅のすきま	コーキング処理 (H750)	0.75	m



5階平面図

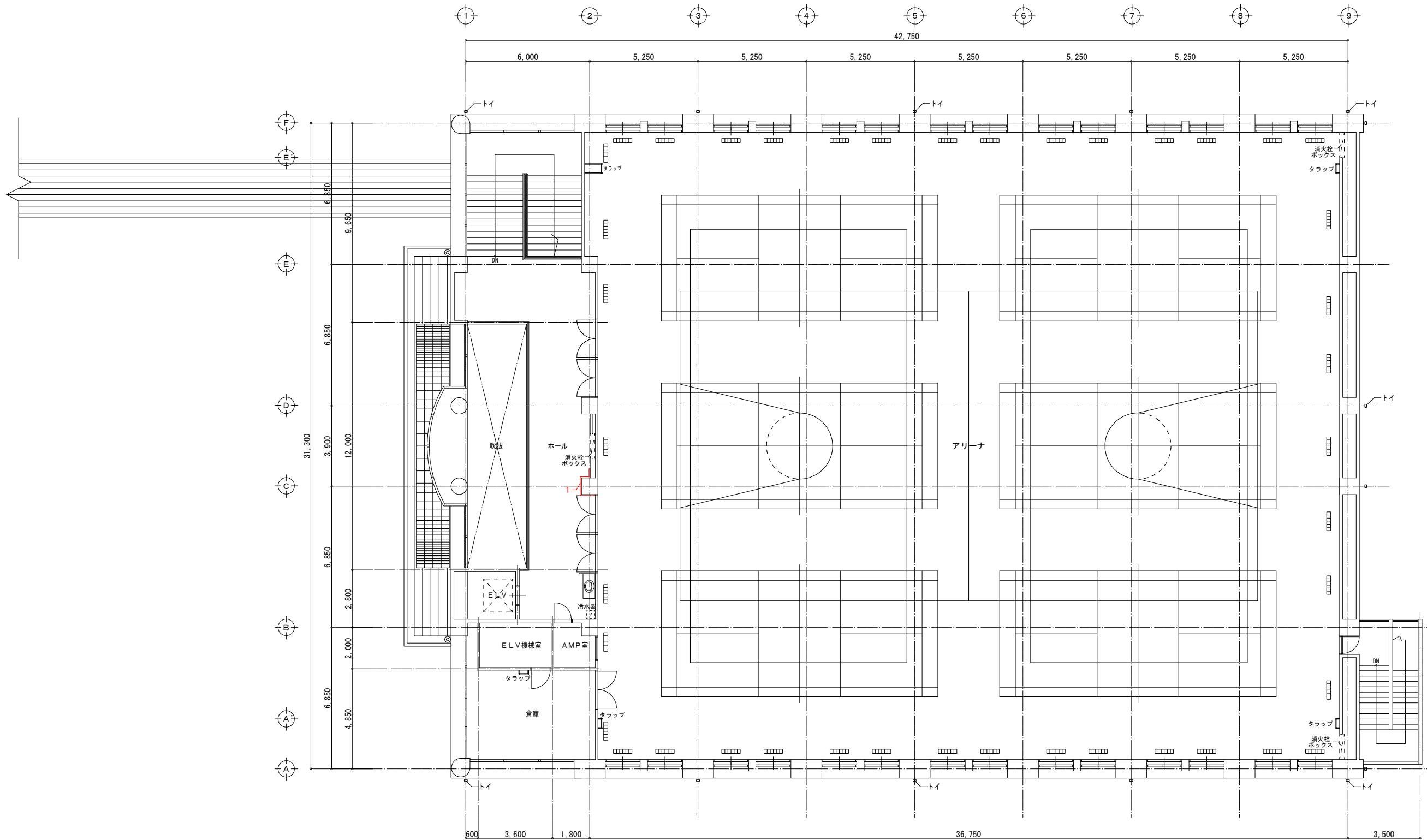
総合管理学部棟



1階平面図

状況及び改修方法一覧

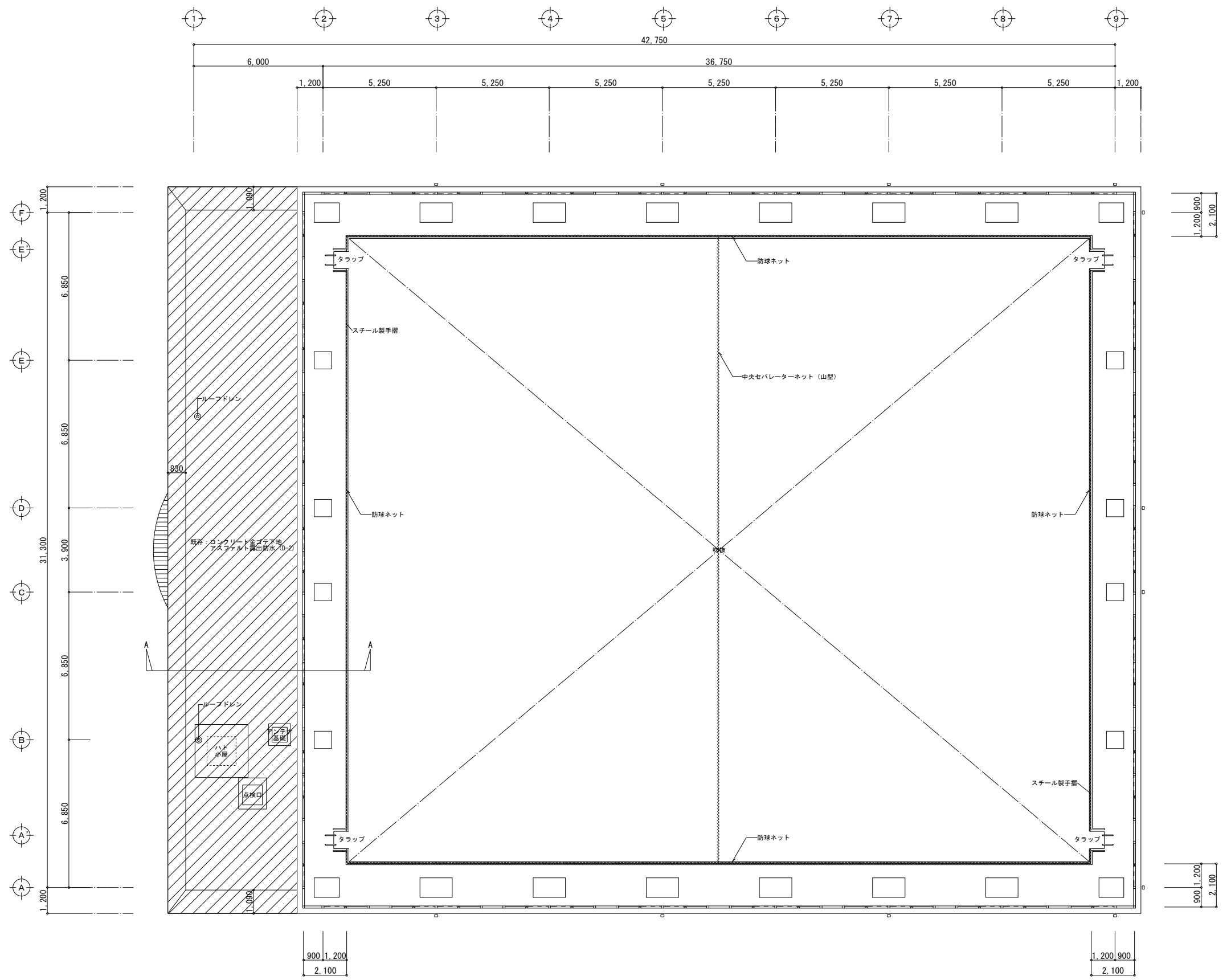
番号	損傷状況	改修方法		
		改修工法	数量	単位
1	モルタル欠損	欠損部分の補修 (W6200×H100) E P 塗装	0.62	m ²
2	モルタル欠損	欠損部分の補修 (W700×H100) E P 塗装	0.07	m ²
3	モルタル欠損	欠損部分の補修 (W4500×H100) E P 塗装	0.45	m ²
4	モルタル欠損	欠損部分の補修 (W400×H100) E P 塗装	0.04	m ²
5	モルタル欠損	欠損部分の補修 (W350×H100) E P 塗装	0.04	m ²
6	モルタル欠損	欠損部分の補修 (W350×H100) E P 塗装	0.04	m ²
7	モルタル欠損	欠損部分の補修 (W1100×H100) E P 塗装	0.11	m ²



2階平面図

状況及び改修方法一覧

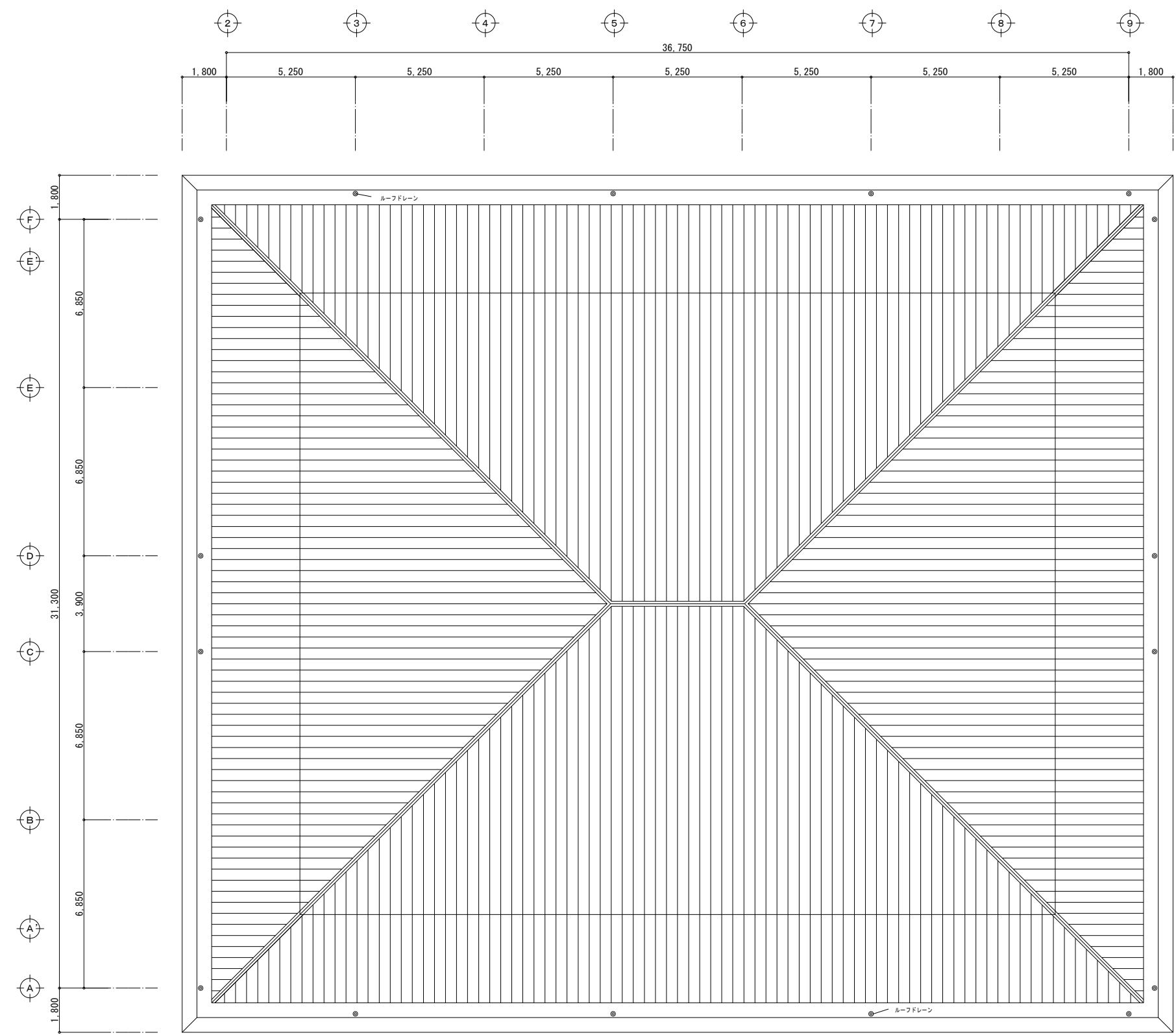
番号	損傷状況	改修方法		
		改修工法	数量	単位
1	幅木の破損 (ビニール幅木)	既存幅木の撤去・新設 (H100)	2.50	m



- 防水改修仕様
- 【既存】
 - ・アスファルト防水
 - 【改修後】
 - ・平場：高圧洗浄・下地活性剤塗布の上、改質アスファルト防水（AS-T2）
 - ・立上り：高圧洗浄・下地調整の上、改質アスファルト防水（AS-T2）
 - ・笠木：高圧洗浄・下地調整の上、ウレタン塗膜防水（密着工法）
 - ・立上り、笠木下地調整：樹脂モルタル t=2程度
 - ・押え金物：L-10×40 t=1.2、シール共

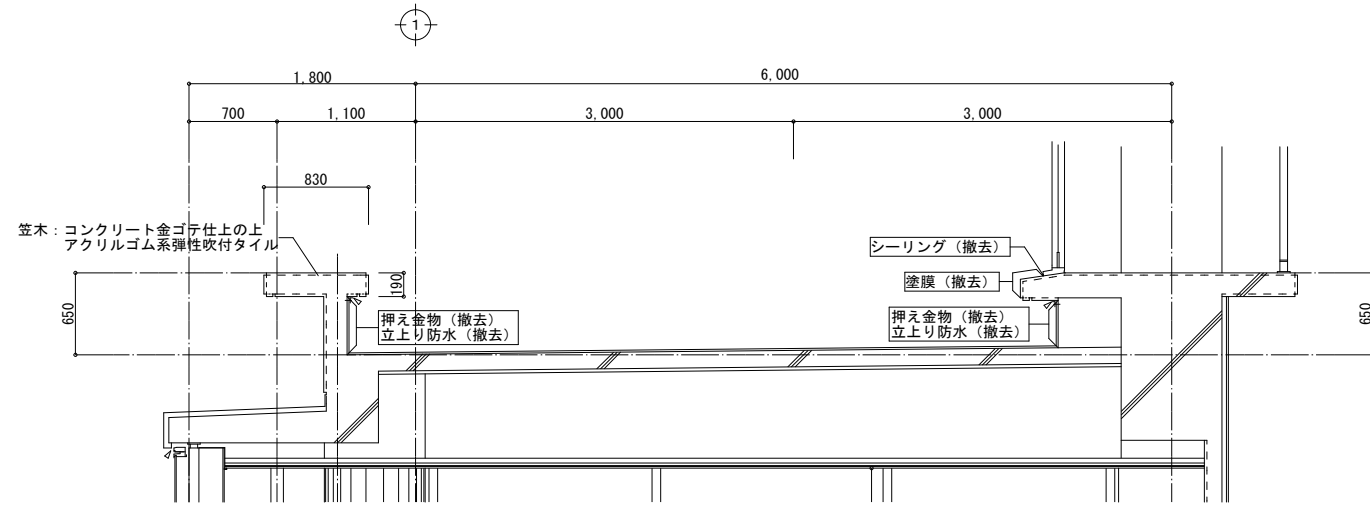
アリーナ上部平面図

※ は、防水改修範囲を示す。



屋根伏図

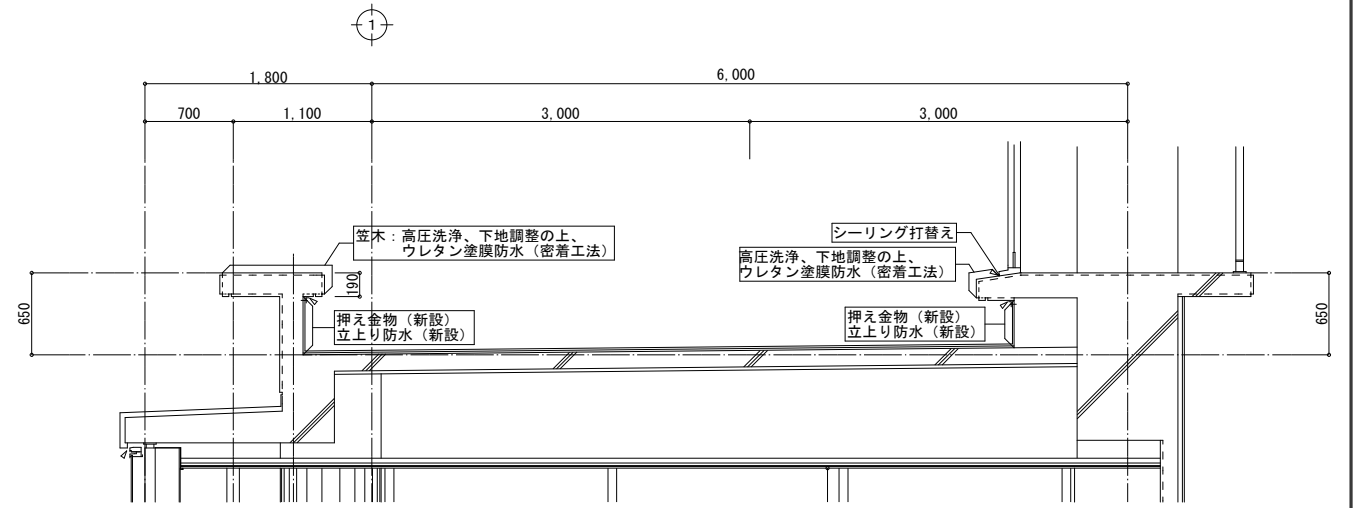
改修前



A-A断面図

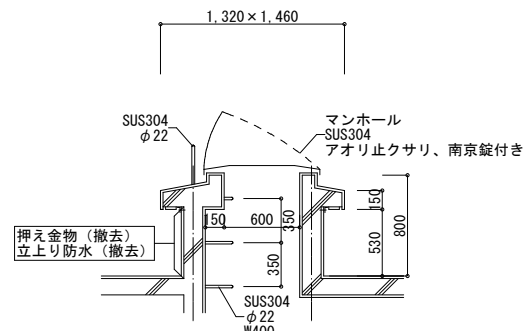
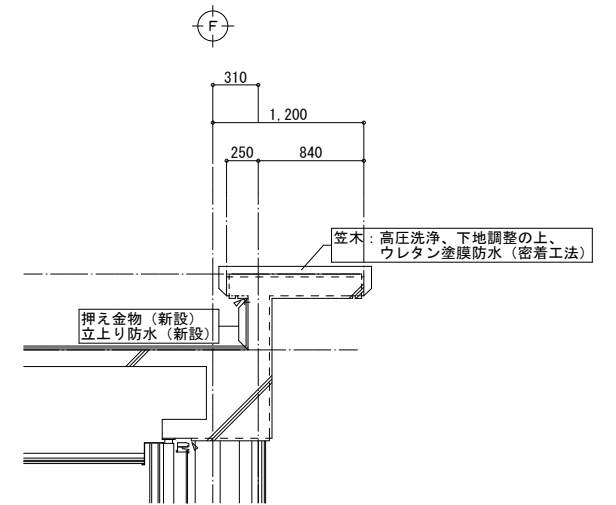
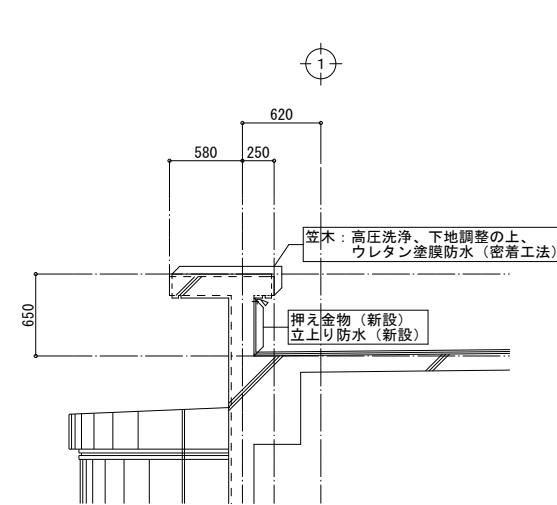
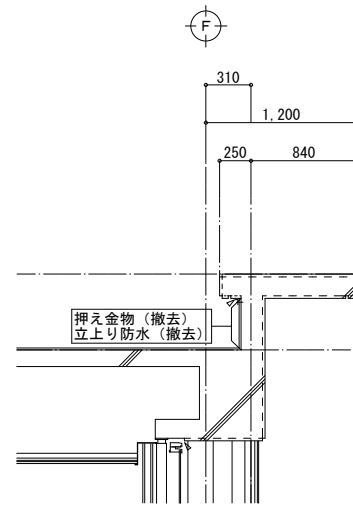
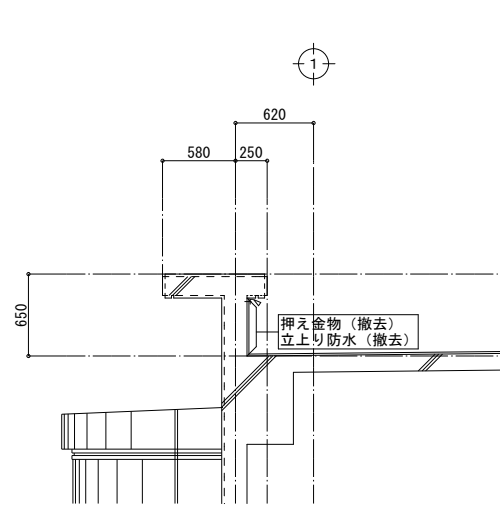
○既存防水仕様
・アスファルト防水

改修後

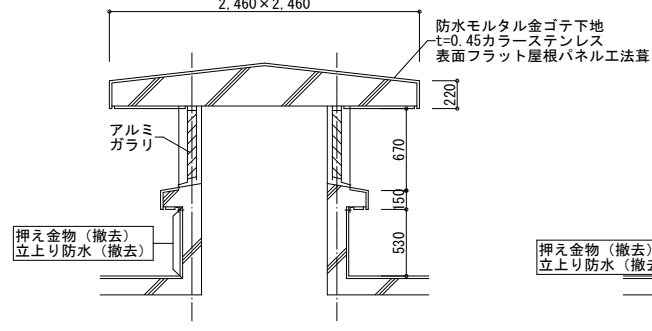


A-A断面図

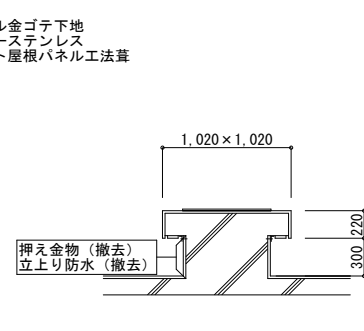
○防水改修仕様
・平場: 高圧洗浄・下地活性剤塗布の上、改質アスファルト防水 (AS-T2)
・立上り: 高圧洗浄・下地調整の上、改質アスファルト防水 (AS-T2)
・笠木: 高圧洗浄・下地調整の上、ウレタン塗膜防水 (密着工法)
・立上り、笠木下地調整: 樹脂モルタル t=2程度
・押え金物: L-10×40 t=1.2、シール共



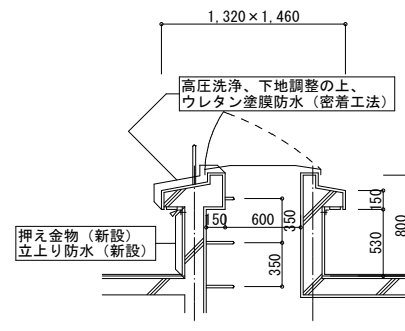
屋上点検口



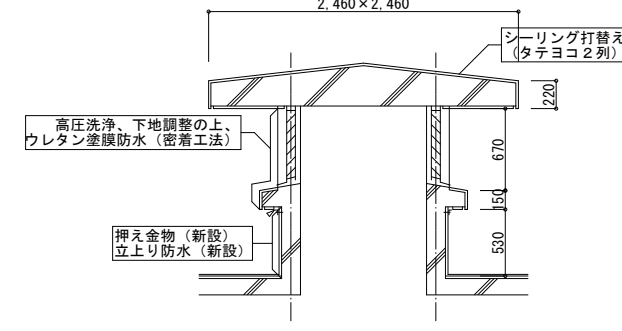
ハト小屋



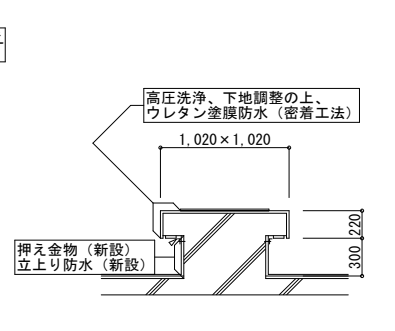
アンテナ基礎



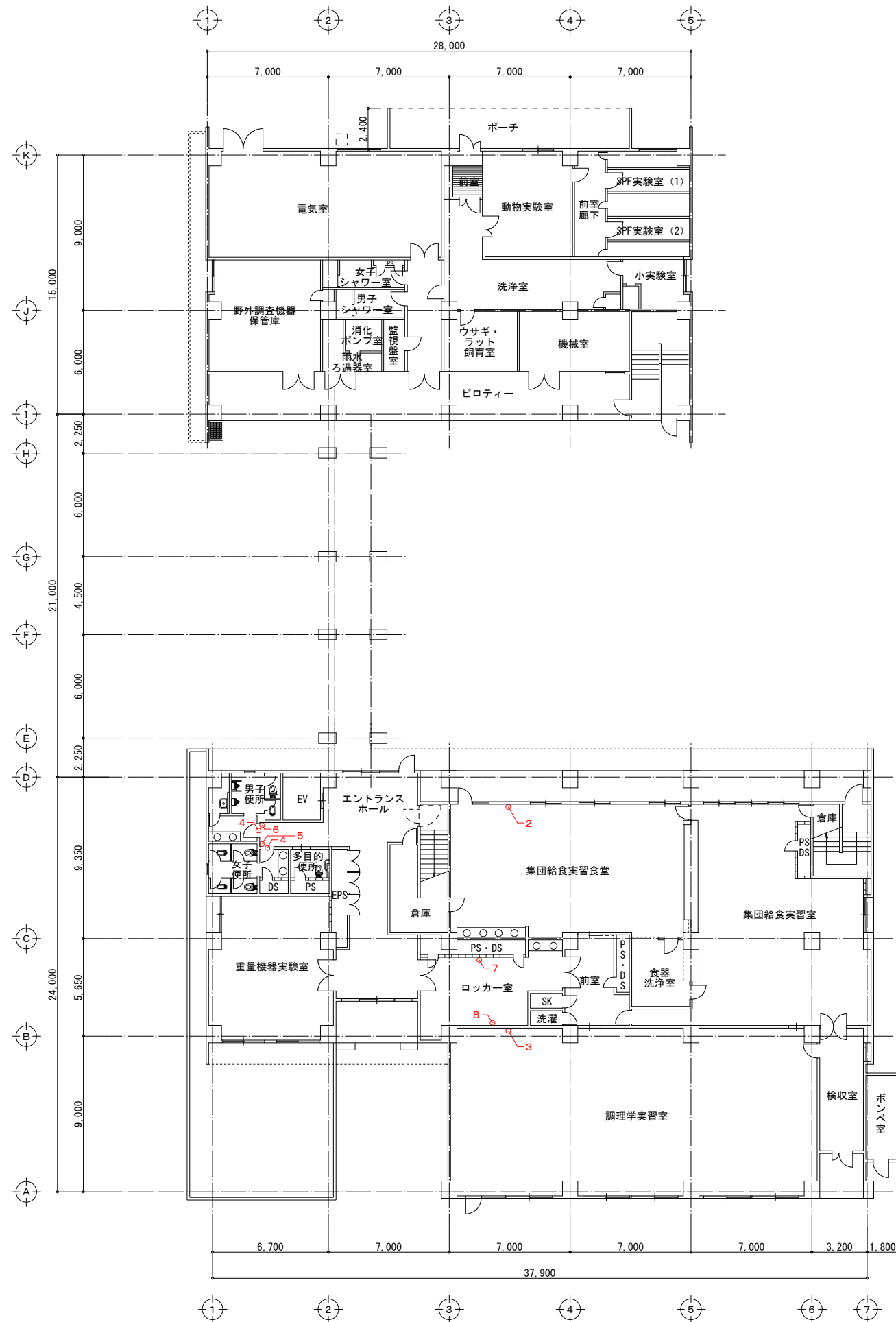
屋上点検口



ハト小屋



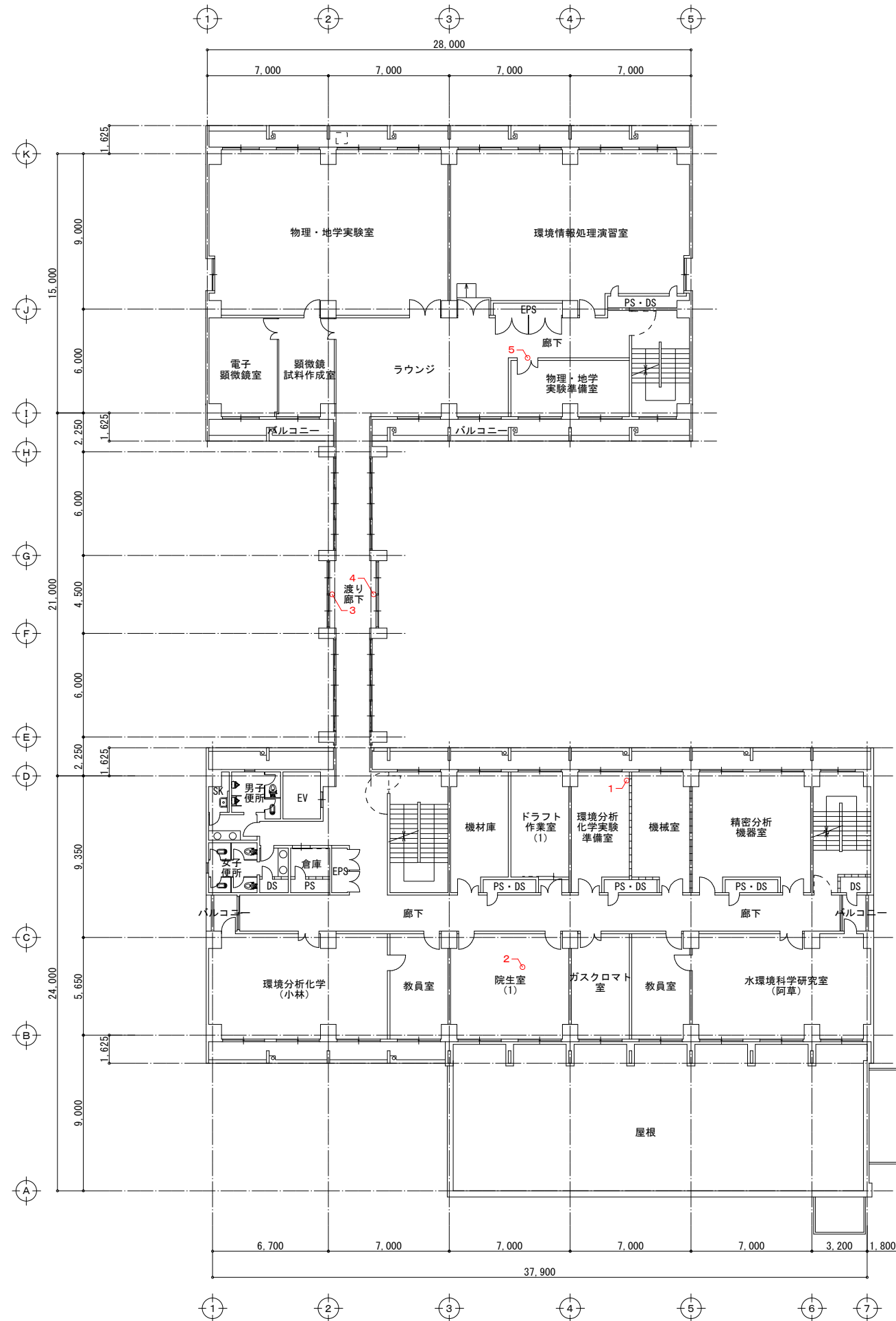
アンテナ基礎



1階平面図

状況及び改修方法一覧

番号	損傷状況	改修方法		
		改修工法	数量	単位
1	欠番			
2	壁ボードの破損	パテ補修 E P 塗装 (W100×H100)	0.01	m ²
3	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入 E P 塗装 (W100×H1200)	1.20	m
4	扉開閉不良 (A D 2箇所)	ドアクローザーの交換 (扉サイズ: W750×H2000)	2	箇所
5	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入 E P 塗装 (W3250×H100)	3.25	m
6	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入 E P 塗装 (W850×H100)	0.09	m
7	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入 E P 塗装 (W100×H1700)	1.70	m
8	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入 E P 塗装 (W3000×H100)	3.00	m



状況及び改修方法一覧

番号	損傷状況	改修方法		
		改修工法	数量	単位
1	壁ボードの穴あき	パテ補修 EP塗装 (W100×H200)	0.02	m ²
2	ビニル床タイルのはがれ	ビニル床タイル撤去・新設 (t2 300角)	0.09	m ²
3	壁ひび割れ	下地調整 EP塗装 (W3880×H350)	1.36	m ²
4	壁ひび割れ	下地調整 EP塗装 (W3880×H350)	1.36	m ²
5	建具開閉不良 (SD)	建具扉の調整 (扉サイズ: W1200×H2000 親子扉)	1	箇所



3階平面図

状況及び改修方法一覧

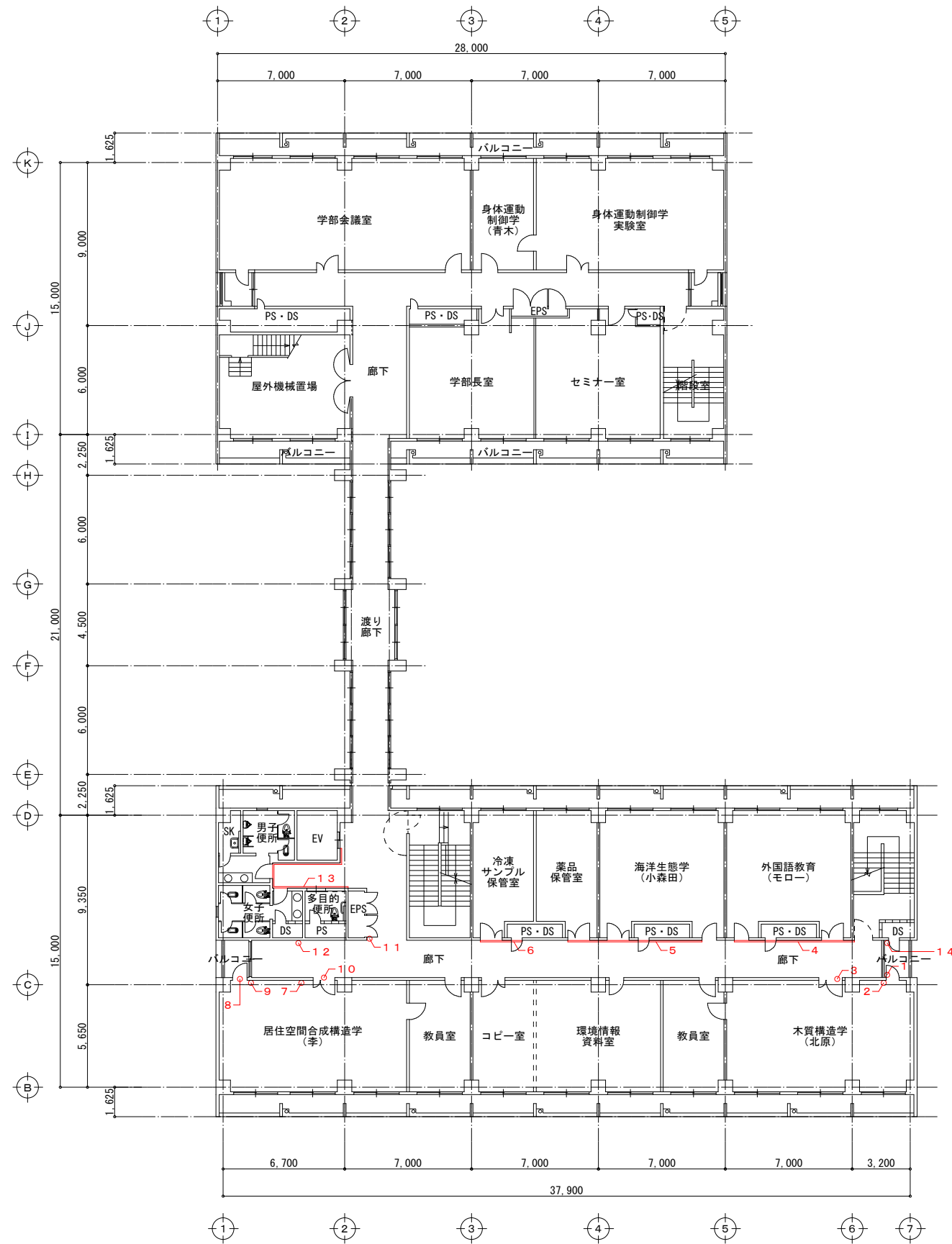
番号	損傷状況	改修方法		
		改修工法	数量	単位
1	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入	1.60	m
		E P 塗装 (W1600×H100)	0.16	m ²
2	扉開閉不良 (A D 2箇所)	建具扉の調整 (原サイズ: W750×H2000)	2	箇所
3	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入	4.30	m
		E P 塗装 (W4300×H100)	0.43	m ²
4	壁ボードクラック	コーキング処理	2.50	m



4階平面図

状況及び改修方法一覧

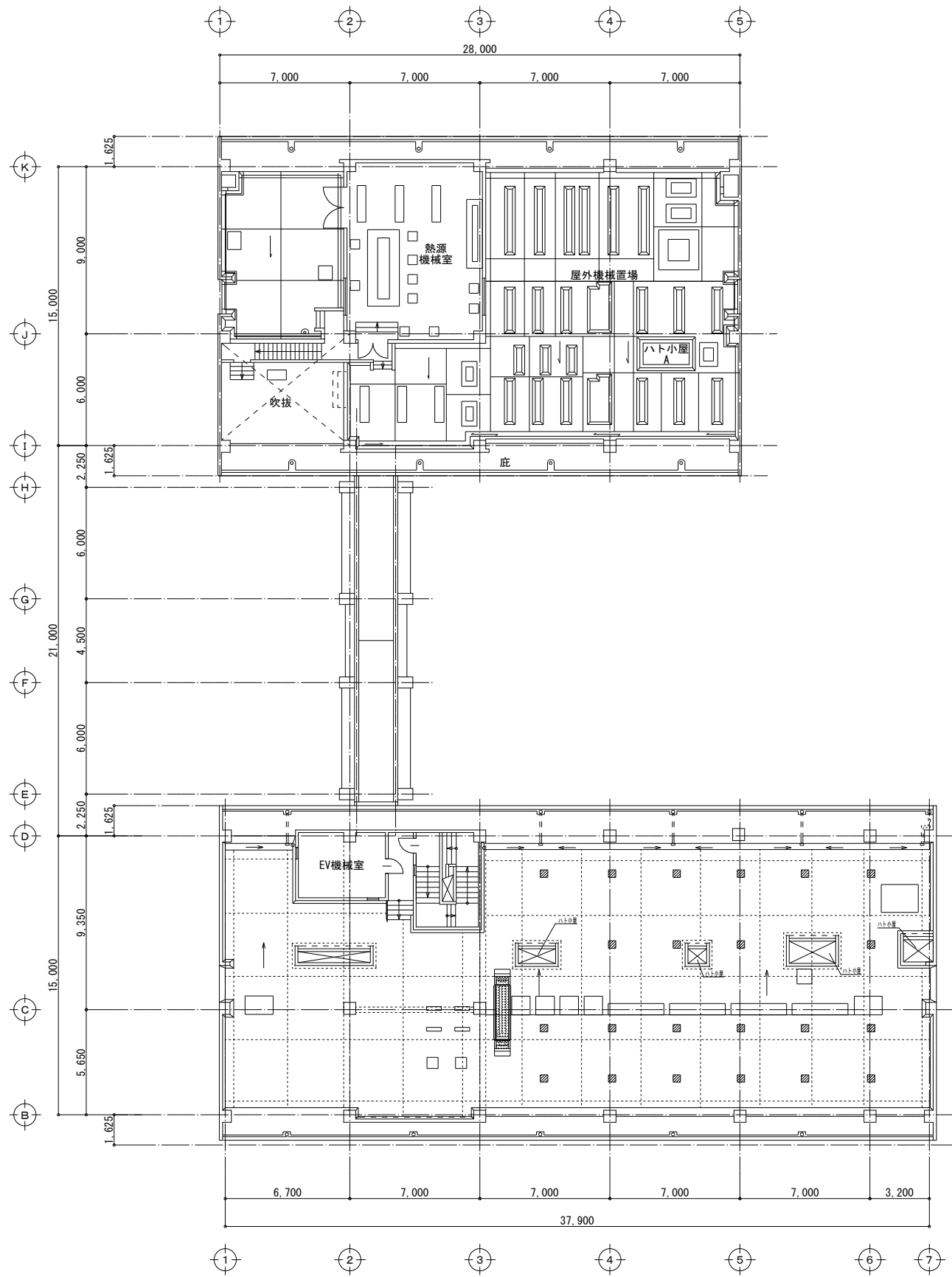
番号	損傷状況	改修方法		
		改修工法	数量	単位
1	扉押手プレート外れ (A D)	押板取替え	1	箇所
2	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入	0.90	m
		E P 塗装 (W900×H100)	0.09	m ²
3	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入	0.45	m
		E P 塗装 (W450×H100)	0.05	m ²
4	壁ひび割れ	下地調整	1.36	m ²
		E P 塗装 (W3880×H350)		
5	壁ひび割れ	下地調整	1.36	m ²
		E P 塗装 (W3880×H350)		
6	壁ボード塗装のはがれ	下地調整	1.22	m ²
		E P 塗装 (W2700×H450)		



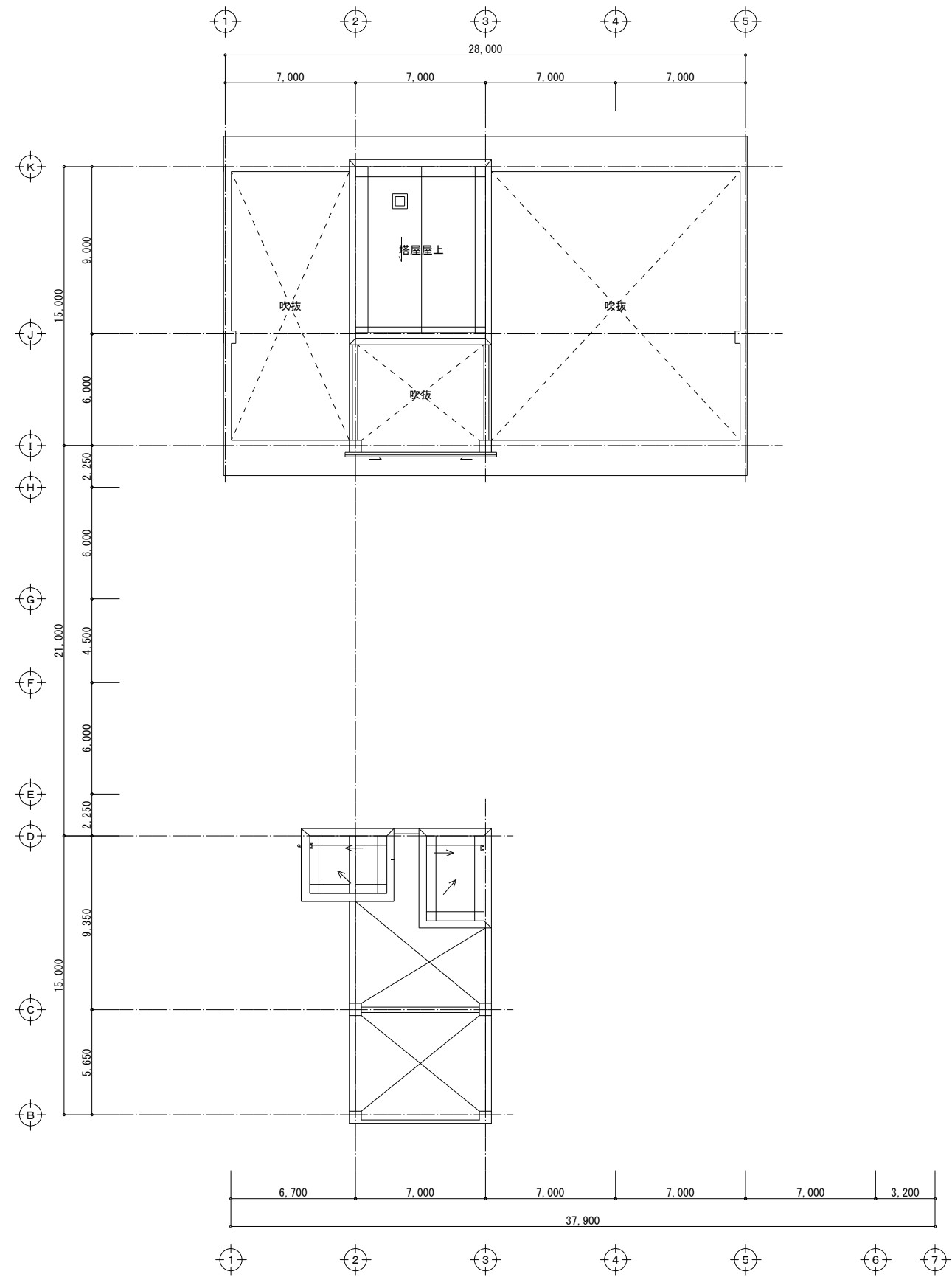
5階平面図

状況及び改修方法一覧

番号	損傷状況	改修方法		
		改修工法	数量	単位
1	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入	0.40	m
		複層塗材 E (W100×H400)	0.04	m ²
2	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入	0.70	m
		E P 塗装 (W100×H700)	0.07	m ²
3	建具調整 (SD)	ドアクローザーの交換 (原サイズ: W900×H2000)	1	箇所
4	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入	15.65	m
		E P 塗装 (W15650×H100)	1.57	m ²
5	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入	8.17	m
		E P 塗装 (W8170×H100)	0.82	m ²
6	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入	6.30	m
		E P 塗装 (W6300×H100)	0.63	m ²
7	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入	1.55	m
		E P 塗装 (W1550×H100)	0.16	m ²
8	建具開閉不良 (AD)	建具扉の調整 (原サイズ: W700×H1800)	1	箇所
9	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入	1.70	m
		E P 塗装 (W1700×H100)	0.17	m ²
10	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入	2.45	m
		E P 塗装 (W2450×H100)	0.25	m ²
11	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入	1.20	m
		E P 塗装 (W1200×H100)	0.12	m ²
12	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入	3.25	m
		E P 塗装 (W3250×H100)	0.33	m ²
13	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入	13.23	m
		E P 塗装 (W13230×H100)	1.32	m ²
14	壁ひび割れ	エポキシ樹脂注入	0.40	m
		複層塗材 E (W100×H400)	0.04	m ²



6階平面図



屋根伏図